足立區　三人　　向島區　三人
城東區　三人　　葛飾區　二人
江戸川區　二人

附則

本條例ハ次ノ選擧ヨリ其ノ選擧ニ依リ選出セラルヘキ議員ノ在任期間中之ヲ施行ス

昭和四年二月二十日市條例第一號東京市會議員各選擧區選出數條例ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

説明　市會議員定數增加ニ伴ヒ各選擧區選出議員數ヲ改正スルノ必要アルニ依リ本案ヲ提出ス。

（參照）

市制抄錄

第十六條　第三項第六條ノ市ニ於テハ區ヲ以テ選擧區トス其ノ各選擧區ヨリ選出スル議員數ハ市條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

（參照）

東京市會議員各選擧區選出數條例

各選擧區ヨリ選出スル市會議員數左ノ如シ

| 選擧區 | 議員數 | 選擧區 | 議員數 | 選擧區 | 議員數 |
|---|---|---|---|---|---|
| 麹町區 | 三人 | 神田區 | 五人 | 日本橋區 | 五人 |
| 京橋區 | 五人 | 芝區 | 七人 | 麻布區 | 四人 |
| 赤坂區 | 三人 | 四谷區 | 四人 | 牛込區 | 五人 |
| 小石川區 | 六人 | 本郷區 | 六人 | 下谷區 | 七人 |
| 淺草區 | 九人 | 本所區 | 八人 | 深川區 | 七人 |

附則



本條例ハ次ノ總選擧ヨリ其ノ選擧ニ依リ選出セラルヘキ議員ノ在任期間中之ヲ施行ス

大正十一年四月一日市條例第一號東京市會議員各選擧區選出數條例ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

## 第參拾節　東京市會會議規則竝傍聽人取締規則中改正ノ件

左案ハ九月二十九日ノ會議ニ於テ即決可決セラレタリ。

東京市會々議規則竝傍聽人取締規則中改正ノ件

右提出候也

昭和七年九月二十九日

提出者

溝口信　小澤佐重喜　小林半三郎
杉ノ原英太郎　深澤豐太郎　國枝捨次郎
富岡袖吉　河村慶治郎　鹽月學
高橋庄之助　安部利七　川村正夫
小野養治　田代義德　新甫寛實
高木謙　詫摩武彦　岡田和一郎
山口久吉　村田忠三郎　北條彦四郎
倉持忠助　中西敏二　中川重政

岡田四郎　高橋秀臣　長嶋武治
柳田宗一郎　池田清秋　大野傳吉
松浦清三郎　増田知治雄　高橋俊太
岸邊福雄　本田義成　山田種三郎
川手忠義　島中雄三　和田操
馬嶋倜　八太茂　長野高一
佐藤庄吾　中塚榮次郎　森兼道
森健二　島本龍太郎　友成四郎
森原嘉逸　松永東　阿部溫知
高崎高次郎　鈴木慶四郎　卯木國三郎
橋本祐幸　小久保時之助　土倉宗明
嶋名建　大崎清作　加藤正信
茂木太市　羽田如雲　富田富治郎
本多市郎　糟谷磯平

東京市會會議長大神田軍治殿

東京市會會議規則中改正ノ件

東京市會會議規則中左ノ通改正ス

第四條　會議ハ午後二時ニ始マリ同七時ニ終ル時宜ニ依リ變更スルトキハ議長之ヲ定ム異議アルトキハ會議ノ決ヲ採ルヘシ

第八條　議長ハ市會招集中會議ニ付スヘキ事項ヲ指示シ議員定數五分ノ一以上ノ請求アリタルトキハ十日以内ニ會議ヲ開クヘシ

第九條　議員ノ提案又ハ議案ニ對スル修正其ノ他ノ動議ハ三名以上ノ賛成者アルニ非レハ議題ト爲スコトヲ得ス

第十二條　議員議案ニ直接關係ナキ市ノ事務ニ關シ質問セントスルトキハ議事ニ先チテ之ヲ爲スヘシ

質問ハ簡明ナル趣意書ヲ作リ賛成者七名以上ト共ニ記名シテ會議ノ前日迄ニ之ヲ議長ニ提出スヘシ

質問ハ議長速ニ之ヲ市長ニ通知スヘシ

會議ノ同意ヲ得タルトキハ前三項ノ規定ニ依ラスシテ質問ヲ爲スコトヲ得

第三十條　議長採決セントスルトキハ議題ヲ可トスル者ヲ起立セシメ可否ノ結果ヲ宣告スヘシ

前項ノ宣告ニ對シ異議ヲ唱フル者十五名以上ニ達スルトキハ議長ハ記名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ

第三十一條　採決ハ議長ノ意見又ハ議員十五名以上ノ要求ニ依リ記名又ハ無記名ノ投票ヲ用フルコトヲ得異議アルトキハ討論ヲ須キスシテ會議ノ決ヲ採ルヘシ

第三十二條　記名若ハ無記名投票ヲ行フトキハ議場ノ入口ヲ閉鎖スヘシ

第三十三條　投票ヲ終リタルトキハ議長ハ其結果ヲ宣告スヘシ

第三十五條　會議ノ事件ニ付内議ヲ要スルトキハ議長ノ意見又ハ議員十五名以上ノ要求ニ依リ全議員ヲ委員トナシ議事ヲ開クコトヲ得異議アルトキハ會議ノ決ヲ採ルヘシ

第三十六條　議案ノ調査又ハ修正ヲ要スルトキハ議長ノ意見若ハ議員三名以上ノ請求ニ依リ會議ノ決ヲ採リ議員中ニ就キ特別委員ヲ選定スヘシ

第三十八條　委員ハ議員之ヲ選擧ス但シ會議ニ於テ議長ノ指名ニ委スルコトヲ得委員選擧ノ方法ハ單記無記名投票ニ依ル得票同數ナルトキハ年長者ヲ取リ年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條　委員會ハ議長之ヲ招集シ委員長一名ヲ互選セシム其ノ後ノ委員會ハ委員長之ヲ開閉ス

委員會ニ於テ必要アリト認ムルトキハ委員中ヨリ一名又ハ數名ノ理事ヲ互選シ委員長故障アルトキハ其ノ職務ヲ代理セシム

委員長及理事ノ選擧ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第四十條　委員會ハ委員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキハ委員長ハ速ニ之ヲ開會スヘシ

第五十四條　議員市制竝本規則ニ違反シタルトキハ議長ノ意見又ハ議員十名以上ノ要求ニ依リ會議ノ議決ヲ以テ三日以内出席ヲ停止スルコトアルヘシ

第五十五條　本規則ノ疑義ハ議長之ヲ決ス異議アルトキハ會議ノ決ヲ採ルヘシ

第五十六條　本規則ノ改正ハ議員定數五分ノ一以上ノ要求アルニ非サレハ之ヲ會議ニ付スルコトヲ得ス

理由　市域ノ擴張及議員定數ノ增加ニ伴ヒ會議規則中改正ノ必要ヲ認メタルニ由ル

東京市會傍聽人取締規則中左ノ通改正ス

第三條中「二百名」トアルヲ「三百名」ト改ム

理由　議員定數ノ增加ニ伴ヒ改正ノ要アルニ由ル

## 第參拾壹節　新市域選出ノ市會議員當選報告ト議長及市長ノ挨拶

十月一日ニ實行セラレタル市域擴張ニ伴ヒ、十一月五日新區ニ於テ市會議員選擧執行ノ結果、左ノ通當選セル旨市長ヨリ同月二十九日開會ノ市會ニ報告アリタリ。

品川區　高木正年　石原永明　歌橋憲一　秋澤吉藏

目黑區　神山錠五郎　角田光五郎

荏原區　石井良太郎　鏑木小平次　伊藤武七郎

大森區　永久保新藏　酒井熊次郎

蒲田區　吉田直治　代田朝義　田中祐貞

世田谷區　鈴木堅次郎　河野惣八

澁谷區　豐田正治

朝倉虎治郎　吉田丕文　川田友之　秋山文次

淀橋區

萩島茂留　小針孫太郎　佐藤榮志

中野區

森俊成　關口新太郎　花村四郎

杉並區

内田秀五郎　高橋德三郎　淺川保平

豐島區

中村梅吉　山口玉造　田中靜衞　後藤松之助

布施泰治

瀧野川區

有馬淺雄　戸枝鐐太郎

荒川區

林連　山口久太郎　天野賴義　櫻井廣直

丸山秀天　遠山丙市

王子區

鈴木仙八　中村邦

板橋區

水村清　篠房輔

足立區

板垣信春　吉田四郎平　伊東喜八

向島區

大澤梅次郎　有馬秀雄　小宮次郎七

城東區

山田清　小川銀藏　宇田川啓輔

葛飾區

安藤德雄　茂澤茂富

江戸川區

田中源　島田文治

同日ノ會議劈頭ニ於テ、**議長**(副議長溝口信君)ハ述ベテ曰ク、去ル十月一日隣接五郡八十二箇町村ガ本市ニ併合セラレ、玆ニ世界第二ノ都市タル大東京市ノ實現ヲ見ルニ至リタルハ、洵ニ同慶ノ至ニ堪ヘズ、吾ガ東京市會ニ於テモ、今ヤ總員百四十四名、大東京市ノ議決機關トシテ遺憾ナキ陣容ヲ整フルヲ得タリ、此際新市民三百萬ノ輿望ヲ擔ツテ芽出度ク當選セラレタル六十名ノ諸君ニ對シ、謹ミテ祝意ヲ表スルト共ニ、吾々ノ責任ノ益々重且ツ大ナルヲ思ヒ、一層ノ努力ヲ試ミザルベカラズト思惟ス、大東京市最初ノ會議ニ方リ、一言挨拶ヲ陳ブト。

次イデ諸般ノ報告ヲ終リタル後、**永田市長**モ亦左ノ如ク挨拶セリ。

吾々ガ多年熱望シ來リタル大東京市建設ノ事業モ、幸ヒニ諸君ノ多大ナル盡力ニ依リ、去ル十月一日芽出度ク完成ヲ告ゲタルハ、五百萬市民諸君ト共ニ深ク同慶ニ堪ヘザル所ナリ、而シテ今日初メテ此議場ニ於テ從來ノ二百萬市民ノ代表者諸君ニ加ヘテ、新市域三百萬市民ヲ代表セラル、諸君ヲ迎ヘ、茲ニ百四十四名ノ多數市會議員諸君ガ一堂ニ會シ、大東京市將來ノ施設經營ニ關シ、共ニ俱ニ協議ヲ遂グルコトヲ得ルハ、余ノ無上ノ欣快トスル所ナリ、蓋シ東京市ガ斯ノ如ク年ト共ニ隆盛ニ赴クコトハ、主トシテ一國ノ首府タリ帝都タルガ爲ナルコトヲ思ヘバ、吾々ハ大東京市建設ノ完成ニ付キ、特ニ吾ガ皇室ニ對スル感謝ノ念ヲ深クスル次第ナリ、第二ニハ、日本ノ全國民ガ吾ガ東京市ニ多大ノ後援ト同情トヲ寄與スルコトニ對シテ感謝セザルベカラズ、更ニ第三ニハ、大東京市建設ノ基礎ヲ作リタル吾ガ先輩諸氏ノ隱レタル功績ニ對シテ是レ亦深ク感謝セザルベカラズト考フ。諺ニ曰ク、喬木風多シト、今ヤ東京市ハ一躍シテ世界第二ノ都會ト爲リタレバ、常ニ强風ノ襲來ニ對スル覺悟ト準備トヲ有セサルベカラズ、吾々ハ相戒メ相助ケテ、苟モ天下ノ同情ヲ失フガ如キコトナキヲ努メ、以テ大東京市將來ノ發達ヲ期セザルベカラズ。抑ゝ吾々ガ大東京市ヲ建設シタル主ナル目的ハ、固ヨリ單ニ二百萬ノ市民ヲ五百萬ニ增加シ、或ハ世界第二ノ都會ト爲スト云フガ如キ形式的ノ名ヲ求メタルニ在ラズシテ、同一ノ都會生活ヲ爲スベキ者ガ、同一ノ行政組織ノ下ニ統一サレテ、最モ經濟的ニ最モ合理的ニ、幸福ナル市民生活ヲ享受セントスルニ在リ、而モ此大目的ヲ達成スルガ爲ニハ、將來諸君ト共ニ非常ナル努力ヲ拂ハザルベカラズト信ズルガ故ニ、吾々モ駑鈍ニ鞭チテ之ガ爲ニ全力ヲ傾倒スベキハ勿論ナルモ、特ニ五百萬市民諸君ヲ代表セラル、各位ニ於カレテハ、充分ニ此點ヲ考慮セラレムコトヲ切望シテ已マザル次第ナリ。而シテ此際余ハ特ニ市民諸君竝ニ各位ニ對シテ希望ヲ述ベント欲ス。第一ハ舊市域ノ二百萬市民諸君ト新市域ノ三百萬市民諸君トノ間ノ相互ノ理解ナリ、兩者ノ間ニ毫モ意思ノ疎隔ヲ見ルガ如キコトナク、彼我互ニ能ク理解スルコトハ、余ノ最モ希望スル所ニシテ、即チ二百萬ノ舊市民諸君ニ對シテハ、余ハ新市域ノ人々ガ今日新タニ東京市民ト爲リテ如何ナル事ヲ希求スルカ、又如何ナル從來ノ不便ヲ除カント欲スルカヲ正シク理解スルガ爲ニ、地位ヲ換ヘテ考察スルノ雅量ヲ示サレムコトヲ希望スルト同時ニ、新市域三百萬ノ市民諸君ニ對シテ余ノ特ニ希望スル點ハ、新市民諸君ノ加入ニ際シ、舊市民諸君ハ果シテ如何ナル感ヲ抱キ、如何ナル憂慮ヲ有スルカ、而カモ其レハ如何ナル程度マデ當然ナルカヲ地位ヲ換ヘテ考察スルコト是ナリ、斯ノ如ク互ニ地位ヲ換ヘテ考察シ以テ相諒解スルコトニ依リ、大東京ハ初メテ渾然タル一體ト爲ルヲ得ベシ。更ニ余ハ諸君ニ對シテ猶一ノ希望アリ、吾々ガ今後大東京ノ實質ヲ改善スルニ付テハ、特ニ忍耐ノ必要ナルコト即チ是ナリ、此言或ハ陳腐ノ感アランモ、五百萬ノ市民諸君ガ一ノ自治團體ヲ作ルコトハ、日本ニ於テ未ダ曾テ實驗セラレザル所ナルガ故ニ、實際問題ニ關シテハ多種多樣ノ困難ト感情ノ疎隔等ニ逢着スルコトナキヲ保セズ、其間互ニ能ク理解シテ圓滑ニ進行スルガ爲ニハ、忍ビ難キヲ忍ブノ覺悟ナカルベカラズ、求ムルコト急ナレバ、往々ニシテ破綻ヲ生ジ易シ、吾人ハ須ク忍耐ノ上ニモ忍耐シテ、大東京建設ノ終局ノ目的ヲ達成スルコトニ努メザルベカラズ、今日茲ニ新議員諸君ヲ迎ヘテ慶祝ノ意ヲ表スルト共ニ、今後互ニ相助ケテ終局ノ大目的ノ達成ヲ期センコトヲ切望シ、且ツ余ニ對シテハ公私共ニ充分ノ鞭撻ヲ與ヘラレンコトヲ希フ次第ナリ。

## 第參拾貳節　都制ニ關スル實行委員意見報告

昭和年間　第貳章　昭和七年　第參拾壹節　新市域選出ノ市會議員當選報告ト議長及市長ノ挨拶　第參拾貳節　都制ニ關スル實行委員意見報告

十一月二十九日ノ會議ニ於テ、都制ニ關シ左ノ報告アリタリ。

都制ニ關スル實行委員意見報告

委員ハ別紙ノ通議決セリ

右報告候也

昭和七年十一月二十五日

東京市會議長　大神田軍治殿

委員長　田代義德

都制ニ關スル實行委員意見報告

委員ハ本市カ帝國ノ首都トシテ政治文化ノ中心タル特殊ノ地位ヲ有スル點竝自治ノ根本精神ニ鑑ミ特ニ制定セラレムトスル氣運ニ在ル東京都制案ハ左記要綱ヲ骨子トスルヲ至當ト認ムルヲ以テ之ニ依リ實施ヲ期スヘク促進運動ヲ繼續シ目的ノ達成ニ努力セムトス

記

一　名稱　東京都又ハ東京市トスルコト

一　地域　現在市ノ區域ヲ以テ其ノ區域トシ二重監督ノ撤廢ヲ期ス但シ東京府ノ殘存區域ニ對シテハ特別ノ制度ヲ設ケ都(市)ト密接ナル聯繫ヲ保タシムルコト

一　公民權

イ　年齡　男子ハ滿二十歲以上、女子ハ滿二十五歲以上トス

ロ　住居　滿一年以上本都(市)內ニ居住スルコト

一　都會又ハ市會　現在市會ノ有スル權限及府會ノ有スル權限中都(市)ニ必要ナル事項トス但シ都(市)會ノ有スル權限中其ノ一部ヲ都(市)會ノ決議ヲ經テ區會ニ委讓シ得ルコト

一　區會　區會ノ權限ハ現在有スル事項ノ外都(市)會ヨリ委讓セラレタル事項ヲ加フ

一　都長又ハ市長　公選トシ其ノ選擧方法ハ現行ニ依ル

一　財政　現在府ノ有スル課稅權其ノ他ヲ取得シ財政的獨立ヲ爲スコト

一　警察權　交通、衞生、消防、建築、營業、產業等ニ關スル警察權ヲ取得スルコト

一　選擧　公營ニ依リ選擧スルモノトス

本報告ハ**小澤佐重喜君**ノ動議ニ據リ、其決定ヲ次回ニ延期スルニ決シタルガ、昭和八年三月ノ市會議員總選擧ノ爲メ自然消滅ニ歸セリ。

## 第參拾參節　市會議員異動

昭和七年中ニ於ケル市會議員ノ異動左ノ如シ。

| 選出區 | 氏名 | 年月日 | 摘要 |
|---|---|---|---|
| 本郷區 | 蓮江啓藏 | 昭和七年二月十二日 | 死亡 |
| 下谷區 | 渡龜造 | 同　年二月十四日 | 辭職 |
| 下谷區 | 倉持忠助 | 同　年二月十七日 | 失格 |
| | | 同　年三月二十八日 | 再選擧當選 |

下谷區　長野高一　同年三月二十八日　補缺
小石川區　大崎清作　同年十月十三日　辭職
四谷區　結城禮一郎　同年十二月二十一日　辭職



# 第參章　昭和八年

## 第壹節　各種常設委員竝ニ臨時委員條例設定及改正ノ件

▽**東京市常設委員增加條例設定ノ件**　左記議案ハ一月十六日ノ會議ニ上程、異議ナク即決可決セリ。

第一號

東京市常設委員增加條例設定ノ件

東京市常設委員增加條例左ノ通設定スルモノトス

東京市常設委員增加條例

東京市常設委員中市會議員ヲ以テ充ツル委員左ノ通增加ス

一　養育院常設委員　二人
一　衞生常設委員　七人
一　公園常設委員　十四人
一　社會事業常設委員　十三人

附則

本條例ハ發布ノ日ヨリ施行シ現任市會議員任期滿了ノ日之ヲ廢止ス

說明　市域擴張ニ伴ヒ本市各種常設委員ヲ增員スルヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス。

（參　照）

東京市養育院常設委員條例抄錄

第二條　常設委員ハ市會議員三人名譽職參事會員一人及市公民中選擧權ヲ有スル者三人ヲ以テ組織ス

東京市衞生常設委員規程抄錄

第二條　委員ハ市會議員九名名譽職參事會員一名及市公民中選擧權ヲ有スル者五名ヲ以テ組織ス

（以下略）

東京市公園常設委員條例抄錄

第二條　委員ハ左ニ揭クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　市會議員　二十人

二　名譽職參事會員　一人

三　關係官廳職員、學識經驗アル者　十三人以內

（以下略）

東京市社會事業常設委員條例抄錄

第二條　委員ハ左ニ揭クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　市會議員　十七名

二　名譽職參事會員　一名

三　市公民中選擧權ヲ有スル者ニシテ學識經驗アル者　七名以內

## ▽市學務委員條例中改正ノ件

第六十九號

二月十七日ノ會議ニ於テ、左記議案上程、異議ナク本案モ即決可決セリ。

東京市學務委員條例中改正ノ件



東京市學務委員條例中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第一條　學務委員ハ市會議員十六人名譽職市參事會員一人市公民中選擧權ヲ有スル者五人及市立小學校男教員三人ヲ以テ組織ス

說明　市域擴張ニ伴ヒ市學務委員ノ掌理事項著シク增加シタルニ依リ昭和八年文部省令第四號ニ基キ增員スルヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス。

（參　照）

東京市學務委員條例抄錄

第一條　學務委員ハ市會議員八人名譽職參事會員一人市公民中選擧權ヲ有スル者四人及市立小學校男教員二人ヲ以テ組織ス

小學校令施行規則抄錄（昭和八年二月十四日文部省令第四號改正）

第百八十二條　市町村、市町村學校組合、町村學校組合竝學區ノ學務委員ハ十人トス但シ東京市ニ在リテハ二十五人、大阪市ニ在リテハ二十人マテニ增スコトヲ得

## ▽市財政、水道、電氣、土木各事業常設委員及ビ佛貨公債訴訟竝ニ築港兩臨時委員ニ關スル各條例設定ノ件

第百八號

東京市財政常設委員條例設定ノ件　（右側ノ△印ハ市會ニテ修正◎印ハ委員會修正朱書、左側ノ――印ハ原案削除、以下倣之）

東京市財政常設委員條例左ノ通設定スルモノトス

東京市財政常設委員條例

第一條　本市財政ニ關スル重要事項ヲ審議スル爲財政常設委員ヲ置ク

第二條　委員ハ左ニ揭クル者ヲ以テ之ニ充ツ

昭和年間　第參章　昭和八年　第壹節　各種常設委員竝臨時委員條例設定及改正ノ件

一　市會議員　十六人　十七人

二　名譽職參事會員　一人

委員ノ任期ハ二年トス但シ補闕委員ノ任期ハ其ノ前任者ノ殘任期間トス

第三條　委員長ハ委員ノ互選トス

第四條　委員ノ職務執行ニ關スル必要ナル事項ハ市長別ニ之ヲ定ム

附則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

說明　本市財政ニ關スル重要事項ヲ調査審議スル爲常設委員ヲ設置スルモノトシ本案ヲ提出ス。

第百九號

東京市水道事業常設委員條例設定ノ件

東京市水道事業常設委員條例左ノ通設定スルモノトス

東京市水道事業常設委員條例

第一條　本市水道事業ニ關スル重要事項ヲ審議スル爲水道事業常設委員ヲ置ク

第二條　委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　市會議員　十六人　十七人



二　名譽職參事會員　一人

三　關係官廳職員及學識經驗アル者　七人以內

委員ノ任期ハ二年トス但シ補闕委員ノ任期ハ其ノ前任者ノ殘任期間トス

第三條　前條第一項第三號ノ委員ハ市長之ヲ定ム

第四條　委員長ハ委員ノ互選トス

第五條　委員ノ職務執行ニ關スル必要ナル事項ハ市長別ニ之ヲ定ム

附則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

說明　本市水道事業ニ關スル重要事項ヲ調査審議スル爲常設委員ヲ設置スルモノトシ本案ヲ提出ス。

第百十號

東京市電氣事業常設委員條例設定ノ件

東京市電氣事業常設委員條例左ノ通設定スルモノトス

東京市電氣事業常設委員條例

第一條　本市電氣事業ニ關スル重要事項ヲ審議スル爲電氣事業常設委員ヲ置ク

第二條　委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　市會議員　十四人　十六　十七

二　名譽職參事會員　一人

三　關係官廳職員及學識經驗アル者　七人以內

委員ノ任期ハ二年トス但シ補闕委員ノ任期ハ其ノ前任者ノ殘任期間トス

第三條　前條第一項第三號ノ委員ハ市長之ヲ定ム

第四條　委員長ハ委員ノ互選トス

第五條　委員ノ職務執行ニ關スル必要ナル事項ハ市長別ニ之ヲ定ム

附則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

說明　本市電氣事業ニ關スル重要事項ヲ調査審議スル爲常設委員ヲ設置スルモノトシ本案ヲ提出ス。

第百十一號

東京市佛貨公債訴訟臨時委員條例設定ノ件

東京市佛貨公債訴訟臨時委員條例左ノ通設定スルモノトス

東京市佛貨公債訴訟臨時委員條例

第一條　本市電氣事業佛貨公債訴訟事件ニ關スル重要事項ヲ審議スル爲佛貨公債訴訟臨時委員ヲ置ク

第二條　委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　市會議員　十九人

二　名譽職參事會員　一人



委員ノ任期ハ二年トス但シ補闕委員ノ任期ハ其ノ前任者ノ殘任期間トス

第三條　委員長ハ委員ノ互選トス

第四條　委員ノ職務執行ニ關スル必要ナル事項ハ市長別ニ之ヲ定ム

附則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

說明　本市佛貨公債訴訟事件ニ關スル重要事項ヲ調査審議スル爲臨時委員ヲ設置スルモノトシ本案ヲ提出ス。

第百十二號

東京市土木事業常設委員條例設定ノ件

東京市土木事業常設委員條例左ノ通設定スルモノトス

東京市土木事業常設委員條例

第一條　本市土木事業ニ關スル重要事項ヲ審議スル爲土木事業常設委員ヲ置ク

第二條　委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　市會議員　二十四人

二　名譽職參事會員　十八人

委員ノ任期ハ二年トス但シ補闕委員ノ任期ハ其ノ前任者ノ殘任期間トス

第三條　委員長ハ委員ノ互選トス

昭和年間　第參章　昭和八年　第壹節　各種常設委員竝臨時委員條例設定及改正ノ件

第四條　委員ノ職務執行ニ關スル必要ナル事項ハ市長別ニ之ヲ定ム

附　則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

說明　本市土木事業ニ關スル重要事項ヲ調査審議スル爲常設委員ヲ設置スルモノトシ本案ヲ提出ス。

第百十三號

東京市築港臨時委員條例設定ノ件

東京市築港臨時委員條例左ノ通設定スルモノトス

東京市築港臨時委員條例

第一條　東京港修築ニ關スル重要事項ヲ審議スル爲築港臨時委員ヲ置ク

第二條　委員ハ左ニ揭クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　市會議員　十△七△十◎六◎　人

二　名譽職參事會員　一　人

三　關係官廳職員及學識經驗アル者　十人以內

委員ノ任期ハ二年トス但シ補闕委員ノ任期ハ其ノ前任者ノ殘任期間トス

第三條　前條第一項第三號ノ委員ハ市長之ヲ定ム

第四條　委員長ハ委員ノ互選トス



第五條　委員ノ職務執行ニ關スル必要ナル事項ハ市長別ニ之ヲ定ム

附　則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

說明　東京港修築事業ニ關スル重要事項ヲ調査審議スル爲臨時委員ヲ設置スルモノトシ本案ヲ提出ス。

右六議案ハ四月四日ノ會議ニ於テ、**石原永明君**ノ動議ニ據リ、一括シテ議長指名十七名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

黑田保次　長野高一　大澤梅次郎　中村又一　鈴木堅次郎
池田清秋　桑原信助　大野菊三　丸山秀天　笠井重治
佐藤榮志　綾井樹　安部利七　糟谷磯平　山口直
代田朝義　杉野善作

委員ハ**長野高一君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、五月八日ノ會議ニ於テ、第百八號及ビ第百十一號ノ兩議案ハ原案通リ、第百九號、第百十號、第百十二號、第百十三號ノ四議案ハ第二條第一項ニ修正ヲ加ヘタル旨報告シタルガ、市會ハ更ニ第百八號、第百九號、第百十號、第百十三號ノ四議案ニ夫々修正ヲ加ヘテ可決セリ。

▽**市產業常設委員條例設定ノ件**　左記議案ハ七月二十日ノ會議ニ上程サレタルモ、**天野賴義君**ノ動議ニ據リ、次回マデ延期ニ決シ、十月二十日ノ會議ニ於テ、議員提出案審査委員長報告通可決セリ。

議員提出案審査委員意見報告

一　東京市產業常設委員條例設定ノ件（中西敏二君外六名提出　須藤喜三郎君外三十九名賛成）

委員ハ審査ノ結果原案ヲ可ナリト認メタリ

右報告候也

昭和八年五月二十九日

東京市會議長森俊成殿

委員長　安部利七

一、東京市産業常設委員條例設定ノ件

右市制第五十七條ノ二ニ依リ提出候也

昭和八年五月十三日

提出者

中西敏二　赤塚五郎　高崎高次郎

長野高一　橋本祐幸　溝口信

松永東

賛成者

東京市會議長森俊成殿　須藤喜三郎　外三十九名

東京市産業常設委員條例設定ノ件

東京市産業常設委員條例左ノ通設定スルモノトス

東京市産業常設委員條例

第一條　本市産業ニ關スル重要事項ヲ調査審議スル爲産業常設委員ヲ置ク

第二條　委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　市會議員　十六人

二　名譽職參事會員　一人

三　市公民中選擧權ヲ有スル者ニシテ學識經驗アル者　四人

委員ノ任期ハ二年トス但シ補闕委員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第三條　委員長ハ委員ノ互選トス

第四條　委員ノ職務執行ニ關スル必要ナル事項ハ市長別ニ之ヲ定ム

附則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

市域擴張ニ伴ヒ本市ノ産業狀勢ハ量的ニ膨大スルト共ニ內容ニ於テモ益々複雜多岐ナラントス

即チ量ノ方面ニテハ産業關係世帶數ハ從前ノ倍數ニ近ク、生産額コレマタ擴張前ノ倍數ヲ遙カニ突破シ內容ヨリ見レハ從來ナカリシ農林、畜産、水産等ノ新部門ヲ包攝シ單ナル商工都市ニアラスシテアラユル産業部面ヲ有スル名實共ニ本邦第一ノ産業都市トナルニ至レリ而モ近代都市發展ノ基調タル商工業ニ於テモ其ノ飛躍甚シク商業ノ如キハ其ノ取引高年額五十億ニ達セリ。之カ對策トシテ昨年十月産業部ノ新設ヲ見鋭意諸施設ノ擴充立案ニ努メツヽアルモ産業ノ勸奬助長ハ重要ニシテ且ツ多方面ニ涉ル難問ヲ含ムカ故ニ政策ノ樹立竝施設ハ衆智ヲ聚メ愼

重審議シテ決定セサル可カラス、然ルニ本市ニハ從來ヨリ商工調査會ナルモノ存スルモ市ノ議決機關ノ構成者ヲ委員トセサルヲ以テ市政上其ノ機能ヲ發揮スルニ至ラス有名無實ニ近シ故ニ新ニ本市ニ產業常設委員ヲ置キ市ノ產業ニ關スル事項一切ノ審議機關ト爲サシムル必要アリト信ス

仍テ市制第八十三條ニ依リ產業常設委員ヲ置クモノトシ本案ヲ提出ス

## 第貳節　社會事業

**▽生業資金貸付及ビ職業紹介所ニ關スル質疑應答**　一月二十五日ノ會議ニ於テ、**關口新太郎君**ハ理事者ニ問ウテ曰ク、本市ニ社會事業ノ一端トシテ生業資金貸付制度ノ制定アルハ、洵ニ慶賀スベキ措置ナリト考ヘラルヽモ、其運用資金ハ僅々壹萬圓程度ニ過ギズ、斯テハ到底其實績ヲ擧グル能ハザルベシト考フ、市理事者ノ所見如何、殊ニ市理事者ハ此ノ生業資金ノ貸付ニ就テハ、返還ヲ受クルヲ原則トシ居レリト聞クモ、極メテ低キ生活ヲ營メル者ニ貸付クルヲ原則トシ、回收シ得ザルヲ原則トスベキモノト考フ、今日本市ニ於テ所謂「カード」階級ト稱スル者ニ對此ノ生業資金ノ如キハ、一ヶ月平均參圓乃至五圓ノ救濟金ヲ施與シ居レルガ、之ヲ一ヶ年ニ見積レバ五拾圓乃至六拾圓ヲ算ス、故ニ每月參圓乃至五圓ノ少額ノ施與ニ代フルニ、貳拾圓乃至參拾圓ノ纏リタル金額ヲ以テシ、因テ以テ彼等ヲシテ自力更生セシムルヤウ、理事者ハ彼等ヲ善導スル考ヘナキヤ否ヤ、勿論此ノ善良ナル制度ヲ本員ノ云フガ如ク活用セント欲スルニハ、相當多額ノ資金ヲ要ス、理事者ハ其捻出方法ニ就キ何等カノ考慮ヲ爲シタル事アリヤ否ヤ、兎ニ角理事者ハ此ノ生業資金ヲ今後如何ナル方面ニ活用セント欲スルヤ。次ニ職業紹介所ニ關スル問題ナルガ、職業紹介所ニ登錄サレ居ル勞働者ノ多クハ眞面目ナルガ、不德漢ニシテ登錄サレ居ルモアリ、彼ノ不德漢ハ他ノ柔順ニシテ善良ナル勞働者ヲ迫害シ、現場監督ノ言ヲ用ヒザルノミナラズ、工事材料ヲ窃取シテ私腹ヲ肥シツヽアル事實アリ、然ルニ其監督者タルベキ市當局ハ右ノ事實ニ對シ、極メテ冷淡ニシテ、放任シ置ケリト聞ク、市理事者ハ不良勞働者ニ就イテ調査シタル事アリヤ否ヤ、何故ニ不良勞働者ヲ處分セザルヤ、尙ホ市理事者ハ不良勞働者ヲ一掃シ、柔順ニシテ善良ナル勞働者ヲ救濟セント欲スル意志アリヤ否ヤト。社會局長**山下又三郎君**答ヘテ曰ク、生業資金貸付制度ハ昭和四年十月ニ制定セリ、其實績ハ今日理想通リト稱スル能ハザルモ、又必ズシモ目的ヲ達成シ得ラレズト云フ能ハズ、貸付方法ハ方面委員長ヨリ方面委員會ノ結果ニ就キ申達ヲ受ケテ行フ事トナシ居レリ、貸付ヲ受クル資格ニ就イテハ、東京市內ニ在住シ、勤勉實直ニシテ勤勞能力アルモ、生業ノ資金ニ乏シキ者トノ規定ナルガ、概シテ「カード」階級ノ第二種ノ者、若クハ純「カード」階級程度ノ者ニ貸付ケ居レリ、其回收率ハ、規程制定當時四分一厘ト一分四厘トノ等級ニ差異ヲ設ケテ、其程度ノ回收ヲ見込ミタルガ、最近ノ實情ハ三分乃至四分程度ノ返還アリ、以上ハ現在ノ實績ニシテ、此ノ生業資金ヲ得、「カード」階級ヲ脫却シテ獨立ノ生計ヲ營ミ、漸次生活ノ向上ヲ圖リツヽアル實例モ尠カラズ、運用資金ニ就イテハ、將來必要ヲ生ジタル場合、勿論豫算ノ增額ヲ爲ス考ヘナルモ、最近ニ於ケル實績ニ徵シ、大體現在ノ豫算ニテ要求ニ應ジ得ベシト考フ、職業紹介所ニ於ケル登錄人夫中ニ不行跡ノ者アリトハ、余輩モ數〻耳ニセルガ、左樣ノ者ニ對シテハ從來モ斷乎トシテ適當ナル方法ヲ講ジツヽアリ、現場ニ於ケル材料紛失等ノ點ニ就イテハ、事業局ニ屬スル現場係トモ充分ナル連絡ヲ執リ、適正ナル方法ヲ講ズルヤウ注意セント欲スト。**關口君**更ニ、山下局長ノ答辯ハ本員ノ質問ノ要點ニ觸レ居ラズ、本員ノ第一ノ質問ノ要旨ハ、生業資金トシテ計上シタル金額ハ幾許ナリヤト云フニ在リ、局長ハ相當ノ實績ヲ擧ゲ居レリト稱スルモ、恐ラク相當程度ノ貸付ヲ行ハズ、從テ實績ハ擧リ居ラズト本員ハ考フ、現ニ十數人ノ人々ヨリ資金貸與ノ申請ヲ爲シタルニ、生業資金ハ豫算額面全部拂出濟ナリトテ、申

請書ノ受理サヘセザリシ事實アルニアラズヤ、仍テ市當局ハ「カード」階級ニ對シ、從來ノ如キ救濟施設ヲ爲サンヨリハ、生業資金ノ增額ヲ爲シ、以テ彼等ニ自力更生ノ途ヲ辿ラシムルヤウ考慮シテハ如何ト云ヘルガ、本員ノ質問ノ骨子ナリ、次ニ職業紹介所ノ登錄人夫中、不良ナル人夫アリテ、現場材料ノ窃切サレタル事實ハ二三ニシテ止マザルナリ、然ルニ此ハ現場係ト聯絡提携シテ調査スベシト云ヘルガ如キハ、迂遠モ甚シキノミナラズ、監督者トシテ吾々ノ質問ヲ俟タズ當然調査スベキ重大責任アルニアラズヤト質シタルニ對シ。**山下局長**ハ、生業資金豫算ハ今年度モ昨年度モ共ニ九千六百圓ニシテ、現在融通支出セル額ハ約四千六百圓ナリ、「カード」階級ノ彼等ニ自力更生ノ途ヲ與フル方法トシテ、豫算ヲ增額セシムベシト云ヘル質問者ノ趣意ニハ同感ナルモ、今日マデノ實績ニ徵スルニ、取扱上手續ノ煩瑣ナルニ因ルモノナリヤ、將又「カード」階級ニハ自力更生ヲ爲サントスル域ニ達シ居ル者ノ少數ナル爲ナルヤ、其原因ニ就イテハ未ダ詳ニ知ル能ハザルモ、資金豫定額ハ今日尙ホ其半額ヲ剩シ居レリ、故ニ條件ニ適合シタル申込ミアラバ、何時ニテモ貸與シ得ベキ現況ニシテ、豫算ノ全額ハ貸與濟ミナリトノ理由ニテ、貸付申込ミヲ拒絕シタリト云ヘルガ如キ報告ニ接シ居ラズ、職業紹介所ニ於テ登錄セル人夫中ニ不良ノ者アリトハ、甚ダ遺憾ナルモ、何分ニモ職業紹介所ハ單ニ人夫ヲ供給スルニ過ギザル立場ニ在リ、從テ現場ニ臨ミ彼等ノ行動ヲ監視セントスルハ、困難ナル實情ニ在ルヲ以テ、事業局ノ現場係ト聯絡ヲ執リテ、充分ナル取締ヲ爲サント欲ス、最近他ノ目的ノ爲ニ設置ヲ計畫セル勞働統制委員ヲ斯ル方面ニモ活用シテ、所期ノ目的ヲ達成セント欲スト答ヘ、斯テ質疑應答ヲ打切レリ。

▽**公衆食堂資金規程廢止ノ件**　左記議案ハ一月二十五日ノ會議ニ於テ、**小澤佐重喜君**ノ動議ニ據リ、昭和八年度東京市歲入出總豫算案（本章第拾八節第壹項參照）調査委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、三月八日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第二十三號

公衆食堂資金規程廢止ノ件

大正十一年三月二十七日第二十八號市會議決公衆食堂資金規程（註、第五卷第拾參節五百六拾參頁參照）ハ昭和七年度限リ之ヲ廢止スルモノトス

說明　本市公衆食堂經營ニ關スル收支竝資金ハ從來特別經濟ニ於テ經理シ來レル處將來ハ之ヲ普通經濟ニ統合經理スルヲ適當ト認ムルヲ以テ本案ヲ提出ス。

▽**市設食堂條例設定ノ件**　左記議案ハ十二月二十八日ノ會議ニ於テ、**天野賴義君**ノ動議ニ據リ、第二百七十四號議案（市設浴場條例設定ノ件）ト共ニ、議長指名十七名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

赤塚五郎　長野高一　菊池民一　森脇源三郎　宮村龜一
丸山秀天　高橋德三郎　山田清　糟谷磯平　田仲忠左衞門
一又安平　小川紋太郎　石原勘右衞門　友成四郎　代田朝義
小久保時之助　淺沼稻次郎

委員ハ**友成四郎君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、翌九年二月十六日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第二百七十三號

東京市設食堂條例設定ノ件

東京市設食堂條例左ノ通設定ス

東京市設食堂條例

第一條　市設食堂ハ本條例ノ定ムル所ニ依リ飲食品ヲ公衆ニ供スルモノトス

第二條　飲食品ノ價格ハ左ノ範圍内ニ於テ市長之ヲ定ム

定食　十五錢以下

嗜好食　五十錢以下

飲物、菓子及生果　十錢以下

第三條　供食ヲ受ケムトスル者ハ食券ヲ求ムヘシ

市長必要アリト認ムルトキハ回數食券ヲ發行ス

前回ノ回數食券ニハ賣價ノ一割以内ニ於テ增割ヲ爲スコトヲ得

第四條　供食時間及休日左ノ如シ但シ市長必要アリト認ムルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

供食時間　自午前六時　至午後七時

休日　自一月一日　至一月三日

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ食堂ニ入ルコトヲ得ス

一　泥醉者

二　他人ノ嫌忌スヘキ疾病アル者

三　其ノ他市長ニ於テ不適當ト認ムル者



第六條　市設食堂ハ市長ニ於テ適當ト認ムル者ニ之カ經營ヲ委託スルコトヲ得

第七條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

説明　市設食堂ノ管理上條例設定ノ必要ヲ認メ本案ヲ提出ス。

▽**結婚相談條例設定ノ件**　左記議案ハ一月二十五日ノ會議ニ於テ、**小澤佐重喜君**ノ動議ニ據リ、昭和八年度東京市歳入出總豫算(本章第拾八節第壹項參照)調査委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、三月八日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第二十六號

東京市結婚相談條例設定ノ件

東京市結婚相談條例左ノ通設定シ昭和八年度ヨリ之ヲ施行スルモノトス

東京市結婚相談條例

第一條　本市ハ本條例ノ定ムル所ニ依リ結婚ノ相談ヲ爲ス

第二條　結婚相談ノ申込ヲ爲サムトスル者ハ申込書及市長ノ指定スル添付書類ヲ提出スヘシ

結婚相談申込書ノ記載又ハ添付書類ニ虚僞ノ事實アルトキハ相談ヲ拒絶スルコトヲ得

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ結婚相談ノ申込ヲ爲スコトヲ得ス

一　東京市内ニ居住セサル者

二　法令ニ依リ結婚ヲ爲スコトヲ得サル者

三　其ノ他市長ニ於テ不適當ト認ムル者

第四條　結婚相談ニ關シテハ申込ノ際一件ニ付手數料一圓ヲ徵收ス但シ市長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ手數料ヲ減免スルコトヲ得

既納ノ手數料ハ之ヲ還付セス

第五條　本市ハ結婚相談申込者ノ希望ニ應シ本市衞生試驗所ニ於テ結婚ニ必要ナル健康診斷ヲ行フ但シ其ノ手數料ハ別ニ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收ス

第六條　結婚申込ノ有效期間ハ一年トス

第七條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長別ニ之ヲ定ム

説明　本件ハ現下ノ狀勢ニ鑑ミ結婚相談ヲ開始スルヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス。

**▽震災罹災者救援ニ關スル件**　左記議案ハ三月八日ノ會議ニ上程、異議ナク即決可決セリ。

第百三號

震災罹災者救援ニ關スル件

昭和八年三月三日岩手、宮城、青森縣ニ於ケル震災罹災者ニ對シ左記ノ通救援ヲ爲スモノトス

記

一見舞金　壹萬四千圓

説明　本件震災地ハ其ノ慘害甚大ナルニ依リ之ヲ救援スルモノトシ本案ヲ提出ス。



**▽失業救濟ノ對策トシテ授産場ノ擴張竝ニ增設ニ關スル建議**　左記建議モ三月八日ノ會議ニ上程、異議ナク可決セリ。

失業救濟ノ對策トシテ授産場ノ擴張竝增設ニ關スル建議

右提出候也

昭和八年二月二十日

東京市會議長　大神田軍治殿

提出者　川田友之

賛成者　吉田丕文　外四十六名

失業救濟ノ對策トシテ授産場ノ擴張竝增設ニ關スル建議

現在舊市域ニ在ル市營授産場ヲ擴張シ更ニ新市域ニ數箇所ヲ增設シ特ニ輸出向手工藝品ヲ主目トシ職業輔導ト家庭副業奬勵ノ實績ヲ擧ケ以テ失業救濟ノ非常對策タラシメンコトヲ望ム

理由

惟フニ現今ノ深刻ナル不況ハ年月ヲ加フル毎ニ益々累加シ其止マル所ヲ知ラス國家府市共ニ百方手段ヲ盡シテ之カ對策ヲナシツヽアルカ失業洪水ノ防止、生活難緩和ノ如キハ只ニ政府ノ時局匡救ノ補助又ハ府市土木事業遂行等ノミニ俟ツヘキモノニアラス副業ニ依ル一般家庭ノ收益增加ニ俟ツヘキモノ多シトス目下對外爲替暴落ニヨリテ國産雜貨品ノ海外輸出ニ益々旺盛ノ兆ヲ呈シツヽアル際從來ノ授産場ヲ擴張シ更ニ各所ニ大規模ノモノヲ增設シ輸出向雜貨品、「ハンカチーフ」、「シャツ」、靴下、玩具、諸布製品其他手工藝品等ヲ製造シ之ヲ內外輸出商ノ

手ヲ經或ハ直接海外雜貨商ニ販賣シ之ニ基キ新規職業ヲ輔導シ家庭副業ノ振興ヲ計ルハ失業救濟家庭收入欠陷塡補ノ最良機關ト信ス當局ハ速ニ之カ方策ヲ講セラレンコトヲ望ム

右建議ス

**▽職業輔導ト家庭副業奬勵ヲ目的トスル授産場設置及ビ失業者救濟並ニ市營火葬場設置ニ關スル質疑應答**　十月二十日ノ會議ニ於テ、**川田友之君**ハ理事者ニ問ウテ曰ク、本市ニハ社會局所屬ノ授産場六ヶ所アルモ、其製品ハ何レモ內地向ニ限ラレ、輸出向製品ナキハ遺憾ナリ、目下我ガ國ノ對外爲替暴落シ、電氣局ノ有スル外債利子支拂差損ノミニテモ、貳、參百萬圓ノ鉅額ヲ算スル現狀ニアラズヤ、然ルニ他面ニ於テ諸外國ハ何レモ高率ナル關稅ノ障壁ヲ設ケテ日本製品ノ輸入ヲ沮止セントシ、我ガ製品ハ到ル處ニ虐待サレ居ルモ、我ガ國產雜貨品ハ國外ノ需要者ニ歡迎サレ、今ヤ世界ヲ風靡セントスル實情ナリ、仍テ敢テ問フ、市理事者ハ外國輸出向手工藝雜貨品專門ノ職業輔導授產場ヲ新設シ、以テ男女ノ別ナク失業者ニ職ヲ與ヘ、小家庭ニ對シテモ副業トシテ分業的ニ職ヲ與ヘ、其製品ハ特殊ノ機關ヲ設ケテ、買上輸出ヲ爲スガ如キ、失業救濟ト副業奬勵ト、更ニ對外貿易トノ三拍子揃ヒタル方法ヲ考慮シタル事アリヤ否ヤ、歐洲各國ニ於テハ國家疲弊ノ際、都市ト農村トノ別ナク、何レニモ家庭副業ヲ奬勵シ、因テ以テ富力ノ恢復ヲ圖リタル實例尠カラズ、「ナポレオン」沒落後、中央「ヨーロッパ」諸國ハ極度ニ疲弊シタル事アリタルガ、時ノ爲政者ガ副業奬勵ヲ爲シタル結果、經濟力ヲ復活セシメタルハ、單リ「イタリー」、「フランス」ノミニアラザリキ、「デンマーク」ニ於ケル農村ノ副業、「スエーデン」ニ於ケル都市家庭工藝副業等、何レモ其地方ニ於テ財政復活ノ根源ヲ爲セリ。近クハ支那ノ芝罘ニ於テ、英國宣教師「マックミラン」氏ガ布教ニ際シ、貧シキ支那人ニ與ヘタル生業ガ、目下山東省ノ重要輸出品トナレリ、即チ「ヘヤネット」、「レース」、刺繡等是レナリ、其他天津、汕頭、厦門方面ヨリ、「フイリッピン」、印度等ニ於テ、家庭副業ガ其地方ニ於テ不況輓回ノ重大原因ヲ爲セル實例枚擧ニ遑アラズ、近時吾ガ東京市ニ於ケル中產階級ノ家庭ハ沒落ニ瀕シ居レリ、此ノ中產家庭ニ副業ノ輔導ヲ爲シ、輸出工藝品製作ノ奬勵ヲ爲ス事ハ、中產家庭經濟ノ更生ト、東京市ノ對外貿易トニ對シ、一擧兩得ノ策ナリト考フ、本員ノ所謂手工藝雜貨品製作ハ、現ニ本市ノ授產場ニ於テ作業シツヽアル「ミシン」科、「メリヤス」科等ノミニテ充分用ヲ辨ジ得ルナリ、即チ刺繡ノ「ハンカチーフ」、「ピンクション」、南洋向「ワイシャツ」、紙又ハ布製品、玩具、「メリヤス」製品、「ゴム」加工品等ニシテ、是等ハ目下爲替安ノ爲、海外ニ多量ノ輸出ヲ爲シ得、此ノ情勢ハ今後永續スベシトハ識者ノ齊シク認ムル所ナリ、去ル三月八日ノ會議ニ於テ、本員ガ提出シタル授產場擴張竝ニ增設ニ關スル建議ハ、多數同僚諸君ノ贊成ヲ得テ可決サレタルガ、市長ハ此ノ建議ヲ見タリヤ否ヤ、尙ホ市理事者ハ市民ノ膏血ヲ搾取スル事ノミヲ考ヘズ、市民ニ富ヲ與ヘ、生活苦ヨリ彼等ヲ救フベキ事ヲモ考慮シタル事アリヤ否ヤト。助役**落合慶四郎君**答ヘテ曰ク、本市ハ從來六箇所ニ授產場ヲ設備セルガ、新市域ニハ未ダ其設備ナキヲ遺憾トス、勿論新市域方面ニモ授產場ヲ設備スベキ必要アリト考フルモ、經費ノ關係上、巡回職業輔導團ノ如キモノヲ設置シテハ如何トノ議アリ、其考案ノ下ニ目下內部ニ於テ研究中ナリト。

越エテ十月二十七日ノ會議ニ於テ、**仲澤芳朗君**ハ、本市ニ於ケル失業勞働者六萬餘人ヲ算フル中、登錄者ハ其半數ノ三萬餘人ニシテ、他ノ三萬人ハ未登錄者ナリ、市理事者ハ此ノ未登錄者ヲ如何ナル方法ニテ救濟スル考ヘナリヤ、尙ホ智識階級ト稱スル方面ノ失業救濟ニ就テハ、先般追加豫算ノ提出アリタルモ、此ノ追加豫算ノミニテハ未ダ充分ナリト云フ能ハズ、要スルニ働カント欲スルモ職ナク、著ルニ衣ナク、喰フニ食ナシト云ヘル失業者ノ多數アル事ハ、社會政策上重大視セザルベカラザル問題ナリ、右ニ對シ市理事者ハ如何ナル救濟策ヲ講ジ居レリヤ、尙ホ本市城東方

面ニ於ケル窮民中死者アルモ、博善會社ハ横暴ヲ極メ居リ、爲ニ火葬ヲ容易ニ行フ能ハズシテ困惑シ居ル實情ニ在リ、其緩和策トシテ市營火葬場設置ニ就キ、城東方面委員長諸君ヨリ先般本市ニ陳情アリタル筈ナルガ、右ニ對スル市理事者ノ所見如何ト質シ。社會局長**山下又三郎君**ハ、現在本市ニ於ケル失業勞働者數ハ約六萬四千人程ヲ算ス、此ノ中登錄サレ居ル者約二萬六千人ニシテ、他ハ未登錄者ナリ、此ノ未登錄者ノ措置ニ就キ、當事者タル吾々ハ常ニ苦心シ居レリ、現在ノ循環制度ヲ廢止シ、失業者全部ヲ一律ニ使用スルヲ可トスベシト唱フル者アリ、或ハ現在ノ一日制ヲ半日制ト改ムベシト論ズル者アルモ、現在ノ循環制度ノ下ニ於テスラ、四日半ニ漸ク一回ノ就勞數ヲ算フル狀態ナルヲ以テ、若シ登錄ニ依ル循環制度ヲ廢止シ、總テノ者ヲ就勞セシムル事トセバ、結局ハ失業者共倒レト云フ結果ヲ招來ス、故ニ根本的ノ失業救濟ハ經濟情勢ノ好轉ニ俟タザルベカラズト考フ。兎ニ角本年度ニ於テハ、一日平均一萬八千人ヲ使用スル計畫ニテ、約四千百萬圓ノ救濟事業ヲ行フ事トシタルガ、事業起債計畫其他ノ關係等ニテ、實際ノ使用人員ハ一萬人内外ニ過ギズ、而モ登錄者ハ二萬六千人アリ、一方事業ニ關係ナキ顔付ケト稱スルモノアリテ、結局登錄者ハ四日半ニ一回就勞スル事トナルナリ、勿論今後ハ一層失業救濟事業ニ力ヲ注ギ、事業量ノ增加ニ努ムルト共ニ、他方失業者ノ家庭狀態竝ニ環境等ヲ調査シ、救濟ノ緩急等ヲモ考慮ノ上、適當ニ登錄者ノ整理ヲ行フ考ヘナリ、薄給ノ失業者ハ現在一萬一千人内外ナルガ、此ノ中二千六百人ヲ救濟シ居レリ、尤モ其大部分ハ政府ノ補助ニ據ルモノニシテ、市ニテ救濟シ居ルハ其中ノ千名内外ナリ、火葬場ニ就テハ、昨年市會ニ於テ滿場一致ヲ以テ、市營火葬場設置ノ建議アリ、本年度ノ豫算審議ノ際ニ於テモ、委員會ニ於テ公營火葬場ヲ設置スベシト云ヘル意見ヲ聽キタリ、仍テ當局ニ於テモ、其設置ニ就キ目下調査研究中ナリト答ヘタリ。

**▽分讓住宅規程中改正及ビ分讓住宅管理方法變更ニ關スル件**

第二百二十九號

東京市分讓住宅規程中改正ノ件

東京市分讓住宅規程中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第十二條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ二戸建住宅ノ貸付ヲ受ケタル者ハ市長ノ承認ヲ受ケ其ノ一戸ヲ轉貸スルコトヲ得

說明　二戸建市營住宅ヲ分讓住宅トシテ貸付ヲ爲スニ付本規程中一部改正ノ必要ヲ認メ本案ヲ提出ス。

（參照）　東京市分讓住宅規程抄錄

第十二條　住宅ハ其ノ名義ノ如何ヲ問ハス之ヲ轉貸シ又ハ其ノ使用權ヲ擔保ニ供スルコトヲ得ス

第二百三十三號

分讓住宅管理方法變更ニ關スル件

東京市分讓住宅規程ニ依リ管理スル住宅ノ内左記ノモノニ付テハ東京市營住宅使用條例ニ依ル住宅トシテモ管理シ得ルモノトス

記

| 住宅名 | 所在地 |
|---|---|
| 東調布住宅 | 大森區調布鵜ノ木町 |
| 矢口住宅 | 蒲田區志茂田町二四番地 |
| 世田谷住宅 | 世田谷區世田谷一丁目三八六番地 |
| 同 | 世田谷區世田谷四丁目五〇一番地<br>五〇一番地<br>五〇四番地 |

說明　現下ノ情勢ニ鑑ミ普通住宅トシテ管理シ得ルノ途ヲ拓クヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス。

第二百三十四號

市營住宅管理方法變更ニ關スル件

東京市營住宅使用條例ニ依リ管理中ニ係ル住宅ノ内左記ノモノニ付テハ東京市分讓住宅規程ニ依ル住宅トシテモ管理シ得ルモノトス

記

| 住宅名 | 所在地 |
|---|---|
| 池上住宅 | 大森區久ケ原町二〇九 |
| 同 | 二一〇番地 |
| 世田谷住宅 | 世田谷區三宿町三九一番地 |
| 同 | 世田谷區世田谷二丁目一、四〇三番地 |
| | 一、四〇四番地 |
| 同 | 世田谷區世田谷四丁目七四四番地 |
| 同 | 世田谷區羽根木町一、六九七番地 |
| 千住住宅 | 足立區千住末廣町三〇番地 |
| 同 | 足立區千住大川町一五番地 |
| 伊興住宅 | 足立區伊興町前沼一、二九一番地 |
| 同 | 足立區伊興町本町二、二九二番地 |

說明　現下ノ情勢ニ鑑ミ分讓住宅トシテ管理シ得ルノ途ヲ拓クヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス。

右三議案ハ十月二十日ノ會議ニ於テ、鈴木堅次郎君ノ動議ニ據リ、議長指名十七名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

板垣信春　吉田直治　篠原虎之輔　長野高一　森脇源三郎
鈴木堅次郎　安藤德雄　横溝直也　千ヶ崎嘉助　廣川弘
河野惣八　阿部茂夫　吉田四郎平　代田朝義　横瀨精一
酒井熊次郎　山本半藏

委員ハ鈴木堅次郎君ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、十二月二十八日ノ會議ニ於テ、第二百二十九號及ビ第二百三十三號ノ兩議案ハ原案通、第二百三十四號議案ハ左記希望條件ヲ附シテ原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

希望條件

一、池上住宅ハ之ヲ現狀ノ儘速ニ賣却處分スルコト

一、世田谷、千住及伊興住宅ハ使用料高キニ過クル感アリ之カ低減ヲ爲シ以テ實質的增收ヲ圖ルコト

▽農村振興土木事業費起債ニ關スル件　左記議案ハ十月二十日ノ會議ニ上程、異議ナク可決セリ。

第二百二十八號

東京市農村振興土木事業費起債ニ關スル件

一　起債金額　六萬五千二百圓

二　起債ノ目的　農村振興土木事業費ニ充當

三　利率　年三分二厘

四　起債ノ方法　債券發行ノ方法ニ依リ大藏省預金部ヨリ借入

五　起債ノ時期　昭和八年度

六　償還ノ期間及方法　別紙償還年次表ノ如ク借入ノ年ヨリ五年度据置爾後十五年度間ニ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

七　元利支拂資源　府補給金及一般歳入

説明　第二百二十七號議案（本章第十八節普通會計ニ屬スル追加豫算第六項參照）ニ伴ヒ農村振興土木事業資金ヲ借入金ニ需ムルモノトシ本案ヲ提出ス。

（償還年次表略ス）

（參考）

東京市農村振興土木事業費資源調

| 年度 | 事業費 | 同 府補助金 | 同 借入金 | 上 市資 | 計 | 源 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 昭和八年度 | 二六一、〇〇〇円 | 一九五、七五〇円 | 六五、二〇〇円 | 五〇円 | 二六一、〇〇〇円 | |

▽旱鹽被害地農民救濟事業費起債ニ關スル件

第二百三十九號

左記議案モ十月二十日ノ會議ニ上程、異議ナク即決可決セリ。

東京市旱鹽被害地農民救濟事業費起債ニ關スル件

一　起債金額　八萬四千圓

二　起債ノ目的　旱鹽被害地農民救濟事業費ニ充當



三　利率　年五分以内

四　起債方法　債券發行又ハ普通貸借ノ方法ニ依リ東京府罹災救助基金其ノ他ヨリ借入

五　起債ノ時期　昭和八年度

六　償還ノ時期及方法　別紙償還年次表ノ如ク昭和九年度ヨリ昭和十七年度迄ニ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利ニ借替ヲ爲スコトヲ得

七　元利支拂資源　一般歳入

説明　第二百二十七號議案（本章第拾八節普通會計ニ屬スル追加豫算第六項參照）ニ伴ヒ旱鹽被害地農民救濟事業費資金ヲ借入金ニ需ムルモノトシ本案ヲ提出ス。

（償還年次表略ス）

（參考）

東京市旱鹽被害地農民救濟事業費資源調

| 年度 | 事業費 | 同 府補助金 | 上 借入金 | 資 | 計 | 源 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 昭和八年度 | 一〇〇、〇〇〇円 | 一六、〇〇〇円 | 八四、〇〇〇円 | | 一〇〇、〇〇〇円 | |

▽農業地救濟ニ關スル建議

左記建議ハ十月二十七日ノ會議ニ上程、異議ナク即決可決セリ。

一、農業地救濟ニ關スル建議

右提出候也

昭和八年十月二十日

昭和年間　第參章　昭和八年　第貳節　社會事業

提出者　篠房輔　中村梅吉　鏑木由七郎

賛成者　内田秀五郎　外四十三名

東京市會議長森俊成殿

農業地救濟ニ關スル建議

本年夏季ノ旱魃ニ因リ板橋區練馬、上板橋志村、石神井、中新井、赤塚、大泉方面一圓農業地域ハ其ノ被害最モ甚タシク唯一ノ産物タル大根ヲ初メ農産物ハ未曾有ノ不作ニ陥リ殊ニ大根ノ如キハ收穫皆無ノ慘狀ナルニ鑑ミ市當局ハ當該被害地方ニ對スル免税及農業地失業救濟土木事業ニ付特ニ考慮シ之カ實施ヲ期セラレムコトヲ望ム

右建議ス

▽**市設浴場條例設定ノ件**　左記議案ハ十二月二十八日ノ會議ニ上程、**天野賴義君**ノ動議ニ據リ、第二百七十三號議案（市設食堂條例設定ノ件「本章第貳節第參項參照」）調査委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、翌昭和九年二月十六日ノ會議ニ於テ原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第二百七十四號

東京市設浴場條例設定ノ件

東京市設浴場條例左ノ通設定スルモノトス

東京市設浴場條例

第一條　市設浴場ハ本條例ノ定ムル所ニ依リ公衆ノ入浴ニ供スルモノトス

第二條　入浴料及髪洗料ハ左ノ範圍内ニ於テ市長之ヲ定ム

入浴料　大人　四錢　十四歳未滿　二錢

髪洗料　八錢

第三條　市長必要アリト認ムル者ニ對シテハ入浴料ヲ減免スルコトヲ得

第四條　入浴時間及休日左ノ如シ但シ市長必要アリト認ムルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

入浴時間　自正午　至午後十一時

休日　毎月二十六日

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ入浴スルコトヲ得ス

一　看護ヲ要スヘキ老幼病者ニシテ附添人ナキ者

二　他人ノ嫌忌スヘキ疾病アル者

三　泥醉者

四　其ノ他市長ニ於テ入浴ヲ許スヘカラスト認ムル者

第六條　市設浴場ハ市長ニ於テ適當ト認ムル者ニ之カ經營ヲ委託スルコトヲ得

第七條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

説明　市設浴場ノ管理上條例設定ノ必要ヲ認メ本案ヲ提出ス。

**▽畑作旱害地農民救濟事業費起債ニ關スル件**　左記議案ハ十二月二十八日ノ會議ニ上程、原案通可決セリ。

第二百七十七號

東京市畑作旱害地農民救濟事業費起債ニ關スル件

一　起債金額　十五萬圓

二　起債ノ目的　畑作旱害地農民救濟事業費ニ充當

三　利率　年五分以内

四　起債ノ方法　銀行其ノ他ヨリ借入

本起債ノ時期適當ナラサルトキハ利子年率五分以内償還期限五年以内ノ短期債ヲ起スコトヲ得

前項ノ短期債ハ本借入金及其ノ他收入ヲ以テ償還ス

短期債ヲ起ス場合ト雖別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス

第二項ノ短期債ヲ起スニ付必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

五　起債ノ時期　昭和八年度但シ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

六　償還ノ期間及方法　別表償還年次表ノ如ク昭和九年度ヨリ昭和十七年度迄ニ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

七　元利支拂資源　一般歳入

八　借入ノ爲ニ發行スル債券　借入ノ爲ニ證券交付ノ要アルトキハ適宜券面額ヲ定メ一種若ハ數種ノ市債券ヲ發行スルモノトス

説明　第二百七十二號議案（本章第拾八節普通會計ニ屬スル追加豫算第八項參照）ニ伴ヒ畑作旱害地農民救濟事業ノ財源ヲ借入金ニ需ムルモノトシ本案ヲ提出ス。

（償還年次表略ス）

## 第參節　市政一般ニ關スル質疑應答

一月二十五日ノ會議ニ於テ、**田中靜衛君**ハ市理事者ニ問ウテ曰ク、市郡合併後市理事者ノ新舊市域ニ對スル施設經營ヲ見ルニ、吾々ノ期待ニ反シ、舊市域ニ頗ル厚ク、新市域ニハ極メテ薄キガ如キ感アルヲ遺憾トス、假令バ在郷軍人會ニ對スル昭和八年度ノ補助金額ハ、舊市域ニ對シ九千七百圓ヲ計上シタルニ拘ラズ、新市域ニ對シテハ僅々四千圓ニ過ギズ、又學校教職員ノ住宅料、俸給等ノ如キモ、舊市域ニ厚ク、新市域ニ薄シ、此ノ如キ實例ハ枚擧ニ遑アラズ、斯テハ何レノ日ニ於テ内容ノ完備シタル大東京ヲ現出シ得ベキカ、新市域開發ノ先驅ヲ爲スモノハ、交通機關ノ整備ナリ、仍テ敢テ問フ、市理事者ハ新市域ニ對シ、電車、自動車、道路等ノ整備ヲ如何ナル方針ニテ行ハントスル考ヘナリヤ、尚ホ電車特別乘車料金ヲ徴收シ居ル箇所アリ、市郡合併後ノ今日、之ヲ撤廢スル考ヘナキヤ、是レ質問ノ第一ナリ。第二ハ、新市域ニ於ケル小學校改築問題ナルガ、昭和八年度豫算中、舊市域ニ於ケル小學校改築費四百萬圓ヲ計上セルニ拘ラズ、新市域ノ小學校改築費ハ壹錢壹厘ヲモ計上シ居ラズト聞ク、而モ此ノ舊市域ノ改築費四百

萬圓ハ、震災後舊市内ノ小學校ハ漸次鐵筋「コンクリート」建ト爲シタルヲ以テ、殘餘ノ木造校舍ヲ鐵筋「コンクリート」建ニ改築センガ爲ニシテ、校舍腐朽シ、今日之ヲ改築スルニアラズンバ危險ナル狀態ニ在リトノ故ニアラズト、是レニ反シ新市域ニ於テ改築ヲ要スル小學校ハ、何レモ腐朽甚シク、頗ル危險狀態ニ在リ、然ルニ此ノ危險狀態ニ在ル新市域ノ小學校ニ對シ、壹錢壹厘ノ改築費ヲモ計上セザルハ、如何ナル理由ナリヤ。第三、本市ニテ現在行ヒツヽアル諸工事ハ、主トシテ失業救濟ニ眼目ヲ置キテ起工シ、主務廳モ亦此ノ失業救濟ヲ重要視シテ起工認可ヲ爲シ居レリ、市郡合併以前、各町ニ於テモ夫々失業救濟事業ヲ企畫シ、多數ノ失業者ヲ救濟シツヽアリシガ、市郡合併後、從來就業シ居タル者モ離職シ、失業者ハ漸次增加ノ傾向アリ、此ハ市當局ニ於テ町村時代ニ採リ來リタル從來ノ方法ヲ變更サレタルニ因ルモノナリヤ、尙ホ勞働賃銀ノ如キ、舊市域ト新市域トハ頗ル懸隔アリ、是等ハ統一スル能ハザルヤ。第四、下水道工事ハ、市郡合併以前工事著々進捗シ居タリシニ拘ラズ、合併後ハ殆ド停頓狀態ナリ、此ハ如何ナル理由ナリヤ、豫定期日迄ニ竣成シ得ル確信アリヤ。第五、新市域ニハ下水道出張所分室ト稱スルモノヽ新設アリ、同所ニハ尠カラザル職員モ來リ居レルガ、何等爲スベキ職務ナキガ如シ、而シテ出張所長ハ、自己ノ所管分室ヲ嘗テ一回モ巡視シタル事ナシト聞ク、仍テ斯ノ如キ分室ハ不必要ノモノトセバ廢止スルニ若カズト考フルモ、本員ハ寧ロ新市域ニモ獨立シタル出張所ノ新設ヲ必要ト考フ、市理事者ノ所見如何。第六、方面事務ハ救濟事業ノ根本ニシテ、最モ重要視スベキモノナルニ拘ラズ、獨立シタル事務所ナク、下水道出張所分室ノ一隅又ハ方面委員ノ私宅ノ一部ヲ借受ケ、而シテ一人ノ書記ガ此ノ繁劇ナル事務ヲ處理シ居ル現狀ナルヲ以テ、市當局ガ如何ニ方面事務ノ能率ヲ擧グルヤウ督促スルモ、能率ノ擧ラザルハ當然ナリト考フ、仍テ此ノ方面事務ノ中心ヲ區役所ニ委讓シ、區役所ニ於テ執務セシムル事トセバ、豫算計上ノ點ヨリスルモ、事務ノ統制上ヨリ見ルモ、將又能率向上ノ點ヨリスルモ、最善ノ方法ナルベシト考ヘラルヽガ、理事者ノ所見如何。第七、市郡合併直後ニ於テ人事行政上遺憾ノ點アリシハ已ムヲ得ザリシモ、合併後既ニ相當時日モ經過セル今日尙ホ適材ヲ適所ニ居ラシメズ、合併直後當時ノ儘ナルハ甚ダ遺憾ナリ、第八、新市域ニ於ケル塵芥處理方法ハ、各區各町何レモ區々ナルガ如シ、是等區々ナル取扱ヲ統制シ、舊市同樣統一セラレンコトヲ望ム、尙ホ新市域ニハ公設便所ノ設備ナキハ遺憾ナリ、是等衞生施設ニ對スル當局ノ所見如何、之ヲ要スルニ今日市理事者ノ方針ハ、舊市域ニ厚ク、新市域ニ薄キガ如ク考ヘラル、此ハ本員一人ノ考ヘニアラズシテ、新市域選出ノ同僚六十名何レモ同樣ナルベシト思惟スト。第一助役齋藤守圖君答ヘテ曰ク、市郡合併直後、町村役場タリシ當時ノ事務ト區役所ノ事務トガ一致セザル點アリシ爲、新市域ノ人事行政ニ遺憾ノ點アリシヤモ知ルベカラズ、然レドモ人事行政ハ新舊兩市域共適材ヲ適所ニ置ク方針ニテ、此ノ點今後一層考慮セント欲ス。塵芥ノ處理ヲ全體的ニ統一セント欲スルニハ、五六拾萬圓ノ經費ヲ要シ、費用ノ關係上、新市域ノ人々ニ對シテハ、現狀ノ儘今暫ク忍バレンコトヲ願ハザルベカラザルモ、目下內務省ノ衞生當局トモ協議中ニテ、近ク何等カノ方法ニテ全體的ノ統一ヲ講ゼント欲ス。公設便所モ全體的施設ヲ爲サント欲セバ、約參拾萬圓ノ豫算ヲ要シ、早速ニ新市域全部ニ亘リテ之ヲ增設スル事ハ甚ダ困難ナルヲ以テ、漸ヲ追ウテ增設スル考ヘナリ。最後ニ一言セント欲ス、市當局ハ新舊兩部ニ對シ何等差別ヲ設ケズ、一視同仁、渾然タル一體ト考ヘ居レリ、唯新市部ニハ新ニ施設スベキ事業多ク、從テ豫定事業ニ對スル著手事業ノ比率劣ルモ、是レ亦經費負擔ノ關係上、豫定事業全部ヲ速急ニ行フ能ハズ、仍テ負擔ノ過重ヲ來サヾル範圍ニ於テ、能フ限リノ施設ヲ爲サント欲スト。次イデ電氣局長立石信郎君ハ、新ニ東京市ニ編入セラレタル方面ノ交通機關ハ、大部分民營若クハ鐵道省自身ノ經營ニシテ、東京市自身ニテ經營シ居ルハ極メテ少部分ナリ、而シテ新市域ヨリ舊市域ニ乘入ル、モノ、中、省線ノ東京驛乘入ノ外、二三ノ例外アルモ、大部分ハ新舊兩市域ノ境ニ於テ

乘換ヘザルベカラズ、是等ヲ如何ニシテ市電ニ聯絡セシムルカヾ目下ノ急務ナリト考フ、將來新市域ガ發展充實シ、人口モ增加シ、道路ノ改築等モ完成シタル曉ニハ、市電ニ於テ相當考慮セザルベカラザル時期モ到來スベシト考フルモ、既ニ新市域ニ於テモ交通機關ハ相當發達シ居レルニ、更ニ市ノ交通機關ヲ引入ル、事ハ、既存會社ニ對スル影響等ニ就キ、充分考慮セザルベカラズト考フ。尙ホ千住線、飛鳥山線ノ特別料金ヲ七錢均一制ト爲シテハ如何トノ質問モアリタルガ、舊市街ハ電車ハ總テ網狀線ニシテ、新市域ニ向フ電車ハ放射狀線ナリ、此ノ放射狀線ニ對シテ均一制ヲ採用スル事ハ、電車經營上不可能ナルベシト思惟スト答ヘ。第二助役**菊池愼三君**ハ、東京市域擴張ノ機運熟スルニ從ヒ、各町村ニ於テ小學校建設計畫ヲ行ヒ、其經費ハ莫大ナル額ニ上レリ、最モ質問ノ要旨ハ建設ニアラズシテ改築ニ在リ、而シテ新市域ニ於ケル小學校ノ改築ハ不充分ナルニ拘ラズ、舊市域ニ於テハ四百萬圓近キ改築費ヲ計上セルハ、舊市域ニ厚ク、新市域ニ薄キ措置ニアラズヤト論ゼラルヽモ、此ノ四百萬圓ハ舊市域ニ於テ人口增加ノ激シキ月島、深川、芝浦、淺草等ノ各方面ニ於テ、小學校ヲ增設セザルベカラザル增設費ヲモ包含シ居ルモノニテ、吾々ハ新舊何レノ市域ニ對シテモ輕重ノ差別ヲ設ケズ。教育施設ノ充實改善ニ就イテハ、財政ノ許ス範圍ニ於テ能フ限リノ努力ヲ致シ、遺憾ナキヲ期セント欲ス。下水道ハ私ノ所管ニアラザルモ、便宜上私ヨリ答辯スベシ、新市域ノ下水道ヲ郊外下水道ト稱シ居レルガ、郊外下水道改良ニ就キ、取敢ヘズ五箇年間ノ施設トシテ壹千貳百萬圓ノ繼續費ヲ豫算ニ計上シ、目下工事中ナルガ、下水道事業ハ舊市域ト雖モ其完成マデニハ今後尙ホ十ケ年以上ヲ要スベク、從テ郊外下水道モ其完成ニハ今後尙ホ多大ノ金額ト歲月トヲ要スベシ、又下水道ノ設計調査完了セザル町村ニ對シテハ、調査費拾六萬圓ヲ計上シタルガ、此ハ緩急ニ應ジテ調査シ、其設計ノ出來次第繼續費ヲ追加スル事トセリ、斯テ郊外下水道ノ完成ヲ期スベク努力シツヽアリ。町村時代ニ著手シタル事業ニシテ、市ニ移管後豫定ヨリ遲延シタルモノアルベシトハ、吾々モ認ムル所ナルガ、何分ニモ行政上ノ大變動ニ伴ヒ種々ナル手續ヲ要シタルト、且ツ町村時代ニ爲サレタル設計ノ如キモ、各町村夫々多少ノ相違アリ、會計事務ノ如キモ、各町村區々ナル取扱ヲ爲シ居レルモアリ、是等ヲ統一スル爲合併當初多少工程ハ遲延シタル所モアルベシ、然レドモ大局ヨリ見ル時ハ、從前ニ比シ工程ハ遙ニ進捗シ居レリト確信ス。新市域ニ獨立シタル下水道出張所ヲ新設スベシトノ意見ニ就イテハ、將來新市域ニ於ケル下水道工事範圍擴大シタル場合ニハ、勿論其必要アルベシト考フルモ、今日ハ業務ノ關係上現在ノ配置ヲ以テ適當ト考ヘ居レリト答ヘ。社會局長**山下又三郎君**ハ、從來各町村毎ニ施行シ居タル失業救濟事業ハ市郡合併ニ因リ其儘市ニ引繼ガレ、市ハ之ヲ一般的ニ取扱ヒタル結果、或町村ハ從前ニ比シ就勞率惡ク、又或ハ從前ニ比シ良好トナリタル町村モアルベシト考フ、然レドモ是等ハ漸次整理モシ、且ツ設計變更ノ爲遲延シタル事業モ、設計完了シテ事業ニ著手シ得ル運トナリ、最近ハ大體新舊同樣ノ率ニテ就業シ得ル見込ナリ、即チ舊市部ノ就勞率四日二分ニ一日、新市部ハ四日七分ニ一日ノ割合ナルガ、今後新舊共ニ一層就勞率ヲ良好ナラシムルヤウ計畫ヲ進メ居レリ。賃銀モ新舊ニ差異アラバ、不公平ナキヤウ整理統一セント欲ス、方面事務ニ就イテハ、事務員ノ不足、事務所ノ不完備等甚ダ遺憾ニシテ、此ノ點同感ナルモ、現在ニ於テハ經費ノ關係上已ムヲ得ズト考フ、勿論今後是レガ整備改善ニ就イテハ大イニ努力セント欲ス。方面事務ヲ區役所ニ委讓シテハ如何トノ意見ハ、當局間ニモ其意見アリテ、甚ダ理由アル事ト考ヘラレ、今後ノ研究事項トシテ、充分調査研究セント欲スト答ヘタリ。

次ニ**花村四郎君**ハ、質問ニ先立チ議事進行ニ就テ一言セント欲ス、吾ガ東京市政上改革スベキ事項尠カラザルモ、先ヅ第一ニ市會自體ヨリ改革セザルベカラザル事ヲ本員ハ痛切ニ感ジタリ、昨日ノ市會ハ午後二時ヨリ開會スベシトノ通知ナリシガ、實際ハ驚クベシ午後十時ニ至リテ漸ク開會シタル始末ニアラズヤ、尤モ昨日ハ種々ナル準備其他ノ事

情アリシヲ以テ、已ムヲ得ズトスルモ、昨日ノ繼續會議タル本日、議長ハ午後二時ヨリ開會スベシト宣告シタルニ拘ラズ、是レ亦午後四時ニ至リテ漸ク開會セリ、斯ノ如ク時間ノ觀念ナクシテ市政上ニ如何ナル改革ヲカ爲シ得ベキ、吾々市會議員ハ自ラ大ニ省ミザルベカラズト考フ、更ニ市當局ニ對シテモ一言セント欲ス、昨日ノ議事日程ニ掲グラレタル議案數九十ノ多キヲ數ヘ、吾々ノ手許ニ屆ケラレタル議案ハ、机上山ヲ成セリ、斯ノ如キ多數ノ議案ガ吾々ノ手許ニ屆ケラレタルハ、市會開會三日前ナリ、吾々市會議員如何ニ精力アリト雖モ、僅々三日間ニテ此ノ多數ノ議案ヲ審査研究シ盡サン事ハ、到底不可能ナリ、殊ニ各派交渉會ノ席上ニ集ル少數ノ人々以外ニハ、何等ノ說明モ爲サズシテ、其大部分ヲ即決セシメントスルガ如キハ、吾々百數十名ノ市會議員ヲ侮辱シ、市會ヲ無視スルモノト云ハザルベカラズ、昨年末及ビ去ル十六日ノ會議ニ於テ、市當局ハ市會ニ提出スベキ議案ナシト公言シタルニアラズヤ、然ルニ本日九十ニ餘ル議案ヲ議事日程ニ掲ゲタリ、而モ此ノ中ニハ東京市政ノ原動力タル最重要議案、即チ昭和八年度歲入出豫額案ヲモ含メリ、市當局ガ此ノ如ク議員ヲ侮辱シ、市會ヲ無視スルガ如キ態度ニテ市會ニ臨ミテハ、東京市民ノ實生活ニ即シタル市政ノ改革ノ如キハ、到底不可能ナリト本員ハ斷言シテ憚ラズ、仍テ市當局モ市會議員モ、以上ノ諸點ヲ考慮シ、議員ノ言論ノ自由ヲ制限スル事ナク、充分愼重審議ヲ爲シ得ルヤウ、議事ノ進行ヲ圖ラレンコトヲ切望ス。扨テ本員ガ本日第一ニ市當局ニ質サント欲スルハ、市事務取扱ノ民衆化ナルガ、本員自身ノ體驗ニ據レバ、同一事件ニ就キ一市民トシテ市役所ニ來リタル場合ト、一市民ナルモ市會議員ノ紹介狀ヲ持參シタル場合ト、更ニ市會議員ニ當選シ議員ノ資格ヲ得テ來リタル場合トニテ、市吏員ノ應接、事件取扱方等ニ格段ノ相違アリ、同一人ナルニ拘ラズ一市民トシテ來リタル時、市吏員ノ態度ハ傲慢ニシテ、應接ハ不親切ヲ極メ、事件モ急速ニ運バシメザリシガ、市會議員ノ紹介狀ヲ持參シタル時ニハ、應接モ不親切ナラズ、事件ノ取扱方モ好意ヲ以テセリ、而シテ市會議員ノ資格ヲ得タル今日、一市民トシテノ要件ニテ市役所ニ來ルモ、市吏員ノ應接ハ涙グマシキマデ懇切丁寧ニシテ、市會議員ノ有難味ヲ市役所ニ來リテ始メテ痛切ニ感ジタリ、想フニ東京市役所ハ、東京市民アリテノ市役所ニシテ、市役所アリテノ市民ニアラズ、市會議員亦然リ、聞ク英國等ニ於ケル市吏員ハ市民ニ對シ、恰モ營利會社ガ顧客ヲ取扱フ如ク懇切丁寧ナリト、斯テコソ眞ニ自治ノ本義ヲ發揮シ得ラル、事ト考フ、市當局ハ事務取扱ノ民衆化ヲ考ヘタル事アリヤ否ヤ。第二、新宿ノ市電終點ハ交通頗ル頻繁ナルニ、道路極メテ狹隘ナリ、然ルニ此處ニ電車ト自動車トノ折返ヲ爲シ居レルヲ以テ、市民ハ甚シキ危險ト不安トヲ感ジ居レリ、而カモ市當局ハ今日マデ何等ノ對策ヲモ講ゼザリシト聞ク、尙ホ聞ク所ニ據レバ、新宿終點ニ在ル現在ノ車庫ヲ淨水場ニ移轉セシムル計畫ナリト、淨水場前ノ專賣局ハ遠カラズ他ニ移轉サルベク、專賣局ノ移轉後現在ノ淨水場前ハ、同方面ニ於ケル交通運搬ノ中心地トナルベキ事言ヲ俟タズ、故ニ現在ノ車庫ヲ淨水場ニ移轉セシムレバ、更ニ再ビ他ニ移轉セシメザルベカラザル運命ニ遭遇ス、斯テ新宿ヨリ淀橋ヲ經、更ニ中野、杉並ト車庫ヲ轉々セシムル愚ヲ爲サズ、當初ヨリ杉並ノ如キ交通繁劇ナラザル處ニ車庫ヲ設ケ、市電ヲ同方面マデ乘入ル、將來ノ大計ヲ考慮シタル事アリヤ否ヤ。第三、東大久保所在ノ市立病院ハ、東京市立病院中最モ小規模ナルガ、今日マデハ四谷方面ノ市民ノミヲ目標トシタル關係上、其小規模ナリシ事ハ、寧ロ機宜ニ適シタル處置ナリシナランモ、市域擴張ノ結果、淀橋、中野、杉並等ニ亙ル市民ヲモ收容セザルベカラザル情勢トナリタル今日、是レガ擴張ハ焦眉ノ急務ナリ、而シテ同病院敷地內ニ病舍トシテ充分使用シ得ル建物ニシテ、風雨ニ曝セルマヽ使用シ居ラザルモノアリ、仍テ多額ノ經費ヲ要セズ即座ニ擴張シ得ベシト考フ、市當局ノ所見如何ト質セリ。此ノ時議長(副議長溝口信君)ハ、花村君ノ議事進行ニ關スル意見ニ對シ一言シ置カント欲ス、花村君ノ意見ノ要旨ハ、市政刷新ノ第一義ハ市會自體ノ革正ニアリ、而シテ其第一ハ時間ノ勵行ニアリト承知セリ、此ハ議

長ニ於テモ花村君ト同感ナリ。昨日ハ花村君ノ言ハル、ガ如ク、審議スベキ議案多カリシ爲、審議打合セ、議案整理等ニテ意外ニ時間ヲ費シタリ、本日ハ當職ガ正二時ヨリ開會スベキ事ヲ昨日此ノ席上ニ於テ宣言シタルニ拘ハラズ、二時ヲ過グルモ出席者定數ニ滿タズ、漸ク定數ニ滿チタルハ三時半過ギナリキ、仍テ議員各位ニ於カレテモ花村君同樣ノ觀念ヲ以テ、今後時間ヲ嚴守サレンコトヲ切望ス。尙ホ此ノ際序ニ一言セント欲ス、諸君ヨリ提出サル、質問書、建議案等ハ、事務取扱員ヲシテ能フ限リ提出者ニ便宜ノ取扱ヒヲ爲サシメ居ルモ、質問書又ハ建議案等ヲ諸君ヨリ提出アリタル其日直ニ議題ニ供スルヤウ、其全文ヲ活字又ハ謄寫版等ニテ印刷シ、之ヲ全議員ニ配付スル事ハ容易ノ業ニアラザルヲ以テ、能フ限リ事務局員ノ手廻リ得ルヤウ諸君ノ配慮アランコトヲ切ニ希望スト述ベ。次デ**齋藤助役**ハ、市役所ハ市民ノ役所ナル事ヲ吏員全部ガ承知シ居ル筈ナルヲ以テ、市會議員タルト否ラザルトニ由リ差別待遇ヲ爲ス筈ナキモ、多數ノ吏員中或ハ注意ノ行屆カザル者アルヤモ知レズ、今後左樣ノ不注意者ノ在ル事ニ氣附カレタル場合ハ、腹藏ナク直接私ヲ鞭撻サレンコトヲ懇願スト答ヘ。**立石電氣局長**ハ、新宿市電終點附近ハ近來異常ナル發展ヲ爲シ、運轉交通上頗ル混雜ヲ來セルガ、近ク專賣局ハ他ニ移轉シ、同處ニ大廣場ヲ設ケ、而シテ省線、市電、郊外電車等ヲ此處ニ集メ、聯合「ステーション」トモ云フベキモノヲ設置スベク、目下內務省都市計畫委員間ニ於テ考慮サレ居ルヲ以テ、此ノ機會ニ於テ市電モ其廣場ヲ利用シ、車庫ニ適當ナル位置ヲ選定シテ交通ノ不安ヲ除カント欲シ、都市計畫委員ニモ研究サルルヤウ依賴セリ。杉並方面ヘ市電ヲ乘入ルル事ハ市電トシテハ好都合ナルモ、同方面ニハ西武電車會社ガ電車ノ運轉ヲ經營シ居リ、又東京乘合自動車ノ外、靑「バス」ト稱スル自動車會社ノ經營スル乘合自動車ノ運轉アリ、尙ホ是等ト併行シテ省線モ運轉シ居レルニ、更ニ市電ガ競爭ニ參加スル事ハ、各種ノ事情ヨリ甚ダ困難ナリト考フト答フ。斯テ**花村君**ハ自席ヨリ、病院問題ニ關シ未ダ答辯ナシトテ理事者ノ答辯ヲ求ムルヤ、**齋藤助役**ハ、保健局長ハ本日缺席セルヲ以テ、私ガ代テ答辯スベシ、大久保病院其他市立ノ各病院ノ連絡竝ニ擴張其他統制等ニ就キ、保健局ニ於テ目下研究中ニシテ、大久保病院ヲ如何ニスベキカトノ具體的ナル事ニ就キテハ、今日未ダ答辯シ得ル機會ニ達シ居ラズト答ヘタリ。

越エテ五月十三日ノ會議ニ於テ、**森富太君**ハ、目下深川全區民ガ擧テ撤去方ヲ要求シツ、アル塵芥燒却場ハ、獨リ深川區民ノミノ問題ニアラズシテ、五百萬市民ノ重大問題タルベシト考フ、現在使用セル塵芥燒却釜ハ、市當局ニ於テ幾多ノ反對ヲ押切リ、百參拾萬ノ鉅費ヲ投ジ、完全燃燒ヲ爲ス最良品ナリトシテ製作シタルモノナルニ拘ラズ、其實狀ハ如何、臭氣芬々タル黑煙濛々トシテ全市ヲ蔽ヒ、風向キニ依リテハ畏レ多クモ宮城ニ迄及ベル始末ニアラズヤ、當局ハ過般一箇ニ付八萬圓ノ費用ヲ投ジテ、幾本カノ大煙突ヲ新設シタルモ、當局ガ完全ナル良品ト稱スル現在ノ釜ハ、塵芥ヲ燃燒スルニアラズシテ、燻焦スルニ過ギザル不完全ノモノナルヲ以テ、如何ニ煙突ヲ高クシ、幾本ノ煙突ヲ增スモ、臭氣芬々タル黑煙ヲ如何トモスル能ハザルベシ、元來市理事者ハ塵芥處理問題ニ就テハ甚ダ冷淡ナルモ、本件ハ前ニモ述ベタル如ク頗ル重大問題ナリ、理事者ハ塵芥處理問題ニ關シ將來如何ナル方針ヲ採ラントスルカ、燒却處理ヲ爲スモノトセバ、現在ノ釜ニ充分ナル改良ヲ加ヘント欲スル考ヘナリヤ、或ハ全然新ナルモノニ變更スル考ヘナリヤ、將又塵芥燒却場ヲ深川區民ノ要求スルガ如ク、他ニ移轉スル考ヘナリヤ、通リ一片、其場遁レノ答辯ニアラザル、責任アル明確ナル答辯アランコトヲ望ム。尙ホ上野公園電車乘入レニ關シ、筑波鐵道會社ヨリ認可申請ノアリタル際、地下ヲ深ク掘鑿スベキ事ヲ條件トシテ同意シタルモノナルガ、筑波鐵道ガ京成電車ニ合併シ、京成電車會社ヨリ深掘ヲ淺掘ニ作業ノ變更ヲ求メ來ルヤ、公園委員會ハ勿論、全市民ハ之レニ反對シタルガ、其反對ノ聲ハ須臾ニシテ霧ノ如ク消エ去レリ、右ニ對スル市理事者ノ所見如何。更ニ本市ノ有スル新宿東京驛間地下鐵道敷設權ニ就

テモ、是レ亦市理事者ハ委員會等ノ反對ヲ押切リ、門野重九郎氏ヲ代表者トスル高速鐵道會社ニ金五拾萬圓ニテ讓渡セリ、昨年十月一日其讓渡契約ハ成立シタルモノナルガ、契約成立後一箇年ノ間ニ於テ工事ニ著手セザル時ハ、敷設權ハ東京市ニ返還スベキ事ヲ約セリ、然ルニ會社ハ未ダ工事ニ著手セズ、代表者タル門野氏ハ洋行中ニシテ、契約期間内ニ工事ニ著手スベシトハ考ヘラレズ、一方本市ハ目下ノ問題タル防空施設等ニ就キテ考慮セザルベカラズ、是等ト關聯シテ、此ノ地下鐵ニ對シ、今後如何ナル措置ヲ採ラントスル考ヘナリヤ。本市經營ノ電車ハ毎日壹萬五千圓宛ノ缺損ヲ爲シ居レルガ、之レガ改善策如何。尚ホ市營「バス」ハ曹「バス」ニ押サレツツアリ、城東方面ニ於テモ、市營「バス」ノ運轉スベキ路線ヲ城東「バス」ニ奪ハレタリト聞ク、本員ハ牛塚新市長ニ對シ、今後ノ市政ニ大ニ努力セラレンコトヲ希望スルト共ニ、以上ノ諸點ニ就キ明快ナル答辯アランコトヲ望ムト質シタルニ對シ。保健局長**宮川宗德君**ハ、深川ニ於ケル塵芥燒却工場煤煙問題ニ就キ、先般來各位ニ多大ノ配慮ヲ煩ハシ、當事者タル吾々ハ衷心ヨリ恐縮シ居レリ、兎ニ角煤煙ノ防止ハ緊急差擱キ難キ事柄ナルヲ以テ、市長モ就任早々同工場ヲ視察サレタルガ、煤煙防止ニ就キ最善ノ努力ヲ拂フ事ガ現下ニ於ケル吾々ノ任務ト考ヘ居レリ、燒却爐ノ撤廢又ハ現在ノ場所ニ其儘存置スルヤ否ヤニ就テハ、今日茲ニ言明スル能ハザルモ、能フ限リ各位ノ期待ニ副ヒ得ルヤウ努力セント欲スト答ヘタルガ、他ノ質問ニ對シテハ、理事者ヨリ何等ノ答辯ナク、質疑應答ヲ打切レリ。

次デ七月二十日ノ會議ニ於テ、**瀧澤七郎君**ハ、玉川水道株式會社ハ、先般本市ヨリ七錢ニテ讓受ケタル水量ヲ拾四錢ニテ市民ニ供給シ居レリト聞ク、本市ハ會社ニ對シテ監督權ハ有セザルモ、右ニ對シ何等カ好意的ノ忠告ヲ爲シタル事アリヤ否ヤ、本筋ノ質問ヲ爲スニ先ダチ、右市長ニ質シ置カント欲スト述ベタルニ對シ。水道局長**原全路君**、右ハ當席ヨリ答辯セント欲ス、本市ヨリ玉川水道ヘ水ノ分讓ヲ爲シタル際、玉川水道ノ水質惡キ期間中、能フ限リ低廉ノ料金ニテ市民ニ供給サレタシトノ希望ヲ附シテ分讓シタルナリト答ヘタリ。斯テ**瀧澤君**ハ本筋ノ質問ニ入リ曰ク、第一、新市域ニ於ケル瓦斯料金ハ、今日尚ホ舊郡部時代タリシ當時ノ儘ニテ、舊市部ニ比シ高價ナルガ、右ニ關シ市長ハ瓦斯竝ニ計量器等ノ料金低減ヲ會社ニ交渉シタル事アリヤ否ヤ。第二、市域ハ擴張シタルモ、電話モ亦舊郡部時代ト異リタル所ナク、非常ニ不便ヲ感ジ居レリ、市長ハ之レガ統制ニ關シ遞信省ト交渉シタル事アリヤ否ヤ。第三、玉川水道會社ハ本市ヨリ水ノ分讓ヲ受ケ、而シテ今日果シテ之ヲ市民ニ低廉ニ供給シ居レリヤ否ヤ、同會社ハ早晩本市ニテ買收スル事トナルベク、本市ヨリ七錢ニテ分讓ヲ受ケタル水量ヲ拾四錢ニ供給シ、會社ガ其儘倍額ノ暴利ヲ貪リ居ルガ如キ事アラバ、之レガ買收ノ際ハ、高額ノ料金ニテ購入セザルベカラザル運命ニ遭遇スベシ、仍テ會社ニ對シ充分好意的忠告ヲ爲スノ必要アリト信ズ。第四、板舟權交付金ハ市會ニテ議決サレ、配當審査委員會モ設ケラレタルガ、其後本件ハ其儘何等ノ進捗モ聞カズシテ今日ニ及ベリ、元來板舟權交付金問題ニ就テハ、本員ハ絶對反對ヲ標榜シタル一人ナルガ、既ニ市會ニテ議決シタル以上、其議決ハ尊重セザルベカラズ、仍テ敢テ問フ、市長ハ此ノ交付金ニ對シ如何ナル處置ヲ爲サントスルヤ。第五、昨年本市ヨリ地下鐵道敷設權ノ讓渡ヲ受ケタル民間會社ハ、本年九月マデニ會社ガ成立セザル時、該讓渡契約ハ無效ニ歸スル事トナリ居レリ、九月モ既ニ間近ニ控ヘタル今日、會社ハ現在如何ナル狀態ニ在リヤ、市長ハ會社設立當事者ト何等カノ交渉ヲ爲シタル事アリヤ。第六ハ、市吏員ヨリ怨ヲ買フ質問ナルヤモ知ルベカラズト雖モ、本市將來ノ爲一言セザルベカラズ、其ハ本市ノ恩給ナルガ、此ノ率ハ他ニ比シテ高率ナリ、元來本市ノ恩給令制定當時、官尊民卑ノ思想盛ニシテ、人材ハ多ク官廳ニ赴キ、本市ニハ其人ヲ得ル事甚ダ困難ナリシヲ以テ、國家ノ恩給率ニ比シ、本市ノ恩給率ヲ有利ナラシメタルニ因ル、然ルニ今日市吏員二百名ノ募集ニ對シ、數千名ノ應募者アリ、殊ニ國家試驗ノ合格者サヘ、市吏員ノ試驗ニ合格スル能ハズシテ、採用サレザル

現情ナリ、東京市ノ恩給ハ十箇年ニシテ受給資格ヲ得、其率ハ最低百分ノ二十五、最高ハ百分ノ八十ノ割合ナルヲ以テ、從來年俸八千圓ノ吏員ニシテ壹萬圓ノ俸給トナリテ辭任シタル場合、其收入ハ辭任以前ト同額ナリ、職ヲ得ント欲シテ容易ニ得ラレザル今日、而モ財政窮乏セル我ガ東京市ニ於テ、恩給令ノ改正ハ焦眉ノ急務中ノ一ナリト考フ、市長ノ所見如何。第七、市長ハ瑣末ノ點ニモ克ク注意ノ行屆ク仁ナルヲ以テ、本員モ細微ノ點ニ就キ尙二三質サント欲ス、最近薄給者間ニ二食主義ノ流行アリト聞ク、東京市ニ缺食兒童ト稱スルモノアリ、薄給者ノ二食主義ヲ缺食「サラリーマン」トハ稱セザルモ、朝夕ノ二回ニテ、晝食ヲ取ラザル結果、本員ハ事務ノ能率ニ影響スル事ナキヤヲ憂フ、本市衞生試驗所ニテ行ヘル榮養食研究ノ結果ニ據レバ、一食四錢六厘ニテ美味ナル榮養食ヲ調理シ得ト云ヘリ、仍テ市長ハ薄給者ニ對シ、一食八錢程度ニテ晝食ヲ與フル事トシ、年末ニ於テ、一食ニ對シ參錢、一箇年二百食トシテ六圓ヲ本人ニ割戻スト云フガ如キ方法ヲ考慮セラレンコトヲ希望ス。更ニ市長ハ、小學校長及ビ區長等ヲシテ、其勤務區內ニ居住セシメント考慮シ居レリト聞ク、果シテ然ルヤ否ヤ、若シ夫レ本所、深川ノ如キ煤煙等ニテ空氣ノ汚濁セル方面ニ勤務スル區長及ビ學校長等ニ對シ、其勤務區內ニ居住ヲ强フルガ如キ事アラバ、保健衞生上決シテ適切ナル處置ト云フ能ハズ、殊ニ小學校長ニ在リテハ、勤務區域ヨリ遠ク隔リタル地ニ居住セル場合ハ其弊害尠キモ、然ラザル場合ハ、兒童ノ父兄ヨリスル贈物等アリテ、僅ナル金額ノ爲ニ累純ノ辱ヲ受クルガ如キ人物ヲモ出シ易シ、綱紀肅正問題ニ就イテハ、木乃伊取ガ木乃伊トナラザルヤウ充分監督ニ注意サレンコトヲ希望ス。此ノ最後ノ質問ニ對シテハ、必ズシモ市長ノ答辯ヲ求ムル者ニアラザル事ヲ附言シ置クベシ。唯答辯ノ如何ニ依リテハ再質問ヲ爲スベク、尙ホ質問セント欲スル事柄ハ尠カラザルモ、時間ニ制限アルヲ以テ他ハ留保スベシト。市長**牛塚虎太郎君**答ヘテ曰ク、第一ト第二トノ質問ニ對シテハ、當議場ニ於テ、如何ナル方面ト如何ナル交渉ヲ爲シタリヤヲ言明スル能ハザルモ、唯公私各種ノ機會ニ於テ、實質ニ觸レタル話合ヲ爲シ居レル事ヲ一言シ置クベシ。第三、水道ニ關スル件ハ、水道局長ノ答辯通リナルガ、質問ノ趣意ニ從ヒ、精々注意スベシ。第四、業者ノ權利利益ノ尊重保護ト市會ノ議決ヲ尊重スル事トニ就テハ、當職モ質問者ト所見ヲ一ニス、但シ本問題ハ法律的ニハ種々議論アルヲ以テ、議論ノ歸結ヲ明確ニシタル後、當議場ニ諮リテ適當ナル處置ヲ爲サント欲ス。第五、現下一般經濟界ハ不況狀態ニ在リテ、高速度鐵道會社モ成立困難ノ情勢ニ在リト聞ケリ、然レドモ未ダ交渉開始ノ時機ニアラザルヲ以テ、本日當議場ニ於テ豫測ヲ言明スル能ハズ。第六ノ恩給制度ニ就キテモ種々議論アリ、又既ニ其一部ヲ改正施行シ居レリ、尙ホ改正スベキ點アラバ改正セント欲ス、兎ニ角右ハ目下主務局ニ於テ調査中ナルヲ以テ、調査完了シタル後ニアラズンバ、是レ亦此ノ席上ニ於テ答辯スル能ハザル事ヲ諒セラレタシ。第七、區長竝ニ小學校長ノ勤務所在地居住ニ關スル瀧澤君ノ意見ハ、吾々ト全然所見ヲ異ニスルモ、瀧澤君ノ意見トシテ承リ置クベシト。

次ニ十月二十七日ノ會議ニ於テ、**花村四郎君**ハ、十九世紀ノ初頭ニ於ケル「ナポレオン」ノ「フランス」都市行政改革ノ斷行、又其中葉ニ於ケル「ドイツ」都市ノ大革新、近クハ過去十年ニ充タザル米國ノ都市行政刷新運動等ニ比セバ、我ガ國ニ於ケル都市行政ノ刷新更生ハ聊カ遲レタル感アルモ、歐米諸國ニ於ケル革新ノ利害得失、竝ニ成敗ノ蹟ニ鑑ミ、充分自治ノ機能ヲ發揮セシムベク、我ガ六大都市ヲ初メトシテ各都市ニ於テ、都市行政革新ノ氣運日ト共ニ釀成セラレツヽアルハ、洵ニ欣喜ニ堪ヘズ、東京市ノ自治行政ニ關與スル人々ハ、本市ノ自治行政ヲシテ今後一層光輝アラシメ、大都市トシテ名實共ニ具ハレル模範都市タラシムルヤウ努メザルベカラズト考フ、然リ而シテ其實現ヲ期スルニハ、市ノ爲ニ一身ヲ捧グル犧牲的精神ヲ以テ、市ノ事務ニ從事セントスル市吏員ノ愛市心ト努力トニ俟ツ事甚ダ大ナリ、故ニ市吏員ノ出所進退、任免黜陟等ニ就テハ極メテ愼重ニ取扱ハザルベカラザルニ拘ラズ、本市ノ人事行政ニ

ハ吾々ノ承服シ得ザル事柄ノ尠カラザルモノアルヲ遺憾トス、身分保障ノ如キモ、東京市吏員ハ他ノ官署、公署ニ比シ甚ダ劣レリ、殊ニ遺憾ナルハ、有力ナル支援者ヲ背後ニ有スル者ハ容易ニ榮達シ、身分モ保障サルヽガ、背景ヲ有セザル市吏員ノ地位ハ、恰モ風前ノ燈ノ如シ。而モ背景ヲ有スル者ハ其背景ヲ恃ミ、之ヲ有セザル者ハ自己ノ地位ノ不安ヲ感ジ、何レモ献身的ニ服務セズ、斯テハ到底自治ノ機能ヲ發揮セシムル能ハズ、從テ我ガ東京市ヲシテ模範都市タラシムル事ハ得テ望ムベカラズ、惟フニ我ガ國ニ自治制施行セラレテ、既ニ四十有餘年ノ歳月ヲ閲ス、然ルニ毫モ其進歩發達ヲ見ザルハ、蓋シ自治政ニ關與スル人々ガ何レモ黨政觀念ニ驅ラレ、無益ノ鬪爭ヲ是レ事トシ居ルニ因ルト云フモ、決シテ過誤ノ觀察ニアラズト思惟ス。英國ノ自治ガ世界ニ於ケル模範トシテ、圓滿ナル進歩發達ヲ爲セル所以ハ、同國ノ自治政ニ關與スル人々ハ全然黨派心ヲ去リ、何レモ公正無私ニ自治制ヲ運用セルニ在リ、過般ノ人事異動ニ於テ、局課長ノ多クハ外部ヨリ拉シ來レルガ、掛長、課長、局長ノ如キ地位ハ、有能ナル吏員ヨリ漸次拔擢シ、以テ彼等ノ爲ニ榮進ノ途ヲ講ズベキガ市理事者ノ爲スベキ當然ノ措置ニアラズヤ。本員ハ局長ノミナラズ、更ニ進デ助役ヨリ市長ニ至ルマデ、市吏員ヲ拔擢スベキモノトノ理想ヲ有ス、然ルニ近時本市ニ行ハルヽ局課長ノ異動ニハ、外部ヨリ拉シ來レル局外者ヲ以テスルガ故ニ、東京市ハ老朽官吏ノ救濟所ニアラズンバ、其養老院ナリトノ悪評ヲ受クルニ至ル、勿論場合ニ依リテハ、更始一新ノ氣運ヲ作ル意味ニ於テ、外部ヨリノ採用モ一種ノ清涼劑トシテ、必ズシモ不可ナシト雖モ、此ノ如キハ原則ニ對スル例外ニシテ、時ト場合ニ依リテハ不可ナシト云フニ過ギズ、然ルニ例外ト原則トヲ混淆シ、例外ヲ恰モ原則ノ如ク取扱ヒ、而シテ外ニ厚ク内ニ薄キ人事行政ハ、失當モ亦太甚キモノト斷言シテ憚ラズ、右ニ對スル市長ノ所見如何。尚ホ先日ノ某新聞紙上ニ、區長及ビ課長級ノ馘首セラルベキ人々ノ氏名ノ掲載アリキ、發表以前祕密ニスベキ斯ノ如キ事柄ガ事前ニ漏洩スルハ、吏員ノ思想上ニハ勿論、事務ノ能率上ニモ大ナル惡影響ヲ及ボスベシ、市長ハ右ニ關シテ如何ナル責任ヲ執ラントスルカ、是レ質問ノ第一ナリ。第二、市長ハ財政緊縮方針トシテ、各區役所及ビ局課ニ對シ、人件費ト物件費トノ一割減ヲ提唱シ、尚ホ財源ノ存スル事柄ハ格別、然ラザル事業ハ見合ハスベシトノ通達ヲ爲シタリト聞ケルガ、人件費ト物件費トノ節約ガ、本市總支出ノ合計ニ比シ幾許ノ財源ヲ捻出シ得ルヤ、而シテ此ノ財源ヲ如何ニセントスル考ヘナリヤ、若シ此ノ財源ヲ以テ新ナル事業ヲ爲サント欲スル考ヘナラバ、如何ナル事業ノ計畫アリヤ、尚ホ人件費一割減ニ伴ヒ、當然附隨シテ起ルベキ失業問題ヲ考慮シタリヤ、失業救濟ハ國家ニ於テモ重大視セル問題ナリ、物件費モ一割ヲ減ジ、而シテ吏員ニ湯茶ヲモ飲マシメズ、寒中モ火ナク煖房ナキ室ニ於テ執務セシメント欲スルニ在リヤ、惟フニ鼠ノ糞ニモ等シキ費用ヲ節約スルニアラズンバ、東京市ノ財政ハ救ヒ得ズト考ヘ居レリヤ。市郡合併シテ大東京ハ實現シ、既ニ一年有餘ヲ經過シタルモ、新市域方面ニ於ケル新規事業ハ、單ニ名目ヲ列擧シタルノミニシテ、何等ノ事業モ爲シ居ラズ、道路ノ如キモ合併以前ニ於テハ、一ケ年ニ幾回トナク各路面ニ「バラス」ヲ敷キテ、通行者ノ利便ヲ圖リツヽアリシニ、合併後ハ一回モ「バラス」サヘ敷キタル事ナキ始末ナリ。其他衛生施設ト云ヒ、清掃事業ト云ヒ、新市域ハ合併後實質的ニ何等ノ恩惠ニ浴シ居ラズ、而シテ是等事業ノ促進ヲ市理事者ニ望ムモ、理事者ハ其費用ナシトテ、川田君モ指摘シタル如ク唯徒ニ愁訴スルノミナリ、斯テハ何レノ日ニ於テ名實共ニ具ハレル大東京市ヲ實現セシメ得ベキ。飜テ東京市ノ財政狀態ヲ見ルニ、保有財産ハ八億壹千四百萬圓ヲ算シ、普通經濟ハ、復興事業外債利子、即チ六百參拾萬圓ノ補給利子ヲ除外セバ、大體ノ「バランス」ハ取リ得、市債ハ七億壹千九百餘萬圓ノ鉅額ニ上ルト雖モ、其大部分ハ公益企業ニ投ジタル市債ナルヲ以テ、決シテ憂フベキ借財ニアラズ、殊ニ我ガ東京市民ノ負擔能力ハ、他ノ五大都市ニ比シ頗ル良好ナル狀態ニ在リ、然ルニ緊縮政策ヲ堅持シ、東京市ノ發達ニ資スベキ費用ノ支出ヲ惜ミ、費用ナシトテ徒ニ愁訴スル

ノミニテ何事ヲモ爲ザヾルハ、如何ナル理由ナリヤ、其意ヲ解スルニ苦ム、仍テ敢テ市長ノ所見ヲ問ハント欲ス。尚ホ度量衡器ノ取締ハ、第一種ト第二種トニ區分セラレ、第二種ハ市長ノ取締ニ屬シ、市吏員ガ商店ヘ出張シテ檢査ヲ爲セルモ、第一種ハ府知事ノ取締ニ屬シ、此ハ一定ノ場所ヘ重量アル度量衡器ヲ運搬シテ檢査ヲ受クルモノナルヲ以テ、種々ナル不便アリ、爲ニ舊市域ニ於テハ、今日一定ノ場所ニ運搬スル取扱方法ハ廢止セラレ、第二種ト同樣ノ取扱ヒナルニ拘ラズ、新市域ハ從前通リ不便ナル取扱ヒヲ爲セルハ如何ナル理由ナリヤト質シタルニ對シ。**牛塚市長**ハ、人事行政ニ就テハ、公正無私ニ行フヤウ考ヘ居レリ、市吏員ニハ今日身分保障ノ制度ナキモ、私ガ人事行政ノ中心ヲ握リ居ル以上、余ノ統率下ニ在ル吏員ハ常ニ安心シテ常務ニ從事シ得ルヤウ心懸ケ居レリ、最近ノ人事ニ對スル花村君ノ批評ハ、批評トシテ謹聽セリ、唯私自身トシテハ適材ヲ適所ニ置キタリト考ヘ居ルモ、將來一層注意スベシ。市吏員ヲ外部ヨリ採用スル事ニ就テモ批評アリタルガ、市吏員ノ採用ニ就テハ、部ノ內外ヲ問ハズ、如何ナル人物ヲ何レノ地位ニ置キナバ、本市ノ爲ニ有利ニシテ、市民ノ爲ニ親切ナリヤヲ考ヘテ爲セルナリ。人事異動ノ發表前ニ於テ、新聞紙上ニ漏洩シタルモノアリトノ事ナルモ、他人ガ揣摩シ憶測スルハ、其人ノ隨意ニシテ、此ハ如何トモ爲ス能ハズ、唯人事ヲ絕對秘密ニスベキ事ハ、官吏生活數十年來私ノ心懸ケ來レル所ナリ。經費節約通牒問題ニ關シテハ、節約ノ限度ヲ示シタル次第ニテ、世ニ所謂漫然整理節約ヲ爲サント欲スルニアラズ、即チ經費ハ節減スルモ事業ハ從來通リ進行セシメント欲スルニアルヲ以テ、失業者ヲ生ゼシムル憂ヒナシ、十年來官吏生活ヲ爲セル余ノ體驗上、最モ苦心シタル點ハ、事務ト人員トヲ減ゼズシテ、經費ノ節約ヲ爲サント欲スルニ在リ、過般ノ通牒モ其趣旨ニテ發シタルモノニシテ、人員ノ馘首等ハ毛頭考ヘ居ラズ、故ニ花村君モ其點意ヲ安ゼラレンコトヲ望ムト答ヘ。助役**澤本與一君**ハ、度量衡ノ取締ニ就テハ、新區ト舊區トハ現在其取扱ヲ異ニセルハ事實ナリ、仍テ新區ノ取扱ヲ舊區ト同一ニスル爲、其所要經費ヲ目下財政調査委員會ニ提案中ニシテ、同委員會ノ議決ヲ經、當議場ノ協贊ヲ得バ、速ニ實施セント欲スト答ヘタリ。

越エテ十二月二十六日ノ會議ニ於テ、**森富太君**ハ市長ニ問ウテ曰ク、牛塚氏ハ東京府知事時代、都長官選論者ナリシト聞ク、現在尙ホ官選論ヲ固執シ居レリヤ否ヤ、先ヅ此ノ點ヲ質シ置カント欲ス、吾々ハ都長官選ハ結局自治體ヲ破壞スルモノナリト考フ、過般都制委員會ニ於テ、都長ハ暫定的ニ一時官選トシ、後日公選ニ變更スルモ可ナラズヤトノ意見アリシモ、强キ反對アリシト聞ク、吾々モ假令暫定的トハ云ヘ、官選ニハ絕對反對ノ意見ヲ有ス、市長ノ所見如何。尙ホ市電更生案ハ本日ノ會議ニ上程サル、事ト考ヘ居タリシニ、其事ナカリシハ如何ナル理由ナリヤ、澤本助役ガ悲壯ナル決意ヲ以テ作製ニ從事シタリト稱セラル、更生案ノ內容ニ付、聞ク所ニ據レバ、爲替差損金又ハ市債利子等ノ負擔ヲ國家ニ託セントスル事ガ、更生方策ノ一ニ數ヘラレ居レリト、果シテ然ラバ大藏省ノ一蹴ニ逢ハヾ、實行不可能トナルニアラズヤ、尙ホ他ニ更生方法ノ一トシテ、「サービス」ノ改善ト市民ノ愛市心喚起トニ賴リテ、電氣局ノ增收ヲ圖ルベシト云ヘリ、然レドモ此ハ澤本助役ガ職ヲ賭スル程ノ事柄ニアラズ、若シ夫レ以上ノ方法ニテ市電ガ更生シ得ルモノトセバ、從來ノ電氣局當事者ハ、何レモ無能ニアラズンバ白痴ナリト云ハザルベカラズ、蓋シ利拂ノ低額、「サービス」ノ改善等ハ、從來モ電氣局ニ於テ考慮サレタル事柄ナルベシト思惟ス、此ノ如キ貧弱ナル更生案ニテ、八百萬圓ノ鉅額ヲ算スル電氣局ノ赤字ガ忽チ解消スベシト言フガ如キハ、羊頭ヲ揭ゲテ狗肉ヲ賣ルモノト云ハザルベカラズ、仍テ本日此ノ議場ニ於テ、更生案ノ輪郭ノミニテモ說明アランコトヲ望ムト。**牛塚市長**答ヘテ曰ク、森君ハ余ガ東京府知事時代ニ都長官選ヲ唱ヘタルガ如ク云ハルヽモ、其ハ誤聞ナルベク、余ハ左樣ノ事ヲ唱ヘタル事ナシト。次デ**澤本助役**ハ、電氣局ノ經營方針中ニハ、理事者限リニテ行ヒ得ルモノアリ、或ハ法律又ハ規則等ノ改正

ヲ要スルモノアリ、又主務官廳ノ許可ヲ要スルモノアリ、市會ノ協贊ヲ經ザル可ラザルモノ等アリ、是等ニ就キ一通リ纒リタルモノハ、有ユル機會ニ於テ諸君ノ耳ニ達スルヤウ努メ、尙ホ遺漏ナキヤヲ虞レ、先般全員協議會ノ開催ヲ願ヒ、其席上ニ於テ披露シタル次第ナルガ、當議場ニ於テ之ヲ發表スル能ハザルヲ遺憾トスルモ、洵ニ已ムヲ得ザル事態ノ成行ナルヲ諒セラレンコトヲ望ム、更生案ガ市會ヲ通過セザリシ場合ハ云々ト云フガ如キ事ヲ述ベザリシト考ヘ居ルモ、協議會等ニ於ケル更正案說明ノ際、余ノ言辭ニシテ諸君ノ誤解ヲ招キタル事アリトセバ、余ノ訥辯ノ致ス所ニシテ洵ニ遺憾ニ堪ヘズ、更生案ノ大綱ハ、都市交通政策ノ大本ニ適應セシムベキ根本方針ヲ定ムル事ト、自力更生ノ經營方針ニ據リ積極的方策ヲ以テ進マントスル事トノ二點ニ重キヲ置ケリ、從來ノ理事者ハ都市交通政策ノ大本ニ適應シタル經營方針ヲ定メザリシヤノ憾ミアルガ如ク考ヘラル、點アリ、且ツ整理緊縮ヲ爲スニ急ニシテ、積極的方策ノ點ニ於テ遺憾ニ考ヘラル、節モアリタルニ因ル、勿論右以外ニ尙ホ考慮ヲ爲セル事柄アルモ、諸君ノ許ヘ贈呈シタル「經營方針ニ就テ」ト題スル冊子中ニモ述ベ置キシガ如ク、今日之ヲ發表スル事ハ他ニ支障ヲ生ズル事情アルニ由リ、右諒セラレムコトヲ望ムト答ヘ。**森君**更ニ、市長ハ都長ノ官選ト公選トニ對シ、現在如何ナル考ヘヲ有セリヤト質シ。**牛塚市長**ハ、余ハ今日公選ノ結果市長ノ職ニ在ル者ナルヲ以テ、唯今ノ質問ニ對シテハ答辯シ兼ヌルモ、牛塚個人トシテ意見ヲ發表シタル事アリ、此ハ小冊子トナシアルヲ以テ、後刻參考ノ爲贈呈セント欲ス、若シ余ガ假リニ都長官選論ヲ爲サント欲セバ、市長辭任後ニ於テ公表セント欲スト答ヘ。**小久保時之助君**ハ、第一、本年八月七日市長ハ澤本助役ヲシテ明年度豫算編製ニ關スル通牒ヲ各局課ニ發セシメタルガ、其一節ニ「市事務組織ノ複雜化ハ能率ヲ阻害シ、經費增加ノ原因トナルヲ以テ、各局課ニ於テハ是等ノ點ヲ充分考慮シ、人件費ノ節約ト能率增進ノ方法ヲ講ジ、徹底的ニ改善ノ實ヲ擧ゲテ、少クトモ本年豫算額ノ一割減ヲ策スベシ」ト云ヘリ、此ハ吾々モ贊成ナルガ、市長ハ今日ニ於テモ此ノ精神ヲ維持セント欲スルヤ否ヤ、尙ホ市會ニモ此ノ方針ニ對シテ協贊ヲ希望スルヤ否ヤ。第二、牛塚市長ハ就任早々職制ノ改正ヲ企圖シ、先ヅ第一ニ文書課ヨリ區政課ヲ分立セシメ、監査局ヲ設置シ、爾來最近ノ職制改正ニ於テ、局ト部トヲ設クル事二、市役所ト區役所トヲ通ジテ、課ヲ增設スル事五十ニ垂タリ、此ノ如キ甚大ナル職制ノ改正、局課ノ增設ハ、吾ガ東京市政史上初メテ見ル所ナリ、凡ソ有機的組織體ヲ合理的ニ統制セントスルハ現代ノ趨向ナリ、即チ之ヲ產業組織ニ採用シテ、產業ノ合理化ヲ圖リ、之ヲ行政組織ニ採用シテ、行政ノ單一化ニ努メ、以テ經費ヲ節約シ、能率ヲ增進セシメントス、然ルニ最近本市ノ某高級吏員ハ述懷シテ曰ク、職制改正以後一箇ノ決裁書類ニ印影數五十有餘ノ多キヲ算セリ、斯テハ能率ノ增進等ハ到底不可能ナリト。想フニ局課ノ增設ハ、交涉範圍ヲ擴大セシメ複雜化セシムル事トナリ、昭和九年度豫算編製ノ際市長ガ各局課ニ對シ、行政組織ノ複雜化ヲ避クベシト云ヘル通牒ノ方針ト矛盾セルニアラズヤ、市長ノ所見如何。第三、局課增設ノ結果追加豫算ヲ要求スル事ナキヤ否ヤ。第四、職制改正ノ結果、人員ノ增加ハ動カスベカラザル事實ナリ、此ノ增加人員ノ人件費ハ、何レヨリ支出セントスルカ、尙ホ職制ヲ改正シ、定員ヲ增加セシムル場合ハ、市制第八十五條第二項ニ據リ、市會ノ議決ヲ要スル事トナリ居ルニ拘ハラズ、市長ガ獨斷專行シタルハ、市制ノ精神ヲ無視シ、市會ノ議決權ヲ無視シタルモノト考フルガ如何ト質シタルニ對シ。**牛塚市長**ハ、余ノ豫算編製方針ニ對シテ贊意ヲ表セラレタルヲ謝ス、此ノ通牒ノ方針ハ飽マデ實現ヲ希望ス、局課ノ增設ト豫算編製方針トハ矛盾セズト考フ、即チ苟モ節シ得ベキハ之ヲ節シ、而シテ時代ノ進運ニ應ジ必要缺クベカラザル事柄ハ、之ヲ施設セザルベカラザルヲ以テ、此ノ方面ニ增額ス、玆ニ行政整理ノ妙味アリト考ヘ居レリ、尙ホ局課ハ增加シタルモ、豫算ハ增額セシメザルヤウ努ムル考ヘナリト答ヘ。**淺沼稻次郎君**ハ、電氣局更生問題ニ關シ吾々ハ三回ニ亙リテ、局長竝ニ理事ヨリ電氣局ノ窮狀及ビ電氣局ノ更生方針ニ就キテ

聽キタルガ、其內容ハ第一、電力ノ自給自足ヲ圖ル爲多摩川水力電氣ヲ買收スル事、第二、「バス」ノ併合統制、此ハ將來東京乘合自動車其他ノ「バス」買收ヲ意味ス、第三、爲替差金ノ國庫負擔、第四、理事者竝ニ其他ノ人々ノ能力ヲ動員シテ、「サービス」ノ改善其他ノ方法ニ依リテ增收ヲ圖ルト云ヘル四點ニ要約シ得ベシト考フ、右ノ中第一ノ多摩川水力電氣ハ既ニ買收スル事ニ委員會ニ於テ決定シタリトノ噂ヲ聞ケリ、而モ其價格ハ貳百萬圓程度ナルニ拘ラズ、市理事者ハ四百五拾萬圓ニ見積レリト聞ク、事實果シテ如何。第二ノ東京乘合自動車會社ヲ將來市ニ於テ買收スル意思アリヤ否ヤ。第三ノ爲替差金國庫負擔ニ就テハ、本市ガ成案ヲ得テ政府ニ交渉セバ、政府ハ容易ニ同意ヲ與フル見込ミアリヤ否ヤ。第四ノ「サービス」改善ニ就テハ、局長、理事、課長等ガ俸給ノ幾分ヲ割キテ、種々方策ヲ講ジ居レリト聞ク、高級者ガ其俸給ノ幾分ヲ割クハ可ナルモ、下給ノ一般從業者ニモ之ヲ强フルガ如キ態度ニ出ヅル事ナキヤ否ヤ、此ノ點ニ就テハ、希クハ左樣ノ態度ハ斷ジテ執ラザルベシトノ言明ヲ聽カント欲ス、是レ質問ノ第一ナリ。第二、本市ニハ市電從業員ニ依リテ組織セラレタル勞働組合アリ、此ノ組合ト本市トノ間ニ團體交渉權ト稱スルモノヲ結バント欲ス、電氣局當事者ハ勞働政策ノ一端トシテ勞働組合ヲ公認シ、團體交渉權ヲ認ムル意思アリヤ否ヤ。第三、今議會ニ提案サレタル政府ノ豫算ヲ見ルニ、失業救濟ニ關スル割當額ハ、從來七百萬圓ナリシヲ四百萬圓ニ減額セリ、現在七百萬圓ノ國庫補助サヘ不足ナリシニ、參百萬圓ノ減額ニ逢ヒテハ、本市失業救濟ハ一層困難ナルベシ、右ニ對シ市理事者ハ如何ナル對策ヲ講ズル考ヘナリヤ、歲末救濟事業トシテ政府ニ於テ、一日五千人ノ失業者ヲ一週間救濟ノ豫定ニテ貳萬六千圓ノ豫算ヲ計上セルガ、東京市ニテ登錄セル失業者以外、政府ノ發表ニ據レバ、更ニ十萬人ノ多數ヲ算フル失業者アリト云ヘリ、然ルニ僅々貳萬六千圓ノ救濟費トハ、其額ノ餘リニ過少ナルニ一驚ヲ喫セリ、市長ノ機密費四萬圓ニ不足ヲ生ジテ、貳萬壹千圓ノ追加要求アリ、過般退職シテ恩給參千圓ヲ得ル小木前收入役ニハ八千五百圓ノ手當ヲ給スル事トセルノミナラズ、前市長助役等ノ辭任ノ際ニハ、拾六萬圓ノ慰勞手當ヲ支出セリ、是レニ由テ之ヲ觀ルニ東京市ニハ費用ナキニアラズ、理事者ハ歲末救濟事業費ヲ增額スル意思ナキヤ否ヤ、尙ホ本市ノ登錄失業者以外ノ未登錄者十萬人全部ヲ登錄スル考ヘナキヤ否ヤ、更ニ內務省ノ失業防止委員會ガ、東京市以下六大都市竝ニ福岡市ノ一部ニ於テ其都市ノ經營セル失業救濟制度ニ對シ、約四拾八萬圓ノ補助金支出ヲ決定、內務省ノ豫算中ニ之ヲ計上シタルニ拘ハラズ、大藏大臣竝ニ工業倶樂部、產業團體聯合會等ノ資本家團體ノ反對ニ遭ヒテ、遂ニ其實現ヲ見ル能ハザリシハ遺憾ナリ、勿論僅々四拾八萬圓ノ金額ヲ六大都市竝ニ福岡市ノ一部ニ於ケル失業者ニ割當ツルモノナルヲ以テ、一人當ノ金額ハ零碎ナリト雖モ、一週間若クハ十日間ニ一回辛ウジテ職ヲ得ル勞働者ニハ、極メテ貴重ナル金圓ナリ、市理事者ハ此ノ失業防止委員會ノ決定ガ闇ヨリ闇ニ葬ラル、以前、內務省又ハ大藏省等ニ出頭シテ、其實現方ニ就キ奔走努力シタリシヤ否ヤ、然リ而シテ右ノ實現ガ不可能トナリタル明年度ニ於テ、東京市勞務者共濟會ノ制度ヲ擴大シ、以テ東京市ノ失業勞働者全部ヲ救濟セントスルガ如キ方法ヲ考慮スル意思ナキヤ否ヤ。第四、今回行ハレタル人事異動ヲ見ルニ、外部ヨリ入市シタル人々中、內務部長、學務部長、現役及ビ退役警察署長等アリ、本市吏員中有爲ノ士尠カラザルニ拘ラズ、敢テ外部ヨリ前述ノ如キ人々ヲ拉シ來リ、由テ以テ東京市ハ恰モ老朽官吏失業救濟所ノ如キ觀アラシムルハ、洵ニ遺憾ニ堪ヘズ、尙ホ過般開カレタル區長會議ノ席上ニ、警視總監、憲兵司令官ヲ招ジテ一場ノ訓話ヲ聽キタリト聞ク、自治團體タル東京市ガ特ニ警視總監、憲兵司令官等ヲ招ジテ訓話ヲ聽ク必要ナカルベシト考フ、以上ノ諸點ニ就キ忌憚ナキ市長ノ意見ヲ問ハント欲スト質シタルニ對シ。**牛塚市長**ハ、今日ノ人事異動ハ廳ノ內外ヲ問ハズ適材ヲ適處ニ據エント欲シ、廣範圍ノ異動ヲ行ヒタリ、人事ノ異動ニ就テハ從來細心ノ注意ヲ爲セルガ、將來ハ尙ホ特ニ注意スベシ、區長會議ニ憲兵司令官、警視總監等ヲ招ジタルハ、

此ノ憲兵司令官ト云ヒ、警視總監ト云ヒ、何レモ東京市ノ事務ニハ密接ナル關係ヲ有シ、殊ニ本市治安維持ノ重責ヲ有セラル、人々ナルヲ以テ、廣ク是等關係方面ノ人々ノ意見ヲ聽キ、指示ヲ受クル事ハ、市ノ職務ヲ圓滑ニ遂行スル上ニ於テ頗ル必要ナルノミナラズ、市政振興上極メテ必要ナリト考ヘタルニ因ルト答ヘ。第二助役**澤本與一君**ハ、多摩川水力電氣ハ前年來買收値段四百拾萬圓ヲ基準トシテ交渉シ居レリ、從來斯ル交渉ヲ祕密ニセルヲ以テ、往々世ノ誤解ヲ招キタルガ、斯ル事柄ハ祕密ニセザルヲ可ナリト思惟スルガ故ニ、此處ニ言明ス。但シ青「バス」ヲ買收スルヤ否ヤハ、當議場ニ於テ言明スル能ハズ。爲替差損金ヲ政府ニ認メシムル事ハ頗ル困難ナル問題ナリ、此點ニ就テハ市會議員諸君ノ力ヲ借ラザルベカラズト思惟ス、兎ニ角困難ナル問題ナルモ、不可能事ニハアラズト考フ、團體交渉權ヲ市ガ認ムルヤ否ヤニ就テハ、目下理事者ニ於テ考慮シ居ラズ。吾々ガ俸給ノ一部分ヲ辭退シタル事ニ就テノ質問ニ對シテハ、慚愧ニ堪ヘズ、元來理事者ガ職務上ノ事ヲ行フニ當リ、自己ノ俸給ヲ割クガ如キハ變則ニシテ、左樣ノ小惠ヲ爲スニアラズンバ職務ヲ行フ能ハズトアリテハ、眞ニ慚愧ノ至リニ堪ヘザルナリ、故ニ課長連ヨリ俸給十分ノ一ノ辭退申出デアリタル際、其志ヲ受ケ、寄附ノ實行ヲ拒絶セリ、然ルニ課長連ハ自己ノ主張ヲ棄テズ、會計課長ニ俸給ノ十分ノ一ヲ供託セリト聞ケリ、尙ホ掛長等ニモ其意圖アリト聞キタルヲ以テ、極力之ヲ慰諭シ、諸君ガ俸給ノ一部ヲ本市ニ寄附スルヨリモ、寧ロ仕事ヲ本市ニ寄附スルヤウ職務ニ精勵サレタシト希望セリ、以上ノ次第ニテ他ノ從業員ニ對シ、俸給ノ一部ヲ寄附セシムルガ如キハ全然考ヘ居ラズト答ヘ。第一助役**落合慶四郎君**ハ、政府ノ失業救濟ニ關スル明年度豫算ハ、八年度ノ七百萬圓ニ比シ、四百六拾萬圓ニ減少サレタリ、此ハ全國的ニ相當深刻ノ關係アル問題ナルガ、政府ニ於テハ、明年度ハ六大都市以外、特ニ之レニ類スル失業者ノ多キ地方ノミニ分配スル方針ナリト聞ケリ、仍テ東京市ニ對スル明年度ノ補助額モ、八年度ニ比シテ大ナル減額ナカルベシト豫期シ居レリ、歲末失業救濟費貳萬六千圓ヲ計上シタルハ、現在ノ未登錄者一萬人中、特ニ生活困難ヲ感ズベシト考ヘラルル人々ノ救濟費ニシテ、其人員ト費額トハ例年同樣ナリト答フ。**淺沼君**更ニ、電氣局從業員ニ對シテ、月給又ハ賃銀ノ値下若クハ解雇等ハ、絶對ニ之ヲ行ハズトノ澤本助役ノ言明ヲ聽カント欲ス、尙ホ內務省ニ於テ減額サレタル失業救濟費ノ減額分ハ、東京市ハ何等カノ形式ニテ之ヲ補フ意思アリヤ否ヤ、而シテ市理事者ハ此ノ失業救濟問題ニ關シ、自治ノ立場ヨリ市會議員ヲ動員シテ、內務當局其他ト交渉セシムル考ヲ有セザルヤ否ヤト質シタルガ、理事者ヨリハ何等ノ答辯モナカリキ。

次デ翌十二月二十七日ノ會議ニ於テ**黑井直員君**ハ、第一、市債ノ增大ハ本市ノ財政上決シテ喜ブベキ事柄ニアラズト雖モ、東洋ノ覇者タルベキ日本帝國ノ首府タル大都市トシテ、將又吾々五百萬市民ノ生命財產ヲ擁護シ、延イテハ吾々子孫ノ福利增進ヲ圖リ、大東京百年ノ大計ヲ樹ツル上ニ於テ、今日爲サヾルベカラザル幾多ノ事業アリ、此ノ事業遂行ノ爲ニハ起債モ亦已ムヲ得ザルナリ、仍テ市會ハ曩ニ本市諸般ノ施設遂行上、數十ノ起債認可申請ヲ議決シタリ、然ルニ牛塚氏ハ市長就任以來既ニ十ケ月ニ垂タルニ拘ラズ、未ダ一ノ起債認可スラナキハ如何ナル理由ナリヤ、前市會ニ於テ議決セル十箇年繼續事業費中、本年度起債申請ノ參百參拾參萬圓、第三街路費參百七拾四萬圓等ノ土木事業ニ對シ、技師、技手、其他ノ職員ニ至ル迄既ニ之ヲ任命シ、相當ノ準備ヲ爲セルモ起債認可ナキ爲事業ニ著手スル能ハザル始末ニアラズヤ、然リ而シテ市民ハ爲ニ交通ノ利便ヲ缺キ、保健衞生上ノ不利ヲ忍ビ、或ハ公益方面ニ於テモ幾多渴望シ居レル事業ヲ施行スル能ハザルニ困惑シツヽアリ、此ハ纔ニ其一例ニ過ギズ、三十五區ノ區役所ヲ巡視シ或ハ市ノ名譽職ヲ招待シテ市政上ノ意見ヲ徵スルガ如キ、其職務ニ忠實ナル牛塚市長ハ、起債ノ認可申請ニ就キ果シテ如何ナル努力ヲ爲シタリヤ、過日電氣常設委員會ノ席上ニ於ケル澤本助役ノ談話ノ一節ニ、政府ハ東京市ヲ見ル事道

樂息子ノ如シト云ヘル一言アリ、或ハ然ラン、此ノ政府ノ見解ヲ是正シ、一日モ速ニ市會ノ議決ヲ遂行スルハ、市長タルモノ、重大責務ナルベシト考フ、此ノ點ニ就キ市長ハ如何ナル程度マデ努力シ、又如何ナル程度ノ自信ヲ有セリヤ。第二、牛塚氏ガ市長ニ就任シ、所謂牛塚内閣組織ノ際、閣僚即チ高級理事者トシテ一人ヲ大藏省方面ヨリ採用セザリシハ、本市ノ財政問題ヲ根本ヨリ打開スル上ニ於テ、一大支障ヲ生ゼシムル結果ヲ招來セシメタリト考フ、假令バ市廳舍建設問題等ニ就テモ、大藏省某有力局長ハ、憲兵隊ノ在リシ土地三千數百坪ノ賣渡方ヲ東京市ヨリ交渉アリタルヲ以テ、目下係員ヲシテ東京市ノ財政ヲ調査セシメ居レルガ、其結果ニ據ルニアラズンバ、容易ニ賣却スル能ハズト云ヘリ、苟モ政府ト最モ關係深キ帝國ノ首都タル東京市ガ其廳舍ヲ建設スルニ際リ、如上ノ如キ東京市ヲ侮辱セル言辭ヲ聞クハ、市長ガ大藏省方面ニ對シテ諒解ヲ求メ得ル人物ヲ高級理事者中ニ採用セザリシニ因ル事ト考フ、市長ノ所見如何。第三、大里會計課長ガ收入役ノ職權ヲ犯セリトノ非難ヲ聞ク、事實果シテ如何。第四、去ル十月三十一日市長ハ時間外ニ於テ各區長ヲ市役所ニ招集シ、區吏員ノ任免黜陟、異動轉任等ノ問題ニ關シテ、高壓的ニ内申ヲ區長ニ强ヒタリト聞ク、是レ亦事實果シテ如何、尚ホ其内申書ニ對シ、區長ハ職印ヲ持參セザリシ爲、個人ノ印ヲ押捺シタリシガ、後其違法ヲ認メテ之ヲ改竄シタリト聞ク、果シテ然ラバ公文書變造ト考ヘラル、ガ如何。第五、東京市民トシテ水上生活ヲ爲シ居ル所謂船頭、船乘業者等ノ子弟ノ通學上、必ズシモ一定ノ場所ニ依ラザル學生乘車割引券ヲ發行シ、以テ彼等ニ通學ノ便ヲ與フル考ヘナキヤ否ヤ。第六、尋常小學三年以下ノ水上生活者ノ子弟ノ爲ニ、芝浦、月島、洲崎、大島、砂町其他比較的多數ノ船ノ繫留サル、場所、即チ船頭等ノ根據地トモ云フベキ場所ニ於テ、託兒所ノ如キモノヲ設ケ、登校時ト退校時トノ朝夕船頭等ヲシテ一定ノ場所ニ各自ノ子女ヲ送迎セシムル施設ヲ爲ス考ヘ無キヤ否ヤ、尚ホ水上生活者ハ惡濁セル河水ニテ米飯ヲ炊ギ、或ハ野菜等ヲ洗ヒ居ルヲ見ル事少シトセズ、斯ノ如キハ保健衞生上寒心ノ至リニ堪ヘズ、仍テ洲崎、月島方面同樣、芝浦、大島、砂町方面ノ河岸及ビ海邊等ニモ水道栓ヲ設ケ、以テ彼等ニ飲料水ヲ得ル便宜ヲ與フル意思ナキヤ否ヤ。第七、本市ガ砂利或ハ碎石購入ニ際シ、規格ニ合ハザル不正品ガ連續的ニ納入サレツヽアリ、此ハ公知ノ事實ナリ、仍テ敢テ問フ、本市ニ出入スル砂利及ビ碎石納入者ハ幾名ナリヤ、指名シテ答辯アランコトヲ望ムト質シタルニ對シ。**牛塚市長**ハ、市債ノ認可申請ニ關シ、當事者以上ニ懇切ナル考慮ヲ拂ハレタルニ對シテ敬意ヲ表ス、余自身廣告ハセザルモ能フ限リノ力ヲ盡シツヽアリ。大藏省方面ノ人材ヲ本市ニ羅致シ來ルベシトノ注意ニ就テハ、勿論本市ニ羅致シ來ル事ガ本市ノ利益ナリト考ヘラルヽ人物アラバ、羅致シ來ルヤウ將來特ニ注意スベシト答ヘ。**落合助役**ハ、區長ヨリ内申スベキ人事ニ對シ、市理事者ガ遮二無二自己ノ意見ヲ區長ニ强要シタルガ如キ事實ハ、全然之レナシ、而シテ内申書ニ押捺スベキハ區長ノ職印ニ限ラズ、個人ノ認印ニテ毫モ差支ヘ無ク、從テ改竄等ノ事實アルベキ筈ナキ事ヲ諒承サレムコトヲ望ムト答ヘ。教育局長**藤井利譽君**ハ、水上生活者ニ對スル通學乘車割引券發行ニ就テハ、電氣局トモ交渉ヲ要スル問題ナルヲ以テ、篤ト交渉シ見ント欲ス、託兒所ノ設置ニ就テハ、嘗テ其計畫アリタルモ、遂ニ實現ヲ見ザリキ。水上協會ト稱スル私設ノ團體ガ、月島ニ水上學校ト稱スルモノヲ設置シ居レリ、此ハ兒童數多カラザルモ、教室ト寄宿舍トヲ設ケ、水上生活者ノ子弟ノミヲ收容シ居レリ、之レニ對シ東京市トシテハ甚ダ少額ナルモ、教育局ト社會局トヨリ若干ノ補助ヲ爲シ、東京府ヨリモ補助シ居レリ、斯ル施設ハ今後益々增加スベキ必要アリト考ヘラルヽモ、今日ハ是レ以上ニ及ビ居ラザルヲ遺憾トス、今後能フ限リノ努力ヲ爲サント欲スト答ヘ。**澤本助役**ハ、大里會計課長ガ收入役ノ事務ニ關與シタル事實ハ全然之レナシト辯明シ。財務局長**後藤悌次君**ハ、砂利或ハ碎石等ノ購入ハ甚ダ困難ナル事柄ニシテ、從テ其取扱ハ常ニ愼重ニ爲シ居レリ、指名人ハ現在約二十名程ヲ登錄シ居レリト思惟ス、其購入ニ際シテハ、一件毎ニ適當ナル業者ヲ選

定シ嚴重ナル入札ヲ行ヒタル上、契約ヲ結ビ、檢收ノ如キモ規格ヲ嚴重ニ適用セルヲ以テ、其間決シテ不正等ノ忌ハシキ事情ノ介入スベキ餘地ナク、減價採用等ノ如キハ、寧ロ其ノ取扱ノ嚴重ニシテ不正ノ行ハレザル結果ナルベシト考フ、但シ減價採用ノ如キ異例ガ續行サルヽ事ハ洵ニ遺憾ニシテ、此ノ點ニ就テハ、吾々當事者トシテ充分業者ヲ督勵シ、減價採用等ノ續行サレザルヤウ努メント欲スト答ヘ、質疑應答ヲ打切レリ。

## 第四節　市政刷新淨化ニ關スル質疑應答

一月二十四日ノ會議ニ於テ、**鈴木堅次郎君**ハ、去ル十六日ノ本會ニ於テ本員ハ永田市長ニ對シ、市政淨化ニ關スル質問ヲ爲サント欲シタリシモ、不幸時間ノ關係上其機ヲ得ザリキ、然ルニ其翌々十八日、永田市長ハ本員ガ問ハント欲スル問題ニ關聯シテ突如引責辭職シ、本員ハ爲ニ所謂流星光底長蛇ヲ逸スルノ憾ミアリキ、併シナガラ永田氏ノ信任サレタル兩助役ハ今日尚ホ殘留セリ、尤モ此ノ兩助役モ共ニ最近退職スベク既ニ其申出デヲ爲シ居レルヲ以テ、兩助役送別ノ辭トシテ一言質問ヲ試ミント欲スト前提シテ曰ク、第一、我ガ東京市ハ今ヤ五百萬ノ市民ヲ包容シ、一億七千萬坪ノ地域ヲ統括シテ、世界第二位ノ大都市ヲ形成セリ、仍テ吾々ハ大東京成立ノ初市會ニ於テ、五百萬市民ヲ代表スル百四十四人ノ市會議員ハ本日悉ク當議場ニ出頭シ、相共ニ大東京ノ前途ヲ壽ギ得ベシト考ヘタリキ、然ルニ本日唯今此ノ壇上ニ立テ靜ニ議場ヲ展望スルニ、主ナキ議席數ノ餘リニ多キヲ見、本市ノ將來ニ對シ幻滅ノ悲哀ヲ痛切ニ感ジタリ、斯ノ如キハ大東京市政上洵ニ痛恨事ト云ハザルベカラズ、蓋シ其原因何レニ在リヤト訊サバ、畢竟スルニ年年頻發スル市政上ノ疑獄事件ニ在リト信ズ、市政ノ腐敗ハ天下公知ノ事實ニシテ、新聞紙ハ其內情ヲ暴露シ、恰モ講談物ノ如ク之ヲ連載セリ、又檢察當局ハ腐敗ノ事實ヲ指摘檢舉シテ、市政ノ淨化ニ努メ、監督官廳ハ市會ノ解散ヲ行ヒ、新ニ選擧ヲ行フ事ニ依リテ市政ノ淨化ヲ圖レリ、然レドモ新聞紙ノ罪惡暴露モ、檢察當局ノ檢擧モ、監督官廳ノ解散ニ因ル選擧モ、結局何等ノ效果モナカリシ事ハ、眼前如實ニ之ヲ證明セリ、兩助役ハ其病弊ト缺陷トヲ如何ニセバ救濟シ得ルヤヲ考慮シタル事アリヤ。第二、前回ノ當議場ニ於テ市長ハ吾々ニ向テ斯ク云ヘリ、「市會ハ普通一般ニ言フ代議政體ト異リ、自治行政ノ審議機關ナルヲ以テ、市會開會ノ際ニアラズト雖モ、吾々理事者ノ許ヘ直接來訪アリテ、諸君ノ意見ヲ聽クヲ得バ幸甚ナリ」ト、又事實市理事者ハ多クノ場合、議場ニ於テ議論ヲ闘ハスヲ避ケ、理事者ト議員トノ私的協議ニ依リテ、市政ヲ運用シ居レル事實アリ、勿論議員ト理事者トガ和衷協同シテ、市政ノ圓滿ナル運行ヲ圖ルハ望マシキ事ナルモ、市政ヲ市會ノ議場ニ於テ審議セズ、個々面接ニ依リテ之ヲ審議スル事ガ、市政ヲシテ腐敗セシムル重大ナル原因タルベシト思惟ス、市會ハ如何ニモ市長ノ云フガ如ク、衆議院等ノ代議制トハ異ルモ、町村會ノ如キモノトモ趣ヲ異ニシ、新舊合セテ百四十四名ノ市會議員一人々々ガ、悉ク一國一城ノ主タリ、此ノ有力ナル人々ガ日々理事者ノ室ヲ訪問センカ、理事者ハ恐ク其煩ニ堪ヘザルベシ、仍テ百四十四名ノ意見ヲ綜合代表セシムルニハ、如何ナル方式ニ據ルベキカト云フニ、市會內ニ於ケル團體ヲ基礎トシ、此ノ團體ノ代表意見ニ據リ、市會議場中心ノ市政ヲ行フベキモノト信ズ、唯團體ノ背後ニ在リテ團體ヲ指導シツヽアル少數ノ勢力者ガ、理事者ト結託シ、又ハ市理事者ヲ左右シ得ル有力者ガ其背後ニ在リテ、市會ノ多數ヲ左右スル場合アリトセバ、其結果ノ恐ルベキモノアルヲ豫想セザルベカラズ、兩助役ハ團體ノ綜合意見ヲ尊重シテ、市會議場中心ノ市政ヲ行フ事ニ就キ、果シテ如何ナル意見ヲ有セリヤ。第三、大正十三年秋時ノ市長永田秀次郎氏ガ、市長ノ職ヲ辭シテ歸省ノ際、「海碧く松風淸き丘の上に、正しき者の墓と呼ばれん」トノ一首ヲ詠ゼリト聞ク、今回永田氏ガ市長辭職ノ際ハ、此ノ歌ヲ當時ト同樣ナル朗ナル氣分ニテ唄ヒ得ラレシヤ否ヤ、洵ニ永田氏ノ爲ニ惜マザルヲ得ズ、兎ニ角市長ト云ハズ、

市理事者竝ニ市政關係者ニ對スル市民ノ信用ノ低下シタル事、今日ヨリ太甚シキハナシ、此ノ信用ヲ如何ニセバ高メ得ト考ヘ居レリヤ。第四、各派幹事會ニ報告セラレタル助役ノ退職申出理由ヲ聽クニ、十時助役ハ無條件退職ナルモ、齋藤、菊池兩助役ハ後任市長就任ノ際ニ退職スベシトノ條件附ナリ、言フ迄モナク市ノ高級吏員ハ政黨內閣ノ如キ閣僚ニアラズ、又連帶責任制ノ組織ニ據ルモノニモアラズ、然レドモ責任ヲ負ウテ辭任シタル永田市長ト共ニ、兩助役モ負ハザルベカラザル責任ヲ感ジテ退職セントスルモノナリヤ、將タ又單ニ永田市長ニ殉ゼントノ意思ニ出デタルモノナリヤ、元來雄辯家ニシテ、自己ヲ信ズル事ノ篤キ永田氏ハ、眞ニ責任ヲ感ジテ辭セント欲スルナラバ、市會議場ノ壇上ニ立チ堂々ト自己ノ所信ヲ五百萬市民ニ愬ヘ、而シテ後ニ辭表ヲ提出スベキガ、政治家トシテ爲スベキ當然ノ筋道ナリト本員ハ信ズ、永田氏ハ既ニ本市ヲ去リタルガ、殘留セル兩助役ハ何故辭職セザルベカラザルヤ、希クハ其理由ヲ當議場ニ於テ明ニセラレンコトヲ望ムト。此ノ質問ニ對シ、第一助役**齋藤守圀君**答ヘテ曰ク、市政ノ運用上ニ種々ノ病弊アリ、其根元那邊ニアリヤ、而シテ是レガ匡救ヲ如何ニスベキカ、又如何ナル點ヲ改善スベキカ等ノ問題ニ就キ、凡百ノ方面ヨリ種々研究シ居ル學者モアリ、市當局ニ於テモ、時ニ觸レ、事ニ臨ミテ講究シ居ルモ、未ダ具體的意見ヲ發表シ得ル機會ニ到達シ居ラザルヲ遺憾トス、市政ノ淨化、其言甚ダ簡單ナリト雖モ、具體的實際問題トシテハ、極メテ重大問題ナルヲ以テ、諸君ノ智ト力トヲ借リ、刷新淨化ニ努メント欲ス、市政上ノ問題ハ總テ議場中心タルベシトハ、當職モ同感ナリ、唯過日永田前市長ガ當議場ニ於テ市會開會ノ際ニアラズト雖モ、吾々理事者ノ許ヘ直接來訪アリタシト述ベラレタルハ、市會ノ開議時間短ク、殊ニ質問時間ハ極メテ短時間ナルガ故ニ、諸君ト共ニ充分ナル意見ノ交換ヲ爲ス能ハズ、勿論重要問題ハ幾時間ヲ費シ、又幾日ヲ重ヌルモ、議場ニ於テ充分講究セザルベカラザルモ、小問題又ハ法制上ノ手續問題等ハ、直接理事者ニ打合セラルヽ方時間モ節約シ得テ甚ダ便宜ナルベシトノ意ナリト推察ス、市政ノ運用ハ議場ヲ中心トシ、團體ノ公議ニ據ラザルベカラザルハ、永田前市長ニ於テモ勿論異存ノアルベキ筈ナキヲ信ジテ疑ハズ。現在ノ市當局ハ市民ヨリ輕視サレ居レリトノ非難ニ對シテハ辯解ノ辭ナキモ、吾々ハ市理事者トシテ市政ヲ行フニ際リ、總テ公明正大ナラン事ヲ心懸ケ居レリ、尤モ多數吏員中、或ハ多少心得違ヒノ者アリシヤモ知レザルモ、問題ニ依リテハ或ル程度ノ諒恕ヲ乞ハント欲ス、最後ニ、助役ハ市長ノ推薦ニシテ、而モ其手トナリ足トナリテ行動スルモノナルヲ以テ、其推薦者タル市長ガ辭任シタル場合、助役モ進退ヲ共ニスベキハ理ノ當然ナリト考フ、唯條件ヲ附シタルハ、吾々兩名ノ助役ガ市長ト共ニ即時進退ヲ共ニセバ、市ニ幹部ヲ失ヒテ職務管掌ヲ受ケザルベカラズ、斯テハ市ノ行政上甚ダ不面目ナリト考ヘタルニ因ルト。

次デ一月二十五日ノ會議ニ於テ、**小針孫太郎君**ハ、昨日市政ノ腐敗ト之レガ刷新トニ對スル鈴木君ノ質問ニ對シ、齋藤助役ノ爲シタル答辯ハ右顧左眄的ナリシガ、左樣ニ戰々兢々タラズ、市政ハ如何ニ紊亂シ居リ、是レガ刷新ニハ如何ナル方法ヲ講ズベキカヲ忌憚ナク、率直ニ明快ニ、答辯セラレンコトヲ望ム、是レ質問ノ第一ナリ。第二、市政淨化ノ第一方法ハ、市民ノ代表者選擧ノ根本的革正ニアリト思惟ス、今日普選ノ趣旨ハ蹂躪セラレ、當選ヲ期セント欲セバ多額ノ選擧費ヲ要ス、是レ市政腐敗ノ重大原因タリ、而シテ之レガ革正ニハ、司法權ノ發動可ナリ、警察取締ノ活動亦不可ニアラズト雖モ、是等ハ人員ト費用トニ限リアルヲ以テ、到底革正ノ目的ヲ達成スル能ハズ、加之、全國自治行政ノ模範タルベキ東京市ガ、他ノ機關ノ力ヲ借リテ革正ヲ圖ルガ如キハ甚シキ不面目ナリト考フ、幸ヒ本市新舊兩地域ノ各區ニ町會ノ設ケアリ、此ノ町會ヲ通ジテ選擧ノ重大性ト、候補者ニ多額ノ選擧費ヲ散ゼシメ、金錢ニ據リテ候補者ヲ選擧スルガ如キハ、千百ノ弊害アリテ一利ナキ事トヲ選擧民ニ徹底的ニ納得セシムル方法ヲ講ズル事ガ、市政ノ根本的刷新ヲ所期シ得ル可能性アリト考フ、仍テ市理事者ハ選擧指導機關トモ云フベキモノヲ設ケ、以テ

選擧民ヲ善導セントスル意志アリヤ否ヤ。第三、時事新聞ガ百七十數回ニ亘ル市政刷新ノ記事ハ、司法權ノ發動ニ徴シ正確ナリト認メザルヲ得ザルガ如シ、果シテ然ラバ市民ノ納ムル市税ハ、本市ヘノ物品納入者、又ハ其他ノ利權屋若クハ談合組ト稱スル者ノ爲ニ濫費サレ居レリト言ハザルベカラズ、右ニ對スル市當局ノ處置果シテ如何ト質シタルニ對シ。**齋藤助役**ハ、選擧ノ革正ニ就テハ、衆議院議員、府會議員、市會議員等ノ選擧ノ行ハルヽ度毎ニ、有ユル方法ヲ講ジタルガ、其方法ノ效果如何ハ充分研究ヲ要スベキ事項ナリト考フ、兎ニ角選擧ノ革正ハ是非行ハザルベカラズト云ヘル意見ニハ同感ナリ、故ニ小針氏ノ意見ヲモ充分參酌シ、能フ限リ適正ノ方策ヲ講ゼント欲ス。經理課員ニ關スル新聞紙所報ノ如キ事柄ガ果シテ事實ナラバ、司法權ノ發動アルベシ、兎ニ角談合等ノ問題ハ暗默ノ間ニ行ハルル事柄ナルヲ以テ、公然察知スルハ困難ナルモ、左樣ノ不正行爲ノ行ハレザルヤウ理事者ニ於テモ種々方策ヲ講ジ居レリ、綱紀肅正ハ實行頗ル困難ニシテ、吾々當局ノ最モ苦心考究シ居ル問題ナリ、假令バ會計事務ニ就テモ、金錢ノ出納ニハ、複雜ニ過グルト考ヘラル、程複雜ナル手續ヲ要スル事ト爲リ居ルニ拘ラズ、往々公金横領費消ヲ爲ス不心得者ヲ市吏員中ヨリ出セルハ遺憾ニシテ、市民ニ對シ謝スルニ辭ナキ次第ナリ、仍テ今後一層細心ノ注意ヲ爲スベシト答ヘ。**天野賴義君**ハ、東京市ハ今日五百萬ノ人口ヲ包擁シ、世界第二位ノ大都市ヲ形成シ、吾々ハ其代表トシテ茲ニ市政ニ參與スルノ光榮ヲ得タリ、然ルニ昨年來忌ハシキ嫌疑ノ爲ニ多數同僚議員ニ對シテ司法權ノ發動ヲ見、又理事者方面ニモ同樣ノ嫌疑ニ因ル召喚者ヲ見ルニ至リタルハ、洵ニ遺憾ナリ、勿論本員ハ新聞紙ノ傳フル所ヲ悉ク事實ナリトシテ信ズル者ニアラザルモ、東京市民ハ市政ニ不安ヲ感ジ、市政淨化ノ一日モ速ナランコトヲ期待シ居レルハ事實ナリ、仍テ諸君ト共ニ市民ノ不安ヲ一掃シ、市民ノ期待ニ對フベキガ、市會議員トシテ吾々ノ共同責任ナリト考フ、殊ニ本市ハ米國「ニューヨーク」市ノ如キ各種民族ノ寄合世帶ニアラズシテ、純大和民族ヲ以テ形成シ、維持シ居ル帝都タリ、故ニ吾々ハ市政ノ刷新淨化ニハ能フ限リノ努力ヲ爲サヾルベカラズト信ズ、既ニ市政淨化ニ關スル方策ニ就キ種々考究シ居ル識者アルベシト雖モ、本員ハ此處ニ其一端トシテ、市吏員ノ身元保證規程中、市會議員ハ市吏員ノ身元保證ヲ爲ス事ヲ得ズトノ一項ヲ設ケラレンコトヲ希望ス、元來身元保證トハ、吏員ガ執務事項等ニ就テ市ニ損害ヲ與ヘタル場合、保證書ニモ明記セル如ク「損害ヲ寸毫モ相掛ケ申間敷候」ト云ヘルガ其目的タリ、然ルニ市民ニ代テ直接市政ヲ監視スベキ立場ニ在ル市會議員ガ身元保證ヲ爲シタル市吏員ニシテ、過テ市ニ損害ヲ與ヘタル場合、其議員ハ吏員擁護ノ立場トナリ、現在ノ制度上損害ノ査定等ニ就テ嚴正ヲ缺ク可能性アルノミナラズ、保證ノ目的ヲ誤リ、市會議員ガ身元保證人タルノ故ヲ以テ、其吏員ハ或ハ整理ヲ免レ、或ハ榮達シ居レリトハ、全吏員モ信ジ、一般市民モ疑ハザル事實ナリ、玆ニ於テカ市吏員ハ、如何ニシテ何處ニ自己ノ「バック」ヲ求ムベキカニ腐心スルニ至リ、其結果勤勉ト誠實トノ信念ハ漸次薄ギ、只管「バック」ニ阿諛シテ榮達ヲ圖ラントス、言フ迄モナク執行機關ト議決機關トハ制度上劃然タル區別アリト雖モ、市會議員ト市吏員トノ間ニ一身上重大ナル身元保證ノ關係アリテハ、市會議員トシテ理事者ヲ鞭撻スル事困難トナリ、又理事者ハ吏員ヲ監督スル事モ困難トナル、此ハ今日理論上ノ問題ニアラズシテ、事實問題トシテ現ハレ、保證關係ヨリ議員ト吏員トノ間ニ世ヲ憚ラザルベカラザル行爲アリ、市政ヲ今日ノ狀態ニ導キタルハ其結果ナリトノ噂サヘアルニ至ル、洵ニ痛嘆ノ至リニ堪ヘズ、想フニ自己ノ腹心又ハ手足トナルベキ者ヲ市ノ要部ニ据エ、而シテ特別ナル目的ヲ達セントスル者以外、苟モ責任ヲ重ズル眞面目ノ人々ハ、濫ニ吏員ノ保證人タルヲ欲セザルベシ、然ルニ市會議員ニ選出サル、ヤ、各方面ヨリ吏員ノ身元保證ヲ强要サル、ガ如キ事アリテハ、議員タルヲ回避スルニ至ルベシ、故ニ本員ハ市當局ニ對シ、議決機關ト執行機關トノ區別ヲ徹底セシムルト共ニ、議員ヲシテ其本來ノ職責ニ邁進セシムル爲ニモ、將又吏員ヲシテ議員ニ依賴スル事ナク職務ニ精勵セシムル

爲ニモ、更ニ又責任ヲ重ズル眞面目ナル議員ノ選出ヲ期スル上ニモ、一日モ速ニ身元保證規程ノ改善ヲ希望シテ已マズ、理事者ノ所見如何ト質シタルニ對シ。**齋藤助役**ハ、質問ノ趣旨ニ就テハ、當局ニ於テ充分考慮セント欲スト答ヘタリ。

越エテ十月二十七日ノ會議ニ於テ、**仲澤芳朗君**ハ、神田區淡路町ニ於ケル區劃整理補償問題ニ關シ、東京毎日新聞紙ノ報ズル所ニ據レバ、前菊池助役ガ參千圓ノ補償ニテ可ナリト爲シタルヲ、鷲尾助役ハ壹萬圓ヲ適當ナリトテ、參千圓ヲ壹萬圓ニ變更シタルガ、其間ノ斡旋者松永君ハ其土地所有者トハ知己ノ間柄ナリト云ヘリ、兎ニ角本問題ニ關シ、某氏ハ理事者ノ行爲ヲ不當ナリトシ、背任横領ノ告訴ヲ提起シタリト聞ク、若シ夫レ鷲尾助役ノ行動適正ニシテ何等疚シカラズトセバ、鷲尾助役自身ト松永君トノ名譽ノ爲、背任横領ノ告訴者ニ對シテ誣告ノ告訴ヲ爲スベキガ當然ナリト考フ、而シテ本件其後ノ成行キ果シテ如何。尙ホ本員ガ過日某課長訪問ノ際、一室ニ集合セル吏員諸君ハ時恰モ漫談酣ナリキ、而モ其漫談ハ「エロ」問題ナリキ。又去ル二十日ノ市會當日、午前十一時二十分市吏員ノ執務時間中、本員ガ理髮所ニ赴キタル際、本員ノ面識アル市吏員ガ散髮シ居タリキ。更ニ先月二十六日ト記憶ス、會計課ノ廊下ニ於テ東京音頭ヲ練習シ居タル市吏員アリキ。緊張スベキ時節柄ナルニ拘ラズ、市吏員ノ以上ノ如キ行動ハ甚ダ遺憾ナリト考フ、市理事者ハ吏員ガ何レモ職務ニ精勵シ居レリト認ムルヤ否ヤト質シタルニ對シ。第三助役**鷲尾弘準君**ハ、神田淡路町ノ區劃整理ハ內務省復興局ノ取扱ヒタルモノニシテ、復興局ハ市道タリシ部分ヲモ普通ノ私有地同樣ノ取扱ヒヲ爲シ、市ニ移管後、土地所有者ト市トノ間ニ互ニ權利ヲ主張シタル爲、値段ノ點ニ於テ容易ニ折合附カズ、幾交涉ノ末壹萬圓ニテ漸ク纏リタリ、此ノ金額ハ適當ト認ムト答ヘ。第一助役**落合慶四郎君**ハ、事務能率向上ノ點ヨリ市吏員ノ綱紀肅正ヲ重要視シ居レル市長ハ、吏員ノ綱紀問題ニ對シテ特ニ力ヲ用ヒ、吾々モ市長ノ方針ニ從ヒ、努メテ部下ヲ督勵シ、誤リナカランコトヲ期シ居レルガ、仲澤氏ガ唯今擧例サレタルガ如キ事實アリトセバ、洵ニ慚愧ノ至リニ堪ヘズ、今後一層全吏員ニ對シテ注意ヲ怠ラザルベシト答フ。次デ**池田清秋君**ハ、市政ヲ革正振肅セント欲セバ、市長自ラ規律ヲ重ジ、節制ヲ尊ビ、身ヲ以テ範ヲ衆ニ示シ、其行動ヲ苟モセザルヤウ心懸ケザルベカラズ、然ルニ牛塚市長ハ去ル十月二十七日ノ會議ニ於テ、月島案ヲ急施案ナリト稱シテ議題ニ供セシメ、以テ法規違反ヲ敢テセリ、急施案ナラザル此ノ月島案ヲ、市長ガ急施案ナリト稱シテ提案アリタル際、法規違反ナリヤ否ヤヲ調査スル遑ナカリシガ、市制第五十一條及ビ東京市會々議規則第五條ニ據レバ、會議三日前ニ案ヲ具シテ之ヲ議員ニ通知スベシト規定セリ、而シテ急施案ト稱スルモノハ、客觀的狀勢ニ因テ決定スベキモノニシテ、市長又ハ市會議員ノ意思ヲ以テ漫リニ決定スベキニアラズ、即チ何人ガ之ヲ見ルモ三日間ノ期間ノ餘裕ヲ置ク能ハザル事案ノ場合ニ限ラルルナリ、大正四年二月二十四日ノ行政裁判例ニ據ルモ、「一定ノ議案ヲ急施件トスルト否トハ、市町村長ノ自由ニアルト解スルヲ得ズ」トアリ、同年十二月二十一日ニモ同趣旨ノ判例アリ、昭和三年十二月二十七日ノ判例ニモ、急施案件ナリヤ否ヤハ市町村長ノ自由認定ニ據ルモノニアラズシテ、客觀的狀勢ニ標準ヲ置カザルベカラズト明確ニ判定セリ、以上ノ如キ判例アルニ拘ラズ、市長ハ市會議長竝ニ市會議員等ガ其事ヲ知ラザルヲ利用シテ、非違ヲ敢テセリ。斯ノ如キハ歷代市長中未ダ嘗テ其例ヲ見ズ、然ルニ牛塚市長ハ其非道ヲ悔イザルノミナラズ、「パンフレット」ヲ出シテ却テ自己ノ非違ヲ辯護スルノミナラズ、挑戰的逆宣傳ヲ爲セリ、而モ此ノ「パンフレット」中、敷地ニ付或ハ百五十萬坪ト稱シ、或ハ二百五十萬坪ト稱スルモ、百五十萬坪ニ如何ナル設備ヲ爲サントスルモノナリヤ、甚ダ不明瞭ナルノミナラズ、深川方面ニ敷設スベキ地下鐵道ノ工費一哩幾許ニシテ、幾箇ノ橋梁ヲ架設シ、護岸工費ハ幾許ヲ要スルヤ等ニ就キ調査シタリヤ、月島ニ廳舍ヲ建設スルモ、交通機關等ノ完備ヲ

期スルニアラズンバ、市役所トシテノ機能ヲ發揮スル能ハザルニアラズヤ、兎ニ角月島案ヲ市會ニ提出當時、市長ハ市制第五十一條及ビ會議規則第五條ヲ承知シ居タリシヤ否ヤ、尙ホ市廳舍建設敷地ニ就テハ、十年ノ歳月ヲ費シテ調査シタル結果、大手町附近ト決定シタルニ拘ラズ、一夜ニシテ此ノ決定ヲ弊履ノ如ク棄テ、月島ニ變更シタルハ、直接ノ當事者タル局課長等ニモ諮リタル結果ナリヤ否ヤ、是レ本員ノ質問ノ第一ナリ。第二、市長ハ盛ニ局課ヲ增設シタルガ、局課ノ增設ニハ豫算ノ增加ヲ伴フベシ、豫算ノ增加ハ市會ノ協贊ヲ經ザルベカラズ、殊ニ區役所ニ社會課ヲ新設シ、課長ノ下ニ或ハ一人、或ハ二人ノ吏員ヲ置キ、今日開店休業同樣ノ狀態ナルガ、元來區役所ニハ經濟上ノ餘裕ナク、且ツ職務ノ分量ニ比シテ人員之レニ伴ハズ、然ルニ課ヲ新設シテ人員ヲ增加セシメタリ、此ノ增加人員ノ俸給ヲ如何ナル方法ニ據リテ捻出セントスル考ヘナリヤ。第三、中野區ニ於テ現任課長ヲ其儘トシ、更ニ新ニ他ノ人物ヲ同一課長ニ任命シタル爲、新舊兩課長ガ一箇ノ椅子ヲ爭ヒタル悲喜劇アリシト聞ク、事實果シテ如何ト質シタルニ對シ。**牛塚市長**ハ、池田氏質問ノ市廳舍敷地問題ハ當市會ノ希望ニ基キ、其意響ヲ尊重シテ提案シタルナリ、法律ハ當職未熟ニシテ未ダ悉ク之ヲ知ラズ、又忘却シタルモノアルモ、自治方面ニ關スル專門學者ノ意見モアリ、余自身行政裁判所ノ評定官タリシ事モアリ、余ノ措置ハ毫モ差支ヘナシト信ズ、既ニ市會ニ於テ可決確定シタル事柄ハ、市會ノ名譽ノ爲茲ニ再ビ蒸返シヲ爲スヲ欲セズト答フルヤ。**池田君**更ニ、市長ハ行政裁判所ノ評定官タリシ事アリト云フ。急施案ナラザルモノヲ急施案トシテ市會ニ提出スルモ可ナリト、行政裁判所ガ果シテ何日如何ナル場合ニ言ヒタリヤ、唯今ノ市長ノ答辯ハ不親切極マレリ、尙ホ局課ノ增設問題、中野區ノ課長問題等ニ對スル答辯ナキハ如何ト質セリ。此ノ時**落合助役**ハ、局課ノ增設等ハ市長ノ權限內ニ屬スル事柄ニシテ、其俸給等ハ市會ニ於テ議決サレタル範圍內ニ於テ經理シ居レリ、中野區ニ於テ二人ヲ同時ニ同一課長タラシメタル事實ハ全然之レナシト答ヘ、斯テ質疑應答ヲ打切レリ。

## 第五節　電氣軌道事業

▽**市電從業員ニ關スル質疑應答**　一月二十五日ノ會議ニ於テ、**有馬淺雄君**ハ市理事者ニ問ウテ曰ク、電車ハ本市ノ最モ重要ナル交通機關タリ、然ルニ其從事員ト本市トノ間ニ數々種々ノ紛爭ヲ見聞スルハ甚ダ遺憾ナリ、想フニ市理事者ガ彼等ノ激務ニ同情スルト共ニ、彼等ノ生活方面ニ就テモ充分ノ理解ヲ有シ居ラバ、本市ト彼等ノ紛爭ハ之ヲ避ケ得ラレザル事無カルベシ、元來「サラリーマン」階級ト稱セラル、人々ガ、自己擁護ノ爲意見ヲ述ベ、又ハ陳情等ヲ爲ス場合、首腦者ハ直ニ彼等ヲ左傾ト見、又ハ極端ナル右傾ト看做ス事ガ、却テ彼等ヲ刺戟シ、問題ヲ激化セシムル虞ナシトセズ、過般紛爭問題惹起ノ際左樣ノ事ナカリシヤ否ヤ、尙同問題ノ處置ニ關シ其後ノ經過報告アランコトヲ望ム、現在彼等ノ執務振ヲ見ルニ所謂怠業氣分ニテ業務ニ從事シ居ルガ如ク思ハル、此ハ帝都タル本市ノ面目上重大問題ナリト考フ、仍テ今後彼等ニ對スル理事者ノ大體方針ヲ聽カント欲スト。電氣局長**立石信郎君**答ヘテ曰ク、電車事業ノ旺盛ナリシ當時、一日ノ收入拾萬圓ヲ超エ、一ヶ年四千萬圓近キ收入アリシガ、最近「バス」ノ發達、省線電車ノ完備、圓「タク」ノ非常ナル發展等ニ因リ、今日市電ノ收入ハ一日五萬圓以下ニテ、場合ニ依リテハ參、四萬圓、年收貳千萬圓以下ト云ヘル實情ナリ、即チ事業ノ盛ナリシ時代ニ比シ、其收入半減ト云フ悲慘ナル狀況ニ陷リ、能フ限リノ經費節約ヲ爲スニアラズンバ、到底電車事業ノ經營ヲ爲ス能ハザル事トナレリ、仍テ明年度豫算編製ニ際リ、從業員ト職員トヲ包含シタル千三百人程ノ人員ヲ解職スル事ヲ決意シタルガ、電氣局ガ此ノ擧ニ出ヅル迄ニハ、從業員竝ニ職員ノ生活狀態モ充分考慮シ、能フ限リ彼等ノ生活安定ヲ圖ラント欲シタルモ、何分ニモ電氣局自體ガ背

ニ腹ハ代ヘラレザル窮迫セル事態ニ當面セルヲ以テ、已ムヲ得ズ涙ヲ揮テ前陳ノ如キ財政建直策ヲ案出シタリ、其結果過般ノ如キ紛爭ヲ見ルニ至リタルガ、警視廳ニ於テモ此ノ事態ヲ憂慮サレ、强制調停委員會ノ成立ヲ見、此ノ委員會ノ調停ニ由リテ覺書ヲ作製シ、記名調印ヲ了シテ事件ノ一切ハ解決シタルナリ、然ルニ最近又復從業員間ニ怠業狀態ノ起レルハ事實ナルガ、調停委員會ニ於テ成立シタル覺書ノ項目中ニ「スピードアップ」ト云ヘルアリ、此ハ從來六十分ニテ電車ヲ走ラシメタル區間ヲ五十分ニテ走ル事トナリ、從テ從來ハ六十分ニ對スル賃銀ヲ得タル者ガ、此ノ「スピードアップ」ニ依リテ五十分ニ對スル賃銀ヲ得ルニ過ギズ、故ニ同ジ八時間勞働ト云フモ、從來六回運轉シテ假リニ貳圓ノ賃銀ヲ得タル者ガ、此ノ「スピードアップ」ニ依リテ七回運轉セザレバ貳圓ノ賃銀ヲ得ル能ハズ、「トータル」ノ時間ハ同一ナリト雖モ、六回運轉ト七回運轉トニテハ、從業員トシテ餘分ニ勞働シタリトノ感ヲ懷キ、其結果彼等ハ從業員ヲ酷使ストノ不平ヲ漏ラスニ至レリ、仍テ電氣局ニ於テハ、從業員ニ依リテ組織セル電車部會ノ幹部ニ對シ、調停委員會ニ於テ成立シタル覺書ヲ示シテ交渉シタルニ、幹部ハ之ヲ諒承シテ從業員ノ不平ヲ治メントシタルモ、從業員ハ容易ニ幹部ノ言ニ從ハズ、遂ニ怠業狀態ヲ見ルニ至リタル次第ナルガ、一昨日ヨリ全ク平常ニ復シ、茲ニ「スピードアップ」事業モ完成シタリ、將來モ從業員ニ對シテハ、勿論充分同情ヲ以テ臨ム考ヘナルモ、財政上ノ見地ヨリ已ムヲ得ザル處置ヲ爲サヾルベカラザルヤモ知ルベカラズ、兎ニ角余ハ常ニ從業員ニ對シ、諸君ガ怠業又ハ「ストライキ」等ヲ行フ事ニ因リテ電氣局ノ收入減ゼバ、勢ヒ諸君ノ收入モ減ゼザルヲ得ザルモ、電氣局ノ收入ニシテ增加セバ、諸君ノ收入ノ減少スベキ理由消失ス、故ニ諸君モ理事者ト一身同體トナリテ職務ニ精勵サレタシト進言シ居レリ。赤化分子ニ對シテハ、最近十數名ヲ解職シタルハ事實ナリ、此ハ單ニ嫌疑アリトノ理由ノミニテ處分シタルニアラズ、警視廳トモ常ニ充分打合セヲ爲シ居リ、過般ノ解職處分モ愼重考慮ノ上ニ爲シタルモノニシテ、今後モ處分ハ愼重ニセント欲スト。**有馬君**更ニ、市理事者ガ市電經營ニ關スル苦心ノ程ハ諒承シタルガ、本市ノ電車經營ハ營利會社ノ經營トハ其選ヲ異ニス、故ニ經理ニノミ重キヲ置キテ、從業員等ニ不滿アラシムルガ如キ事ナキヤウ、充分考慮セラレンコトヲ望ム、尙ホ思想問題ニ關シ常ニ警視廳トモ打合セヲ爲シ居レリトノ事ナルガ、警視廳ニハ往々人權蹂躪問題ノ起ルヲ聞ク、故ニ市理事者ハ他人ニ依賴セズ、社會思想等ニ就キ充分考慮ヲ拂ヒ、彼等ヲ餘リ激化セシムルコトナク、愉快ニ勞務ニ從事シ得ルヤウ、從來ノ經驗ニ徵シ、將來ニ於ケル對策ニ萬遺算ナキヲ期セラレンコトヲ望ムト希望シテ、質疑應答ヲ打切レリ。

## ▽京濱國道下軌道敷設特許申請ニ關スル件

諮問第六號　左記議案ハ一月二十五日ノ會議ニ上程、異議ナク即決可決セリ。

京濱地下電氣鐵道株式會社發起人京濱國道下軌道敷設特許申請ニ關スル件

東京市大森區新井宿四丁目千三百十番地
京濱地下電氣鐵道株式會社發起人
小倉新兵衛
外八名

右者申請ニ依ル地下軌道敷設ノ件ニ關シ別紙ノ通東京府ヨリ意見照會アリタル處右出願路線ハ道路管理上格別支障ナキモ現存スル國道上ノ乘合自動車及之ト近接竝行セル省線及京濱電車ノ各經過地ト略一致セルヲ以テ交通機關ヲ益々一箇所ニ集中スルノ結果ヲ生シ都市計畫上其ノ配置妥當ナラサルノミナラス徒ラニ無用ノ競走ヲ惹起スルニ至リ交通機關ノ統制上ヨリスルモ支障不尠ヲ以テ相當考慮ノ上處分相成度旨答申セムトス

仍テ昭和八年二月末日迄ニ其ノ會ノ意見ヲ諮フ

說明　本件出願路線ハ不適當ニシテ支障尠ナカラサルニ依リ相當考慮ノ上處理セラレ度旨答申スルモノトシ本案ヲ提出ス。

（參照）

軌道法施行規則抄錄

第四條　地方長官特許申請書ヲ受付タルトキハ期限ヲ指定シ軌道敷設ニ關シ關係道路管理者ノ意見ヲ徵スヘシ

道路管理者ハ前項ノ意見ヲ決定スルニ付期限ヲ指定シ道路ニ關スル費用ヲ負擔スル公共團體ノ議會ノ意見ヲ徵スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ期限內ニ意見ヲ答申セサルトキハ直ニ之ヲ處理スルコトヲ得

（別紙）

未經第七四八號

昭和七年十一年五日

東京市長永田秀次郎殿

東京府土木部長

京濱地下電氣鐵道株式會社發起人京濱國道下軌道敷設特許申請ニ關シ照會

標記ノ件別紙ノ通リ申請有之候ニ付之カ支障ノ有無ニ付來ル昭和七年十二月末日迄ニ御意見回答相成度軌道法施行規則第四條ニ依リ及照會候

追テ本願路線ハ別途照會ニ係ル京濱無軌道電車株式會社發起人申請ノ路線ト略同一ニ付爲念申添候

京濱地下電氣鐵道敷設願

今般私儀京濱地下電氣鐵道敷設ヲ企テ國道第一號線品川驛前ヲ起點トシ横濱市櫻木町驛前終點ニ至ル間同線地下ニ敷設致シ度計畫線路ハ將來京濱間ニ於ケル交通上及貨物運輸上最モ重要ノ義ト思料セラレ加之目下東京地下鐵道新橋品川間工事モ漸ク進捗ヲ來シ之カ完成ノ曉ハ連絡上又最モ必要ト認メラレ候條特別ノ御詮議ヲ以テ御認可相成度關係書類及豫測圖計畫書相添ヘ發起人連署ヲ以テ奉願候也

昭和六年六月　日

發起人總代

小倉新兵衛

外發起人八名連署

內務大臣安達謙藏殿

鐵道大臣江木翼殿

起業目論見書

第一條　本社ハ京濱地下鐵道株式會社ト稱シ本社ヲ東京市ニ設置シ營業所ヲ横濱市ニ設置ス

第二條　營業ノ目的本社計畫線京濱國道地下ニ軌道ヲ設ケ電氣軌道ヲ敷設シ一般旅客及貨物運輸ノ便ヲ計ルヲ以テ目的トス

第三條　本軌道ノ資本總額ヲ金貳千萬圓トシ之ヲ四十萬株ニ分チ壹株ノ金額ヲ五十圓トス

第四條　本軌道ノ起終點及經過地左ノ如シ

一、起　點　東京府品川驛前

一、終　點　横濱市櫻木町驛前

一、經過地　起點品川驛ニ始マリ東京府大井町、蒲田町、六鄕町、神奈川縣川崎市、横濱市鶴見區、同神奈川區子安町、神奈川町、横濱驛、櫻木町

第五條　本軌道線路延長十四哩七十鎖トス

第六條　本軌道ハ全部複線トス

第七條　營業年限ハ特許ヲ受ケタル日ヨリ五十箇年トス

## ▽市電更生ニ關スル建議

議員提出案審査委員意見報告

左記議案ハ十月二十日ノ會議ニ上程、異議ナク議員提出案審査委員長ノ報告通可決セリ。

一、市電更生ニ關スル建議（川田友之君外九十四名提出）

委員ハ審査ノ結果、原案ヲ可ナリト認メタリ

右報告候也

昭和八年十月二十日

昭和年間　第參章　昭和八年　第五節　電氣軌道事業

東京市會議長森俊成殿

一、市電更生ニ關スル建議

右提出候也

昭和八年十月十八日

提出者

川田友之　天野賴義　川手忠義
仲澤芳朗　中林軍平　酒井熊次郎
赤羽彌吾司　宇田川啓輔　千ヶ崎嘉助
安藤德雄　鏑木由七郎　井田友平
萩島茂留　吉田四郎平　田仲忠左衛門
笠井重治　島田辰太郎
（目黒）加藤榮助　朝倉虎治郎　森俊成　江田義一
山口久太郎　杉野善作　林連
石原永明　小宮次郎七　丸山秀天
佐藤榮志　田中源　松崎權四郎
廣川弘　鈴木義顯　桑原信助

委員長　安部利七



箱田市藏　有馬秀雄　本多市郎
淺川保平　早川庄太郎　深澤豐太郎
瀧澤龍太郎　篠原虎之輔　綾井樹
花村四郎　野波淳　廣瀨喜之助
辰野保　黑田保次　宮村龜一
鈴木正之助　一又安平　篠房輔
代田朝義　島田文治　石原勘右衛門
畔高定行　森富太　中島勝五郎
黑井直良　渡邊秀雄　吉田治郎八
溝口信　松永東　中西敏二
赤塚五郎　高崎高次郎　鈴木堅次郎
長野高一　橋本祐幸　中西雄洞
遠山丙市　大橋清太郎　須藤喜三郎
高木惣市　小針孫太郎　伊藤武七郎
横溝直也　（淺草）加藤榮助　友成四郎
中村梅吉　中塚榮次郎　鈴木菊太郎
茂木太市　菊池民一　平川進市郎

神山錠五郎　須田鋼治　松原傳吉
伊藤仁太郎　大野菊三　糟谷磯平
田中榮藏　富田富治郎　横瀨精一
小久保時之助　倉持忠助

東京市會議長森俊成殿

市電更生ニ關スル建議

累年減收ヲ續ケツヽアル本市電氣局ハ財政ノ窮迫其ノ極ニ達シ實狀寔ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアリ今ニシテ之カ根本的對策ヲ講スルニアラサレハ座シテ死ヲ待ツノ結果トナルヘキコト火ヲ睹ルヨリ瞭カナリト謂ハサルヘカラス曩ニ大正十二年未曾有ノ大震災ニ依リ莫大ナル被害ヲ蒙リ次ニ軌道事業年來ノ不振重積シ遂ニ二億數千萬圓ノ負債ニ喘カシムルニ到リ其ノ利子年額實ニ千數百萬圓即チ總收入ノ三分ノ二ヲ超エムトスル狀態ニ在リ危急存亡ノ此ノ秋ニ方リ從來理事者ノ執リ來レルカ如キ姑息的彌縫策ヲ以テシテハ何等ノ效果ナク市電回生ノ實ヲ擧ケ得サルコト今更喋々ノ言ヲ俟タサルトコロナリトス即チ打續ク經濟界ノ不況竝近時省線、地下鐵、乘合自動車、圓「タク」等交通機關著シク發達シ軌道事業及乘合自動車事業ヲシテ愈々窮境ニ陷レ其ノ收入減ヲシテ益々甚タシカラシメツヽアリ從テ本事業收支ノ「バランス」ヲ償ヒ得ル時機再ヒナカルヘシ而シテ僅カニ順調ヲ辿リツヽアル電燈、電力供給事業ノ支援ニ俟ツトスルモ尨大二億數千萬圓ノ負債ヲ有シ而モ其ノ利子ノ支拂ニスラ苦ミツヽアル現狀ハ到底打開シ得ヘクモアラス此ノ際根本的立直策ヲ考究樹立シ市電更正ノ途ヲ講スルハ一刻モ差シ措キ難キ緊急事ナリト信ス

理事者ハ須ラク切ニ思ヒヲ玆ニ致シ速カニ電氣局財政窮迫ノ現狀ヲ打開シ市電更正ノ實ヲ擧クヘキ具體的根本策ヲ樹立セラレムコトヲ望ム

右建議ス

**▽市營電車特別料金廢止ニ關スル建議**　十月二十七日ノ會議ニ於テ左記建議ヲ上程シタルガ、**鈴木堅次郎君**ヨリ、十月二十日ノ會議ニ於テ電氣事業更生ニ關スル調査委員設置ノ決議案（本章第拾參節第七項參照）上程アリタル際、澤本助役ノ聲明モアリタルニ據リ、暫ク市會ノ決定ヲ留保セラレンコトヲ望ムトノ動議提出アリ、異議ナク鈴木君ノ動議通決定セリ。

議員提出案審査委員意見報告

一、東京市營電車特別料金廢止ニ關スル建議（中村梅吉君外十七名提出）（大澤梅次郎君外五十三名贊成）

委員ハ審査ノ結果原案ヲ可ナリト認メタリ

右報告候也

昭和八年十月二十日

東京市會議長森俊成殿

委員長　安部利七

一、東京市營電車特別料金廢止ニ關スル建議

右提出候也

昭和八年十月二十日

提出者

中村梅吉　鏑木由七郎　山口玉造
瀧澤龍太郎　笠井重治　須藤喜三郎
淺香銀治郎　戸枝鐐太郎　横瀨精一
小川紋太郎　高木惣市　江口義一
鈴木義顯　瀨田疇一　篠房輔
板垣信春　千ヶ崎嘉助　吉田四郎平
賛成者　大澤梅次郎　外五十三名

東京市會議長森俊成殿

東京市營電車特別料金廢止ニ關スル建議

東京市營電車特別料金區間タル板橋線飛鳥山線千住線ニ對シ速ニ特別料金ノ徵收ヲ廢止セラレムコトヲ望ム

理由

本件ハ去ル昭和八年一月二十四日ノ市會本會議ニ市電特別料金廢止ニ關スル建議トシテ提案セラレ次イテ二月十七日市會本會議ニ於テ十七名ノ委員付託ニ決シ其ノ儘任期滿了改選後今日ニ及ヒタルモノニシテ爾來板橋線飛鳥山線千住線ハ普通料金以外ニ參錢乃至六錢ノ所謂特別料金ヲ徵收セラレツヽアリ之等ハ關係區域即チ豐島、板橋瀧野川、王子、足立ノ五區ニ限ラレタル區民ニ對スル負擔ヲ荷重ニセルモノニシテ斯ノ如キ不當ノ徵收ハ瓦斯料金ノ高下或ハ塵芥處理方法ノ不統一ト共ニ新舊市域ニ格段ノ差別的待遇ニ慊ラサル區民ヲシテ一層ノ不滿ヲ購フ



モノト謂フヘク之等ハ總テ昨秋市郡併合ノ當初ニ於テ是正セラルヘキニ拘ラス荏苒今日ニ及ヘルハ都市ノ繁榮ヲ阻害スルコト夥シキト且ハ大東京實現ノ趣旨ニ悖ルモノナリト信ス仍テ理事者ハ之ニ關スル成案ヲ作成シ速ニ右區間ヲ普通料金トシ特別料金ノ徵收ヲ廢止セラレ度右建議案提出候

## 第六節　公園ト墓地

**▽市公園特殊施設使用條例中改正ノ件**　左記議案ハ一月二十五日ノ會議ニ上程、異議ナク即決可決セリ。

第二號

東京市公園特殊施設使用條例中改正ノ件

東京市公園特殊施設使用條例（本卷第壹章第五節第壹項第貳號參照）中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第四條第一項別表一使用料中「水泳場」ノ次ニ

| 名稱 | 入場料會費ノ類ヲ徵收セサルモノ | 入場料會費ノ類ヲ徵收スルモノ |
|---|---|---|
| 弓道場 舊芝離宮恩賜庭園弓道場 | 十圓 | 二十圓 |

ヲ加ヘ「集會場」中

| | | |
|---|---|---|
| 同 豫備室 | （一室） | 三圓 |
| 同 別館 | | 五圓 |

ヲ

昭和年間　第參章　昭和八年　第六節　公園ト墓地

| | | |
|---|---|---|
| 同附屬洋室 | （一室） | 三圓 |
| 同和室 | | 八圓 |

ニ改ム

第四條第一項別表二入場料中「水泳場」ノ次ニ

| | | |
|---|---|---|
| 弓道場 | 舊芝離宮恩賜庭園弓道場 | 二十錢 |

ヲ加フ

説明　本件ハ舊芝離宮恩賜庭園ニ設備セル弓道場ニ對スル使用料竝入場料及大正記念館ノ集會場改築セラレタルニ依リ之カ使用料決定ノ必要ヲ認メ本案ヲ提出ス

越エテ六月二十日ノ會議ニ於テ左記議案上程、是レ亦異議ナク即決可決セリ。

第百五十七號

東京市公園特殊施設使用條例中改正ノ件

東京市公園特殊施設使用條例（註、本卷第壹章第五節第壹項及第貳章第貳節第壹項等參照）中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第四條　別表

一　使用料

競技場中

「隅田及錦糸」ヲ「隅田、錦糸及濱町」ニ、「濱園及猿江恩賜」ヲ「濱園、猿江恩賜及新月島」ニ改ム



野球場中

「隅田」ノ次ニ「及濱町」ヲ加ヘ「錦糸及猿江恩賜」ヲ「錦糸、猿江恩賜及新月島」ニ改ム

短艇中

「猿江恩賜」ノ次ニ「及碑文谷」ヲ加フ

水泳場中

| | | |
|---|---|---|
| 隅田公園水泳場 | | 百圓 |

ヲ

| | | |
|---|---|---|
| 隅田公園水泳場 | 第一號 | 百圓 |
| | 第二號 | 六十圓 |

ニ改メ

「濱町公園水泳場」ノ次ニ

| | | |
|---|---|---|
| 日比谷、錦糸及大塚公園 | | 六十圓 |
| 井ノ頭恩賜公園 | | 三十圓 |

ヲ加フ

二　入場料中

| | | |
|---|---|---|
| 水泳場 | 隅田、芝、濱町公園 | 十錢 |
| | 月島公園 | 一 |

| | | |
|---|---|---|
| 隅田公園水泳場 | 第一號 | 百圓 |
| | 第二號 | 二百圓 |
| 濱園 | | 百二十圓 |
| 猿江恩賜 | | 六十圓 |
| 新月島 | | 百二十圓 |
| 猿江恩賜 | | 六十圓 |

| | | |
|---|---|---|
| 水泳場 | 隅田、芝、濱町公園 | 五錢 |
| | 月島公園 | 五錢 |

ヲ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 水泳場 | 隅田、芝、濱町、日比谷、錦糸及大塚公園 | 十錢 | 五錢 |
| | 井ノ頭恩賜公園 | 五錢 | 三錢 |
| | 月島第二公園 | 一 | 三錢 |
| | 幼年用 日比谷、芝及井ノ頭公園 | 一 | 二錢 |

ニ改ム

說明　本件ハ新月島、濱町公園ニ競技場及野球場ヲ、錦糸、隅田、大塚、日比谷、井ノ頭公園ニ水泳場ヲ、碑文谷公園ニ短艇ヲ夫々新設シタルニ依リ之カ使用料竝入場料決定ノ必要ヲ認メ本案ヲ提出ス。

**▽市公園地無償使用承認ノ件**　一月二十五日ノ會議ニ於テ下記議案上程、**小澤佐重喜君**ノ動議ニ據リ、議長指名十七名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

森原嘉逸　岡田和一郎　桑原信助　秋山文次　富田富治郎
島中雄三　小林半三郎　長野高一　櫻井廣直　萩原茂留
松永東　伊藤武七郎　川村正夫　吉田直治　小野養治
秋澤吉藏　田中源

委員ハ**岡田和一郎君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、三月八日ノ會議ニ於テ**岡田委員長**ハ委員會ノ經過ヲ報告シテ曰ク、社會的施設ヲ目的トスル病院ノ建設經營ハ、元來本市ガ爲スベキ事柄ナルニ拘ラズ、淺草寺ガ自己ノ維持費ヲ以テ之ヲ爲サントスルモノナルヲ以テ、大イニ歡迎スベキナリトノ意見ニテ、委員會ハ其趣旨ヲ是認シ、且ツ同時ニ公園地



內ニ病院ヲ建設シテ常ニ患者ヲ收容シ置クハ好マシカラズト云ヘル公園常設委員會ノ意見ヲ尊重スル事トシタリ。但シ公園ハ多數市民ノ集合スル所、殊ニ淺草公園ハ極メテ雜沓スル所ナルヲ以テ、不慮ノ怪我人又ハ急病人等アルヲ豫想セザルベカラズ。仍テ應急處置ヲ爲ス目的ニテ不慮ノ怪我人又ハ急病人等ヲ收容スベキ病床ヲ設クルガ如キハ、之ヲ認メザルベカラズ、然ラズンバ社會的施設ノ目的ハ達成スル能ハザル事トナルガ故ニ、使用條件第四項ニ但書ヲ附スル事トセリト。此ノ委員長ノ報告ニ對シ、滿場異議ナク、委員會ノ修正通、即チ委員長報告通可決セリ。

第三號

公園地無償使用承認ノ件　（右側ノ○印ハ委員會ノ修正）

淺草區淺草公園地第五區內

一　地坪　二百坪

右土地淺草公園淺草寺住職大森亮順ヨリ社會事業會館敷地トシテ無償使用方出願アリタルニ依リ左記條件ヲ附シ之カ使用ヲ承認スルモノトス

記

一　本件土地ハ願書記載ノ用途ニ限リ使用スルコト

一　使用期間ハ承認ノ日ヨリ三十年トス但シ市長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ之ヲ變更スルコトアルヘシ

一　會館建築ニ付テハ工事着手竣功共屆出テ竣功ノ場合ハ本市ノ檢査ヲ受クルコト

一　本件使用地內建物ニハ入院患者收容ノ設備ヲ爲ササルコト

　但シ應急的目的ヲ以テ少數ノ病床ヲ設クルコトハ此限ニアラス

一　前各項ノ外東京市公園使用條例記載事項ヲ遵守スルコト

一　本條件ニ違反シタル場合ハ使用承認ヲ取消スコトアルヘシ

説明　本件土地ハ淺草公園淺草寺ニ於テ社會事業會館建設ノ爲同敷地トシテ使用方申出アリタルモノナルカ同地ハ同寺所有ニ屬シ事情已ムヲ得サルモノト認ムルニ依リ從來同寺ニ使用許可中ノ土地二百七十八坪二合二勺ヲ本件土地使用承認ト同時ニ返還セシメ且前記條件ヲ附シ無償使用セシムルモノトシ本案ヲ提出ス。

（參考）

請願書

東京市淺草區淺草公園地

淺草寺

淺草公園地第五區所在別紙圖面記載ノ土地約貳百坪ヲ當寺計畫ニヨル社會事業會館用地トシテ無償使用ノ儀御許可被成下度別記事由書竝附屬圖面等相添此段及請願候也

昭和七年七月　日

右淺草寺住職

大森亮順

外信徒總代三名

東京市長永田秀次郎殿

（添附書類略）

（備考）目下淺草寺ニ使用許可中ニシテ本件土地使用承認ト同時ニ返還セシムル土地

淺草區淺草公園第五區第十三號

一　地坪　五十八坪二合二勺

同區同　公園第二區

一　地坪　二百二十坪

計　二百七十八坪二合二勺

（參照）

東京市公園使用條例抄錄

第二條　土地又ハ本市工作物ヲ使用セシムルハ公園ノ施設ニ伴フ業務ヲ營ム者ニ限ル

前項以外ノ者ノ使用ニ付テハ市會ノ議決ニ依ル此ノ場合ニ於テハ第十七條ニ該當スルモノヲ除クノ外本條例ハ之ヲ適用セス

第十七條　永久ニ傳フヘキ事蹟又ハ顯著ナル功績アリタル者ノ記念碑又ハ形像ノ類ヲ建設スル爲土地ノ使用ヲ出願スル者アルトキハ市會ノ議決ニ依リ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ（以下略）

## ▽市公園地使用料減免ノ件

左記兩議案ハ三月八日ノ會議ニ於テ、原案通即決可決セリ。

第七十號

公園地使用料免除ノ件

麹町區清水谷公園地

一　面積　三百六坪二合三勺

一　使用目的　住宅及貸席業家屋敷地

一　使用料免除期間　自昭和八年一月一日　至同十二年十二月三十一日

一　使用者　麹町區紀尾井町三番地清水谷公園地　江川定次郎

右土地ノ使用ニ對シ左記條件ヲ附シ使用料ヲ免除スルモノトス

記

昭和年間　第參章　昭和八年　第六節　公園ト墓地

一　本件土地ノ使用者ハ自費ヲ以テ園内掃除、撒水、除雪、芝刈及草取ヲ爲スコト

説明　本件土地ハ明治二十四年同所ヲ本市公園トシテ設置以來引續キ無料使用ヲ許可シタルモノナルカ今回期間滿了ト共ニ更ニ別紙ノ通無料使用方出願アリタルニ依リ前記ノ通處理スルヲ相當ト認メ本案ヲ提出ス。

（參照）

東京市公園使用條例抄錄

第三十八條　本條例施行ノ際現ニ私立幼稚園、住宅又ハ之ニ準スヘキモノノ用ニ供スル土地ハ當分ノ内從前ノ使用目的ヲ以テ之ヲ使用セシムルコトヲ得

（參考）

清水谷公園使用料免除願

一　所在地　麴町區清水谷公園地内

一　使用坪數　參百六坪貳合參勺

右奉願上候公園地使用ノ儀ハ亡父定次郎明治十六年中北白川宮家ヨリ御邸内懸崖地其ノ他荒地ヲ無期限無地料ニテ拜借ノ恩命ヲ蒙リ開墾地均シ及鑿井等ノ新設費ヲ投シ既ニ家屋建築ニ着手中ノ處該地全部ヲ故大久保利通公記念碑建設地トシ同宮家ヨリ發起人ヘ御下附相成候

右ニ付發起委員長故西村拾三殿ヨリ亡父ニ御懇談ノ結果開墾其ノ他ノ費ヲ無償トシテ拜借地ノ位置變更ノ上面積壹百八拾九坪無地料ニテ借用致シ家屋其ノ他ヲ設備シ庭造及貸席營業罷在候處追年繁榮ニ赴キ手狹ト相成且ツ園内風致設備ノ爲明治二十二年七月中隣地原野壹百八拾七坪五合及泉水參百坪增使用仕乍不及設備ヲナシ風致ヲ添ヘ尚無料借用ノ義務トシテ園内外平常草取掃除等無料實行候然ルニ明治二十四年該地全部ヲ市公園地トシテ發起人ヨリ市參事會東京府知事ニ獻納相成其泉水ハ風致上公園ニ於テ經營スヘキヲ以テ差支無クハ返地可致旨御達シ有之候ニ付當時ノ設備ヲ添ヘ返上仕リ同年二月二十三日附ヲ以テ向貳拾八年間從來ノ義務負擔ヲ條件トシ無地料借用御認可被成引續使用罷在候處大正八年二月ヲ以テ期限滿了仕其際七拾坪貳合七勺ヲ返上在植樹木ハ獻納致シ引續使用繼續御認可有之昭和二年十二月三十一日期限滿了仕御市公園使用條例ニ基キ借地繼續願書提出御認可相成使用料免除ハ昭和七年十二月三十一日期限滿了ノ處當初ヨリノ事情等御諒察被成下從來ノ負擔條件ニテ特別ノ御詮議ヲ以テ御認可被成下度此段奉願上候也

昭和七年十二月八日

東京市麴町區紀尾井町三番地清水谷公園地

江川定次郎

東京市長永田秀次郎殿

第七十一號

公園地使用料減額ノ件

芝區愛宕公園地番外一番

一　使用坪數　八十四坪一合六勺

一　使用目的　庭園

一　使用料減額期間　自昭和八年一月一日　至同十二年十二月三十一日

一　使用者　芝區愛宕町一丁目十三番地　關谷與助

右土地使用ニ對シ左記條件ヲ附シ東京市公園使用條例所定額ノ五割ニ相當スル料金ニ減額スルモノトス

記

一　本件土地使用者ハ自費ヲ以テ石垣ノ維持保存並崖地崩落ヲ防ク適當ノ設備ヲ爲スコト

説明　本件土地ハ急勾配ノ崖地ニシテ東京市公園地使用料條例ニ據ル使用料ヲ徴收スルハ不適當ニシテ且一面古キ使用關係ヲ有シ從來該崖地ノ防護施設ヲ條件トシテ使用セシメタル關係上前記ノ通減額スルヲ相當ト認メ本案ヲ提出ス。

（參照）

東京市公園使用條例抄錄

第三十八條　本條例施行ノ際現ニ私立學校及私立幼稚園、住宅又ハ之ニ準スヘキモノノ用ニ供スル土地ハ當分ノ内從前ノ使用目的ヲ以テ之ヲ使用セシムルコトヲ得

昭和年間　第參章　昭和八年　第六節　公園ト墓地

東京市公園使用料條例抄錄

第二條　土地使用料ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ徵收ス。

一　常時使用料

別表ヲ以テ之ヲ定ム

（別表）　中略

愛宕公園（番外一番）　一坪一月　金四十三錢

以下略

第五條　東京市公園使用條例第二十五條ニ依ル場合ヲ除クノ外本條例ニ定メタル使用料ハ市會ノ議決ヲ經テ特ニ減免スルコトヲ得

## ▽公園工作物使用料減額ノ件

第百五十三號

公園工作物使用料減額ノ件

本市淺草公園仲店工作物使用料ヲ當分ノ間左記ノ通減額スルモノトス

記

東側建家　建一坪一月　金十圓五十四錢

西側建家　同　金十一圓五十六錢

通路上建家　同　金四圓二十五錢

番外建家　同　金十圓五十四錢

說明　一般的經濟不況竝附近地理的事情ノ變化ハ仲店繁榮ノ度ニ著大ナル影響ヲ及ホシタルニ依リ前記ノ通減額スルヲ相當ト認メ本案ヲ提出ス



（參照）

東京市公園使用料條例抄錄

第四條　工作物使用料ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ徵收ス

一　淺草公園仲店

東側建家　建一坪一月　金十二圓四十錢

西側建家　同　金十三圓六十錢

通路上建家　同　金五圓

番外建家　同　金十二圓四十錢

第五條　東京市公園使用條例ニ依ル場合ヲ除クノ外本條例ニ定メタル使用料ハ市會ノ議決ヲ經テ特ニ減免スルコトヲ得

本案ハ六月二十日ノ會議ニ上程、**鈴木堅次郎君**ノ動議ニ據リ、議長指名十七名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

鈴木慶四郎　黑井直良　松崎權四郎　瀨田醻一　野波淳

横溝直也　小野內壽松　大野菊三（淺草區選出）　加藤榮助　江口義一

綾井樹　安部利七（目黑區選出）　加藤榮助　田仲忠左衞門　小野利三郎

小宮次郎七　田中榮藏

委員ハ淺草區選出ノ**加藤榮助君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、七月二十日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

## ▽市墓地改葬規則中改正ノ件

第二百十四號

左記議案ハ十月二十日ノ會議ニ於テ、原案通即決可決セリ。

昭和年間　第參章　昭和八年　第六節　公園ト墓地

### 東京市墓地改葬規則中改正ノ件

東京市墓地改葬規則中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第一條中「大正二十三年」ヲ「昭和十二年」ニ改ム

第二條第一項中「納骨堂」ノ次ニ「若ハ市長ノ承認スル特殊ノ納骨設備」ヲ加フ

第二條第二項ヲ削ル

説明　市内ニ於ケル墓地整理ノ進捗ヲ計ル爲前記ノ通改正スルヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス。

（參照）

東京市墓地改葬規則抄錄

第一條　本市元寺院内共葬墓地ノ墳墓ハ大正二十三年十二月末日迄ニ本規則ノ定ムル所ニ依リ之ヲ改葬セシムルモノトス但シ史蹟其ノ他特別ノ由緒アルモノハ市長之ヲ存置セシムルコトアルヘシ

第二條　墳墓ノ改葬先ハ市外又ハ納骨堂タルコトヲ要ス但シ相當ノ事由アルモノハ市長ノ承認ヲ受ケ市内所在ノ墓地ニ整理スルコトヲ得

特別都市計畫土地區劃整理施行地區内ニ於テハ市長ノ承認スル特殊ノ納骨設備ヲ爲シ之ニ改葬スルコトヲ得

### ▽多磨墓地附屬設備使用條例中改正ノ件

左記議案ハ十二月二十八日ノ會議ニ上程、異議ナク可決セリ。

第二百六十一號

東京市多磨墓地附屬設備使用條例中改正ノ件

東京市多磨墓地附屬設備使用條例中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第一條中「葬送車」ヲ「納骨堂」ニ改ム

第二條　葬式場ハ葬儀執行及柩保管、納骨堂ハ遺骨保管及其ノ祭祀ノ目的ニ之ヲ使用スルモノトス

第二條ノ二　納骨堂ハ本市ニ住所ヲ有セサル者之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ市長相當ノ事由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　葬場又ハ納骨堂ヲ使用セムトスル者ハ左ノ使用料ヲ納付スヘシ但シ市長相當ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ減免スルコトヲ得

一、葬式場使用料

| | | |
|---|---|---|
| 式場 | 一回（三時間以内） | 金五圓 |
| 柩保管 | 一回（二十四時間以内） | 金二圓 |

二　納骨堂使用料

| | | |
|---|---|---|
| 遺骨保管 | 一箇（五年間） | 金六圓以内 |
| 祭壇 | 一回（一時間） | 金一圓以内 |

納骨堂ノ使用料ハ前項ノ範圍内ニ於テ市長別ニ之ヲ定ム

第四條中「葬送車」ヲ「納骨堂」ニ改メ第三號中「承認」ノ上ニ「其ノ」ヲ加フ

第五條中「葬送車」ヲ「納骨堂」ニ改メ「承認」ノ上ニ「其ノ」ヲ加フ

説明　本件ハ多磨墓地附屬納骨堂ヲ建設スルニ當リ之カ使用料設定ノ爲本條例ヲ改正スルモノトシ本案ヲ提出ス。

## 第七節　稅關係議案

### ▽區ニ屬スル市稅賦課制限ニ關スル議決更正ノ件

一月二十五日ノ會議ニ於テ左記議案上程サルヽヤ、小澤佐重喜

昭和年間　第參章　昭和八年　第七節　稅關係議案

君ヨリ、雜種稅附加稅百分ノ百トアルヲ百分ノ八十ト修正シ、他ハ原案通可決セラレンコトヲ望ムトノ動議提出アリ異議ナク小澤君ノ動議通可決セリ。

第五號

區ニ屬スル市稅賦課制限ニ關スル議決更正ノ件（右側ノ○印ハ市會ニテ修正　左側ノ—印ハ原案削除）

明治四十五年二月十三日第三號市會議決區ニ屬スル市稅賦課制限ニ關スル件左ノ通改メ昭和八年度分ヨリ之ヲ適用スルモノトス

記

市制町村制施行令第七十條第二項竝第三項ニ依リ各區ニ於テ賦課徵收スル市稅ハ地租附加稅雜種稅附加稅中荷積車、自轉車及家屋稅附加稅トシ其ノ制限ハ左ノ通トス

一　地租附加稅

昭和八年度　本稅百分ノ三十

昭和九年度　本稅百分ノ三十七

昭和十年度以降　本稅百分ノ四十五

二　雜種稅附加稅

荷積車、自轉車　本稅百分ノ八十（○百）

三　家屋稅附加稅

前二項ノ課率ニ依リ賦課シ仍不足アル場合ニ限リ其ノ不足額ノ範圍內

說明　現行區ニ屬スル市稅賦課ノ制限ハ近時各區負擔ノ實狀ニ鑑ミ稅種ノ變更ヲ爲スヲ適當ト認ムルヲ以テ本案ヲ提出ス。

（參照）

市制町村制施行令抄

第七十條　區ハ其ノ財產及營造物ニ關シ必要ナル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

2　前項ノ支出ハ區ノ財產ヨリ生スル收入、使用料其他法令ニ依リ區ニ屬スル收入ヲ以テ之ニ充テ仍不足アルトキハ市ハ其ノ區ニ於テ特ニ賦課徵收スル市稅ヲ以テ之ニ充ツヘシ

3　前項ノ市稅ニ付市會ノ議決スヘキ事項ハ區會之ヲ議決ス但シ市ノ定メタル制限ヲ超ユルコトヲ得ス

區ニ屬スル市稅賦課制限ニ關スル件（明治四十五年二月十三日第三號市會議決）

明治四十四年九月勅令第二百四十四號第十三條第二項（現行市制町村制施行令第七十條第二項）ニ依リ市內各區ニ於テ特ニ賦課徵收スル市稅ハ府稅家屋稅附加稅ニ限リ附加セシム

▽特別稅條例中改正ノ件　左記議案ハ一月二十五日ノ會議ニ於テ、小澤佐重喜君ノ動議ニ據リ、本市昭和八年度歲入出總豫算（註本章第拾八節參照）外十議案ト共ニ、同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、三月八日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第三十一號

東京市特別稅條例中改正ノ件

東京市特別稅條例（註第七卷七百六十一頁參照）中左ノ通改正シ昭和八年度分ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第一條第六號、第八章、第二十八條及第三十七條中「新開免租地段別割」ヲ「埋立免租地段別割」ニ改ム

第二十六條中「新開免租地段別割」ヲ「埋立免租地段別割」ニ「新開免租年期」ヲ「埋立免租年期」ニ改ム

第二十七條　埋立免租地段別割ハ左ノ課額以內トシ第一期ハ七月三十一日第二期ハ一月三十一日限リ之ヲ徵收ス

| | | | |
|---|---|---|---|
| 神田區錦町三丁目 | 一坪ニ付 | 年稅 | 三十二錢九厘 |
| 芝區南濱町 | 同 | 同 | 二十五錢三厘 |
| 同　金杉新濱町 | 同 | 同 | 二十五錢三厘 |
| 同　日之出町 | 同 | 同 | 二十五錢三厘 |
| 芝區車町 | 同 | 同 | 二十錢三厘 |
| 同　芝浦二丁目 | 同 | 同 | 二十錢三厘 |
| 同　芝浦三丁目 | 同 | 同 | 二十錢三厘 |
| 京橋區佃島 | 同 | 同 | 二十錢三厘 |
| 芝區　芝浦一丁目 | 同 | 同 | 十五錢二厘 |
| 同　月見町一丁目 | 同 | 同 | 十五錢二厘 |
| 同　月見町二丁目 | 同 | 同 | 十五錢二厘 |
| 同　竹芝町 | 同 | 同 | 十五錢二厘 |
| 深川區平久町一丁目 | 同 | 同 | 十二錢七厘 |
| 深川區平久町二丁目 | 同 | 同 | 十二錢七厘 |
| 品川區南品川一丁目 | 同 | 同 | 十錢一厘 |
| 同　南品川二丁目（自三六番至四五番） | 同 | 同 | 十錢一厘 |
| 同　北品川一丁目 | 同 | 同 | 十錢一厘 |
| 品川區南品川二丁目四六番ノ一以下 | 同 | 同 | 七錢六厘 |
| 同　南品川三丁目 | 同 | 同 | 七錢六厘 |
| 大森區大森一丁目（六、四八三番地ノ二ヲ除ク） | 同 | 同 | 七錢六厘 |
| 同　入新井一丁目 | 同 | 同 | 七錢六厘 |
| 品川區大井海岸町 | 同 | 同 | 六錢三厘 |
| 品川區東品川一丁目乃至三丁目 | 同 | 同 | 五錢七厘 |
| 大森區大森一丁目六、四八三番ノ二 | 同 | 同 | 三錢八厘 |

第二十九條中「新開免租年期地」ヲ「埋立免租年期地」ニ改ム

説明　地租法制定ノ結果新開免租地ノ名稱ヲ埋立免租地ニ改メラレタルト地租附加稅課率變更竝町名改正及新ニ本稅ヲ賦課スヘキ土地ヲ生シタルトニ依リ本案ヲ提出ス。

越エテ七月二十日ノ會議ニ於テ左記議案上程、原案通即決可決セリ。

第二百三號

東京市特別稅條例中改正ノ件

東京市特別稅條例中左ノ通改正シ昭和八年八月一日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第十三條中「百分ノ一」ヲ「百分ノ二」ニ改ム

説明　第二百二號議案ニ伴ヒ本案ヲ提出ス（註、本章第拾八節第五項參照）

## 第八節　區公會堂使用條例中改正ノ件

左記議案ハ一月二十五日ノ會議ニ上程、異議ナク可決セリ。

第六號

東京市區公會堂使用條例中改正ノ件

東京市區公會堂使用條例中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

澁谷區公會堂ニ付テハ前二項ノ料額ニ拘ラス一圓二十錢以上二十五圓以内トナス事ヲ得

附則第一項中「及」ヲ削リ「本所區」ノ次ニ「及澁谷區」ヲ加フ

說明　澁谷區公會堂ノ開設ニ伴ヒ本條例中一部改正ノ必要ヲ認メ澁谷區會ニ諮問シタル處異議ナキ旨答申アリタルヲ以テ本案ヲ提出ス。

（參照）

東京市區公會堂使用條例抄

第三條　公會堂ノ使用料額ハ左ノ範圍内ニ於テ區長其ノ區會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

| 使用種別 | | 入場料會費等ヲ徵收セサルモノ | 入場料會費等ヲ徵收スルモノ |
|---|---|---|---|
| 公會堂及附屬室使用ノ場合 | 最高 | 三〇〇圓 | 六〇〇圓 |
| | 最低 | 一〇〇圓 | 二〇〇圓 |
| 附屬室ノミ使用ノ場合 | 最高 | 九〇圓 | 一五〇圓 |
| | 最低 | 三〇圓 | 五〇圓 |

入場料會費等ヲ徵收スルモノハ使用一回五時間以内トス

前項ノ使用時間五時間ヲ超ユルトキハ一時間ヲ增ス每ニ前項使用料額ノ一割五分ヲ加フ但一時間未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツルモノトス



附則

本條例ハ其ノ開設ノ日ヨリ麴町區、日本橋區、京橋區、芝區、下谷區、澁草區及本所區ノ公會堂ニ之ヲ適用ス

次デ六月二十日ノ會議ニ於テ左記議案上程、是レ亦原案通即決可決セリ。

第百四十二號

東京市區公會堂使用例中改正ノ件

東京市區公會堂使用條例中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第三條第三項中「澁谷區」ノ前ニ「蒲田區及」ヲ加ヘ「一圓二十錢」ヲ「五十錢」ニ改ム

附則第一項中「本所區」ノ前ニ「、」ヲ、次ニ「、蒲田區」ヲ加フ

說明　蒲田區公會堂ノ開設ニ伴ヒ本條例中一部改正ノ必要ヲ認メ蒲田區會ニ諮問シタル處異議ナキ旨答申アリタルヲ以テ本案ヲ提出ス

越エテ十月二十日ノ會議ニ於テ左記議案上程、是レ亦異議ナク即決可決セリ。

第二百二十二號

東京市區公會堂使用條例中改正ノ件

東京市區公會堂使用條例中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第三條第三項中「及澁谷區」ヲ「、澁谷區及淀橋區」ニ改ム

附則中「及澁谷區」ヲ「、澁谷區及淀橋區」ニ改ム

說明　淀橋區公會堂ノ開設ニ伴ヒ本條例中一部改正ノ必要ヲ認メ淀橋區會ニ諮問シタル處異議ナキ旨答申アリタルヲ以テ本案ヲ提出ス。

# 第九節　復興事業公債外債償還資金並ニ利子相當金起債ニ關スル件

**▽復興事業公債外債利子相當金起債ニ關スル件**　左記議案ハ一月二十五日ノ會議ニ上程、異議ナク可決セリ。

第九號

東京市復興事業公債外債利子相當金起債ニ關スル件

一　起債金額　五百六十四萬九千八百圓
　但シ公募ノ場合ハ券面五百九十四萬七千圓以内トス

二　起債ノ目的　昭和七年度ニ於テ國庫ヨリ補給ヲ受クル豫定ナリシ復興事業公債外債利子額ハ當該年度ニ於テ補給ヲ受ケ得ラレサルニ付之カ支拂資金ニ充當

三　利率　年六分以内

四　起債ノ方法　借入又ハ公募但シ公募ノ場合ハ銀行又ハ信託業者ヲシテ引受發行セシムルコトヲ得
　本起債ノ時期適當ナラサルトキハ利子年率六分五厘以内償還期限五年以内ノ短期債ヲ起スコトヲ得
　前項ノ短期債ハ本公債募集金及其ノ他收入ヲ以テ之ヲ償還ス
　短期債ヲ起ス場合ト雖別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス

五　起債ノ時期　昭和七年度但シ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

六　償還ノ期間及方法　昭和八年度以降昭和三十六年度迄ニ之ヲ償還ス
　債券發行ノモノニ付テハ一部償還ハ抽籤ノ方法ニ依リ若ハ買入銷却ヲ爲スコトヲ得
　市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ又ハ償還年限ヲ短縮シ若ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得
　國庫ヨリ本利子額ノ全部又ハ一部ノ補給ヲ受ケタルトキハ前各項ニ拘ラス同額ノ繰上償還ヲ爲スモノトス

七　元利支拂資源　國庫補給金又ハ一般歳入

八　借入又ハ公募ニ關シ必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

説明　昭和七年度ニ於テ國庫ヨリ補給ヲ受クル豫定ナリシ復興事業公債外債利子額ハ當該年度ニ於テ補給ヲ受ケ得ラレス尚目下ノ處補給ヲ受クヘキ時期確定セサルニ依リ之カ資源ヲ起債ニ需ムルヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス。

（參考）
當初豫算ニ於テハ所要額ヲ三、八八九、〇二八圓ト豫計セラレタルモ爲替關係ニ依リ五、六四九、八一一圓ト爲リタルモノトス

（償還年次表略ス）

**▽復興事業公債外債償還資金起債ニ關スル件**

第三十號

東京市復興事業公債外債償還資金起債ニ關スル件

一　起債金額　七十七萬三千圓

但シ公募ノ場合ハ券面八十一萬四千圓以内トシ尚爲替相場ニ於テ對英一志四片對米二十三弗ニ對シ增減アリタルトキハ其ノ限度ニ於テ起債金額ヲ更改スルコトヲ得ルモノトス

二　起債ノ目的　復興事業公債償還資金補塡ニ充當

三　利率　年六分以内

四　起債ノ方法　借入又ハ公募但シ公募ノ場合ハ銀行又ハ信託業者ヲシテ引受發行セシムルコトヲ得

本起債ノ時期適當ナラサルトキハ利子年率六分五厘以内償還期限五年以内ノ短期債ヲ起スコトヲ得

前項ノ短期債ハ本公債募集金及其ノ他收入ヲ以テ之ヲ償還ス

短期債ヲ起ス場合ト雖別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス

五　起債ノ時期　昭和八年度但シ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

六　償還ノ期間及方法　昭和九年度以降昭和三十六年度迄ニ之ヲ償還ス

債券發行ノモノニ付テハ一部償還ハ抽籤ノ方法ニ依リ若ハ買入銷却ヲ爲スコトヲ得

市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ又ハ償還年限ヲ短縮シ若ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

七　元利支拂資源　一般歳入

八　借入又ハ公募ニ關シ必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

說明　復興事業公債外債ノ償還ニ當リ現下ノ對外爲替相場ヲ以テシテハ豫定ノ償還額ニ不足ヲ生スルヲ以テ本市財政ノ現況ニ鑑ミ之カ償還資源ノ一部ヲ起債ニ需ムルモノトシ本案ヲ提出ス

（償還年次表略ス）

本案ハ一月二十五日ノ會議ニ於テ、**小澤佐重喜君**ノ動議ニ據リ、本市昭和八年度歳入出總豫算（本章第拾八節參照）外十件ト共ニ同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、三月八日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

## 第拾節　整理公債條例設定及改正

**▽第四回整理公債條例設定ノ件**　左記議案ハ一月二十五日ノ會議ニ上程、異議ナク原案通可決セリ。

第十號

東京市第四回整理公債條例設定ノ件

東京市第四回整理公債條例左ノ通設定スルモノトス

東京市第四回整理公債條例

### 第一章　總則

第一條　本公債ハ本市域ニ編入シタル元荏原、豐多摩、北豐島、南足立及南葛飾郡各町村竝元豐多摩病院町村組合ニ於ケル小學校建築、下水道改良、道路改良、災害復舊及病院建築費ニ充當シタル利率六分二厘以上ノ借入

金ヲ償還整理スル爲之ヲ發行ス

第二條　本公債ハ券面八百六十七萬六千六百圓手取額八百六十七萬六千六百圓トス

第三條　本公債ノ利率ハ一年百分ノ六以内トス

第四條　本公債發行額、手取額、利率及償還方法竝本公債取扱ニ關スル手續其ノ他必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

## 第二章　募　集

第五條　本公債ハ昭和七年度ニ於テ之ヲ募集ス但シ第八條ノ規定ニ依リ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

第六條　本公債ノ發行價格ハ券面百圓ニ付百圓トス

第七條　本公債ノ募集ハ銀行又ハ信託業者ヲシテ引受發行セシムルコトヲ得

第八條　本公債發行ノ時期適當ナラサル時ハ利子年率百分ノ六以内償還期限五年以内ノ短期債ヲ起スコトヲ得

前項ノ短期債ハ本公債募集金其ノ他ノ收入ヲ以テ償還スルモノトス

短期債ヲ起ス場合ト雖別表ノ償還年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス

第一項ノ短期債ヲ起スニ付必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

## 第三章　證　券

第九條　本公債ニ對シテ發行スル證券ハ無記名利札附トス

第十條　本公債ノ證券又ハ利札ヲ紛失、滅失若ハ汚損シタル者ハ其ノ種類、記號及番號等ヲ明示シテ新證券又ハ



新利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十一條　證券又ハ利札滅失ノ證跡明確ナルトキ及汚損シタルモノニ對シテハ直ニ其ノ證券又ハ利札ニ相當スル新證券又ハ新利札ヲ交付ス

證券又ハ利札滅失ノ證跡明確ナラサルトキ及紛失ノ場合ニ於テハ公示催告手續ニ依リ除權判決アリタルトキニ限リ新證券又ハ新利札ヲ交付ス

前項ノ場合ニ於テハ新證券又ハ新利札ノ交付ニ至ル迄ノ間其ノ元利金ノ支拂ヲ停止シ新證券又ハ新利札ヲ發行シタルトキハ前ノ證券又ハ利札ハ之ヲ無效トス

第十二條　新證券又ハ新利札ノ請求及交付ニ要スル費用ハ請求者ノ負擔トス

第十一條第二項ニ依リ新證券又ハ新利札交付ノ場合ニ於テハ請求者ヲシテ其ノ交付ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ヲ負擔スル旨ヲ約セシメ且ツ市長ノ相當ト認ムル擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ立テシムルコトヲ得

## 第四章　償還及支拂

第十三條　本公債ノ元金及利子ハ一般歳入ヲ以テ之ヲ支拂フ

第十四條　本公債ノ元金ハ昭和八年度以降昭和三十年度迄ノ間ニ券面額ヲ以テ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ若ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

一部償還ハ抽籤ノ方法ニ依ル但シ買入銷却ヲ爲スコトアルヘシ

第十五條　本公債ノ利子支拂ハ毎年二回ニ分チ其ノ前六月分ヲ支拂フ但シ發行ノトキハ拂込ノ日ヨリ償還ノトキハ償還ノ前日迄日割ヲ以テ計算ス

第十六條　償還ノ期日ヲ定メテ公告シタル公債ノ元金ニハ該期日以後利子ヲ附セス

第十七條　本公債ノ消滅時效ハ元金ニ在リテハ其ノ償還期日以後十年、利子ニ在リテハ其ノ支拂期日以後五年ヲ以テ完成ス

第十八條　本公債又ハ短期債ハ市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ大藏省預金部又ハ簡易生命保險積立金其ノ他ヨリノ借入金ニ依ルコトヲ得

第三條、第十三條乃至第十六條ノ規定ハ前項ノ借入金ニ之ヲ準用ス

附　則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

説明　市域擴張ニ伴ヒ本市ニ引繼ヲ受ケタル各町村及組合債ノ中ニハ償還方法及其ノ借入先等區々ニシテ且高利ニ屬スルモノアルヲ以テ之等ヲ此際整理スルヲ適當ト認ムルニ依リ公債ヲ發行シ借替償還ヲ爲スモノトシ本案ヲ提出ス

（償還年次表略ス）

## ▽第五回整理公債條例設定ノ件

六月二十日ノ會議ニ於テ左ノ議案ヲ上程、異議ナク即決可決セリ。

第百六十二號

東京市第五回整理公債條例設定ノ件

東京市第五回整理公債條例左ノ通設定スルモノトス

東京市第五回整理公債條例

第一章　總　則

第一條　本公債ハ本市域ニ編入シタル元荏原、豐多摩、北豐島、南足立及南葛飾郡各町村ニ於テ小學校建築及住宅建築費ニ充當シタル利率五分七厘乃至六分ノ借入金ヲ償還整理スル爲之ヲ發行ス

第二條　本公債ハ券面三百九萬三千圓手取額三百九萬三千圓以內トス

第三條　本公債ノ利率ハ一年百分ノ五・五以內トス

第四條　本公債發行額、手取額、利率及償還方法竝本公債取扱ニ關スル手續其ノ他必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二章　募　集

第五條　本公債ハ昭和八年度ニ於テ之ヲ募集ス但シ第八條ノ規定ニ依リ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

第六條　本公債ノ發行價格ハ券面百圓ニ付百圓トス

第七條　本公債ノ募集ハ銀行又ハ信託業者ヲシテ引受發行セシムルコトヲ得

第八條　本公債發行ノ時期適當ナラサル時ハ利子年率百分ノ六以內償還期限五年以內ノ短期債ヲ起スコトヲ得

前項ノ短期債ハ本公債募集金其ノ他ノ收入ヲ以テ償還スルモノトス

短期債ヲ起ス場合ト雖別表ノ償還年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス

第一項ノ短期債ヲ起スニ付必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第三章　證　券

第九條　本公債ニ對シテ發行スル證券ハ無記名利札附トス

第十條　本公債ノ證券又ハ利札ヲ紛失、滅失若ハ汚損シタル者ハ其ノ種類、記號及番號等ヲ明示シテ新證券又ハ新利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十一條　證券又ハ利札滅失ノ證跡明確ナルトキ及汚損シタルモノニ對シテハ直ニ其ノ證券又ハ利札ニ相當スル新證券又ハ新利札ヲ交付ス

證券又ハ利札滅失ノ證跡明確ナラサルトキ及紛失ノ場合ニ於テハ公示催告手續ニ依リ除權判決アリタルトキニ限リ新證券又ハ新利札ヲ交付ス前項ノ場合ニ於テハ新證券又ハ新利札ノ交付ニ至ル迄ノ間其ノ元利金ノ支拂ヲ停止シ新證券又ハ新利札ヲ發行シタルトキハ前ノ證券又ハ利札ハ之ヲ無效トス

第十二條　新證券又ハ新利札ノ請求及交付ニ要スル費用ハ請求者ノ負擔トス

第十一條第二項ニ依リ新證券又ハ新利札交付ノ場合ニ於テハ請求者ヲシテ其ノ交付ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ヲ負擔スル旨ヲ約セシメ且ツ市長ノ相當ト認ムル擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ立テシムルコトヲ得

## 第四章　償還及支拂

第十三條　本公債ノ元金及利子ハ一般歳入ヲ以テ之ヲ支拂フ

第十四條　本公債ノ元金ハ昭和八年度以降昭和二十二年度迄ノ間ニ券面額ヲ以テ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ若ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

一部償還ハ抽籤ノ方法ニ依ル但シ買入銷却ヲ爲スコトアルヘシ

第十五條　本公債ノ利子支拂ハ毎年二回ニ分チ其ノ前六月分ヲ支拂フ但シ發行ノトキハ拂込ノ日ヨリ償還ノトキハ償還ノ前日迄日割ヲ以テ計算ス

第十六條　償還ノ期日ヲ定メテ公告シタル公債ノ元金ニハ該期日以後利子ヲ附セス

第十七條　本公債ノ消滅時效ハ元金ニ在リテハ其ノ償還期日以後十年、利子ニ在リテハ其ノ支拂期日以後五年ヲ以テ完成ス

第十八條　本公債又ハ短期債ハ市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ大藏省預金部又ハ簡易生命保險積立金其ノ他ヨリノ借入金ニ依ルコトヲ得

第三條、第八條、第十三條乃至第十六條ノ規定ハ前項ノ借入金ニ之ヲ準用ス

### 附則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

説明　市域擴張ニ伴ヒ本市ニ引繼ヲ受ケタル各町村及組合債中六分二厘以上ノ高利ノモノハ巽ニ議決ヲ經借替整理シタルモ更ニ五分七厘以上ノモノヲ此際低利ニ借替整理スルヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス。
（償還年次表略ス）

## ▽第六回整理公債條例中改正ノ件

左記議案ハ十月二十日ノ會議ニ上程、是レ亦異議ナク即決可決セリ。

第二百四十號

東京市第六回整理公債條例中改正ノ件

東京市第六回整理公債條例中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第二條中「券面五百八萬千百圓手取額五百八萬千百圓」ヲ「券面四百八十六萬八千圓以内手取額四百八十四萬三千七百圓以内」ニ改ム

昭和年間　第參章　昭和八年　第拾節　整理公債條例設定及改正

第三條中「百分ノ五」ヲ「百分ノ四・五」ニ改ム

第六條中「百圓ニ付百圓」ヲ「百圓ニ付九十九圓五十錢」ニ改ム

說明　本市小學校建設費資金ニ充當シタル年六分利附公債ノ低利借替實行ニ當リ發行條件等ニ變更ヲ來シタルヲ以ヲ本案ヲ提出ス

（償還年次表略ス）

（參照）

市參事會第百七十八號

東京市第六回整理公債條例設定ノ件

（昭和八年七月二十六日東京市參事會議決）

東京市第六回整理公債條例左ノ通設定スルモノトス

## 東京市第六回整理公債條例

### 第一章　總則

第一條　本公債ハ六分利附第二回教育公債、小學校震災復舊費借替借入金、小學校建設費借入金及五分利附小學校建設費短期債ヲ償還整理スル爲之ヲ發行ス

第二條　本公債ハ券面五百八萬千百圓手取額五百八萬千百圓トス

第三條　本公債ノ利率ハ一年百分ノ五トス

第四條　本公債發行額、手取額、利率及償還方法竝本公債取扱ニ關スル手續其ノ他必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

### 第二章　募集

第五條　本公債ハ昭和八年度ニ於テ之ヲ募集ス

第六條　本公債ノ發行價格ハ券面百圓ニ付百圓トス

第七條　本公債ノ募集ハ銀行又ハ信託業者ヲシテ引受募集セシムルコトヲ得

### 第三章　證券

第八條　本公債ニ對シテ發行スル證券ハ無記名利札附トス

第九條　本公債ノ證券又ハ利札ヲ紛失、滅失、若ハ汚損シタル者ハ其ノ種類、記號及番號等ヲ明示シテ新證券又ハ新利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十條　證券又ハ利札滅失ノ證跡明確ナルトキ及汚損シタルモノニ對シテハ直ニ其ノ證券又ハ利札ニ相當スル新證券又ハ新利札ヲ交付ス

證券又ハ利札滅失ノ證跡明確ナラサルトキ及紛失ノ場合ニ於テハ公示催告手續ニ依リ除權判決アリタルトキニ限リ新證券又ハ新利札ヲ交付ス

前項ノ場合ニ於テハ新證券又ハ新利札ノ交付ニ至ル迄ノ間其ノ元利金ノ支拂ヲ停止シ新證券又ハ新利札ヲ發行シタルトキハ前ノ證券又ハ利札ハ之ヲ無效トス

第十一條　新證券又ハ新利札ノ請求及交付ニ要スル費用ハ請求者ノ負擔トス

第十條第二項ニ依リ新證券又ハ新利札交付ノ場合ニ於テハ請求者ヲシテ其ノ交付ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ヲ負擔スル旨ヲ約セシメ且ツ市長ノ相當ト認ムル擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ立テシムルコトヲ得

### 第四章　償還及支拂

第十二條　本公債ノ元金及利子ハ一般歳入ヲ以テ之ヲ支拂フ

第十三條　本公債ノ元金ハ昭和八年度以降昭和二十八年度迄ノ間ニ券面額ヲ以テ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ若ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

一部償還ハ抽籤ノ方法ニ依ル但シ買入銷却ヲ爲スコトアルヘシ

第十四條　本公債ノ利子支拂ハ毎年二回ニ分チ其ノ前六月分ヲ支拂フ但シ發行ノトキハ拂込ノ日ヨリ償還ノトキハ償還ノ前日迄日割ヲ以テ計算ス

第十五條　償還ノ期日ヲ定メテ公告シタル公債ノ元金ニハ該期日以後利子ヲ附セス

第十六條　本公債ノ消滅時效ハ元金ニ在リテハ其ノ償還期日以後十年、利子ニ在リテハ其ノ支拂期日以後五年ヲ以テ完成ス

第十七條　本公債ハ市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ大藏省預金部又ハ簡易生命保險積立金其ノ他ヨリノ借入金ニ依ルコトヲ得

第三條、第十二條乃至第十五條ノ規定ハ前項ノ借入金ニ之ヲ準用ス

### 附則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

說明

昭和年間　第參章　昭和八年　第拾節　整理公債條例設定及改正

遞信省簡易生命保險積立金ヨリ融資ヲ受ケタル六分利附本市第二回教育公債及小學校建設費竝預金部ヨリノ同短期債ヲ五分ノ低利債ニ借替整理ヲ爲ス爲急施ヲ要スルヲ以テ市制第九十一條第一項ニ依リ本案ヲ提出ス

（參考）

市制第九十一條第一項

市會成立セサルトキ、第五十二條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ市長ニ於テ市會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ市長ハ市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ市參事會ノ議決ニ付スルコトヲ得

（償還年次表略ス）

## 第拾壹節　上水道事業

**▽井荻水道敷設費起債ニ關スル件中更正ノ件**　左記議案ハ一月二十五日ノ會議ニ於テ、異議ナク可決セリ。

第十三號

東京市井荻水道敷設費起債ニ關スル件中更正ノ件

昭和七年九月二十九日第百六十一號市會議決ニ依ル東京市井荻水道敷設費起債ニ關スル件中起債金額竝起債ノ目的ヲ左ノ通更正シ償還年次表ヲ別紙ノ通更正スルモノトス

一　起債金額　二十八萬四千六百圓

二　起債ノ目的　井荻水道敷設費竝借入金償還資源ニ充當

說明　市域擴張ニ伴ヒ井荻水道敷設工事ノ續行ヲ要スル九萬四千三百圓ニ付テハ曩ニ議決ヲ經タル處引繼ノ實情ニ鑑ミ工事ノ追加四萬圓及元井荻町ニ於テ水道敷設事業資金ニ付テ長期債發行ノ運ヒニ至ラサリシ爲一時借入金ヲ以テ充當シタルモノ十五萬三百圓アルヲ以テ之カ償還資源トヲ併セ起債ニ需メンカ爲起債金額等ヲ更正スルノ必要アルニ依リ本案ヲ提出ス。

（償還年次表略ス）

**▽第二回水道整理公債條例設定ノ件**　左記議案モ一月二十五日ノ會議ニ於テ、原案通可決セリ。

第十四號

東京市第二回水道整理公債條例設定ノ件

東京市第二回水道整理公債條例左ノ通設定スルモノトス

東京市第二回水道整理公債條例

### 第一章　總則

第一條　本公債ハ本市域ニ編入シタル元豐多摩郡內澁谷外四箇町、元江戸川上水町村組合及元荒玉上水道町村組合ニ於ケル水道事業費ニ充當シタル利率六分二厘以上ノ借入金ノ償還整理竝元江戸川上水町村組合ニ於ケル水道事業短期債ノ償還資源ニ充ツル爲之ヲ發行ス

第二條　本公債ハ券面八百四十萬七千四百圓手取額八百四十萬七千四百圓トス

第三條　本公債ノ利率ハ一年百分ノ六以內トス

第四條　本公債發行額、手取額、利率及償還方法竝本公債取扱ニ關スル手續其ノ他必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

### 第二章　募集

第五條　本公債ハ昭和七年度ニ於テ之ヲ募集ス但シ第八條ノ規定ニ依リ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

第六條　本公債ノ發行價格ハ券面百圓ニ付百圓トス

第七條　本公債ノ募集ハ銀行又ハ信託業者ヲシテ引受發行セシムルコトヲ得

第八條　本公債發行ノ時期適當ナラサルトキハ利子年率百分ノ六以内償還期限五年以内ノ短期債ヲ起スコトヲ得

前項ノ短期債ハ本公債募集金其ノ他ノ收入ヲ以テ償還スルモノトス

短期債ヲ起ス場合ト雖別表ノ償還年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス

第一項ノ短期債ヲ起スニ付必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

## 第三章　證券

第九條　本公債ニ對シテ發行スル證券ハ無記名利札附トス

第十條　本公債ハ證券又ハ利札ヲ紛失、滅失若ハ汚損シタル者ハ其ノ種類、記號及番號等ヲ明示シテ新證券又ハ新利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十一條　證券又ハ利札滅失ノ證跡明確ナルトキ及汚損シタルモノニ對シテハ直ニ其ノ證券又ハ利札ニ相當スル新證券又ハ新利札ヲ交付ス

證券又ハ利札滅失ノ證跡明確ナラサルトキ及紛失ノ場合ニ於テハ公示催告手續ニ依リ除權判決アリタルトキニ限リ新證券又ハ新利札ヲ交付ス

前項ノ場合ニ於テハ新證券又ハ新利札ノ交付ニ至ル迄ノ間其ノ元利金ノ支拂ヲ停止シ新證券又ハ新利札ヲ發行シタルトキハ前ノ證券又ハ利札ハ之ヲ無效トス

第十二條　新證券又ハ新利札ノ請求及交付ニ要スル費用ハ請求者ノ負擔トス



第十一條第二項ニ依リ新證券又ハ新利札交付ノ場合ニ於テハ請求者ヲシテ其ノ交付ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ヲ負擔スル旨ヲ約セシメ且ツ市長ノ相當ト認ムル擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ立テシムルコトヲ得

## 第四章　償還及支拂

第十三條　本公債ノ元金及利子ハ水道事業收入及一般歳入ヲ以テ之ヲ支拂フ

第十四條　本公債ノ元金ハ昭和八年度以降昭和二十五年度迄ノ間ニ券面額ヲ以テ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ若ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

一部償還ハ抽籤ノ方法ニ依ル但シ買入銷却ヲ爲スコトアルヘシ

第十五條　本公債ノ利子支拂ハ毎年二回ニ分チ其ノ前六月分ヲ支拂フ但シ發行ノトキハ拂込ノ日ヨリ償還ノトキハ償還ノ前日迄日割ヲ以テ計算ス

第十六條　償還ノ期日ヲ定メテ公告シタル公債ノ元金ニハ該期日以後利子ヲ附セス

第十七條　本公債ノ消滅時效ハ元金ニ在リテハ其ノ償還期日以後十年、利子ニ在リテハ其ノ支拂期日以後五年ヲ以テ完成ス

第十八條　本公債ハ市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ大藏省預金部又ハ簡易生命保險積立金其ノ他ヨリノ借入金ニ依ルコトヲ得

第三條、第十三條乃至第十六條ノ規定ハ前項ノ借入金ニ之ヲ準用ス

## 附則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和年間　第參章　昭和八年　第拾壹節　上水道事業

說明　市域擴張ニ伴ヒ本市ニ引繼ヲ受ケタル各町村及組合債ノ中ニハ償還方法及其ノ借入先等區々ニシテ且ツ高利ニ屬スルモノアルヲ以テ之等ヲ此際整理スルヲ適當ト認ムルト、元江戸川上水町村組合ニ於ケル水道事業短期債ノ償還期到來セルトニ依リ之カ償還資源ヲ公債ニ需ムルモノトシ本案ヲ提出ス

（償還年次表略ス）

## ▽東京市都市計畫細道路網並水道擴張促進ニ關スル建議

本章第拾六節道路事業ノ部ニ揭ゲタリ。

## ▽水道鐵管敷設費繼續年期及支出方法

左記議案ハ三月八日ノ會議ニ於テ、異議ナク即決可決セリ。

第八十六號

自昭和八年度至昭和十年度東京市水道鐵管敷設費繼續年期及支出方法

一金參百八拾七萬圓

內譯

| | | |
|---|---|---|
| 金百六拾六萬八千圓 | 昭和八年度支出額 | 水道鐵管敷設費 |
| 金百四拾參萬千圓 | 昭和九年度支出額 | |
| 金七拾七萬圓 | 昭和十年度支出額 | |

說明　本事業ハ市域擴張ニ伴ヒ給水ノ普及竝圓滑ヲ期スル爲メ水道鐵管增設及連絡工事ヲ施行スルノ必要アルヲ以テ之ヲ失業救濟事業トシテ施行スルヲ適當ト認メ三箇年繼續事業トシテ本費ヲ計上スルモノトス

（支出計算表及計算說明表略ス）

（參考）

水道鐵管敷設計畫

一　事業計畫概要

（イ）東部水道鐵管新設

江戸川水道ノ餘剩水量ヲ利用シ給水ノ普及ヲ計ル爲メ足立、葛飾、江戸川三區內入口集團地ニ對シ內徑一〇〇粍乃至三五〇粍鐵管延長一七三、三一五米ヲ新設スルモノトシ三箇年繼續事業ヲ以テ施行スルモノトス

（ロ）連絡鐵管增設

現在本市ノ水道ハ舊市水道及江戸川、荒玉、澁谷、目黑、代々幡、井荻各水道ノ七系統ニ分岐シ相互ノ連絡ヲ缺ケルヲ以テ之ヲ一系統ニ統合シテ給水ノ圓滑ヲ期セムトシ二箇年繼續事業ヲ以テ延長一四、一〇六米ノ連絡鐵管ヲ增設スルモノトス

（ハ）澁谷、目黑區方面鐵管增設

市域編入前元澁谷町及目黑町ハ町勢ノ異常ナル發展ニ伴ヒ夫々擴張計畫（事業費　元澁谷町一、七四〇、六五〇圓　元目黑町六八〇、一〇六圓）ヲ樹テ各町會ノ議決ヲ經テ主務省ノ認可申請中ニ屬シタルモノニシテ之カ實現ヲ圖ルヲ適當ト認ムルニ依リ內徑一〇〇粍乃至三五〇粍延長五七、一五八米ノ鐵管ヲ敷設スルモノトシ二箇年繼續事業トシテ施行スルモノトス

二　經理方法

本費ノ財源ハ失業救濟事業國庫補助金六二八、五〇〇圓（勞力費ノ二分ノ一）ヲ除キタル金三、二四一、五〇〇圓ヲ市債ニ需メ之カ償還資源ハ本事業收入ヲ以テ充ツルモノトス

| 種別 | | 昭和八年度 | 昭和九年度 | 昭和十年度 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業費 | | 一、六六八、〇〇〇円 | 一、四三一、〇〇〇円 | 七七一、〇〇〇円 | 三、八七〇、〇〇〇円 |
| 財源 | 國庫補助金 | 二六〇、〇〇〇 | 二三九、六〇〇 | 一二八、九〇〇 | 六二八、五〇〇 |
| | 借入金 | 一、四〇八、〇〇〇 | 一、一九一、四〇〇 | 六四二、一〇〇 | 三、二四一、五〇〇 |

## ▽水道鐵管敷設費起債ニ關スル件

前項記載ノ第八十六號議案ニ關聯セル左議議案ハ、第八十六號議案可決ト同時ニ即決可決セリ。

昭和年間　第參章　昭和八年　第拾壹節　上水道事業

第八十七號　東京市水道鐵管敷設費起債ニ關スル件

一　起債ノ時期及金額　昭和八年度　百四十萬八千圓
　　昭和九年度　百十九萬千四百圓
　　昭和十年度　六十四萬二千百圓
　　計　三百二十四萬千五百圓
　　但シ各年度起債未濟額ハ翌年度ニ繰越起債スルコトヲ得
　　短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス
二　起債ノ目的　失業救濟事業トシテ施行スル水道鐵管敷設費ニ充當
三　利率　年三分二厘
四　起債ノ方法　大藏省預金部其ノ他ヨリ借入
　　本起債ノ時期適當ナラサルトキハ利子年率六分以内償還期限五年以内ノ短期債ヲ起スコトヲ得
　　前項ノ短期債ハ本借入金及其ノ他收入ヲ以テ之ヲ償還ス
　　短期債ヲ起ス場合ト雖別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス
　　第二項ノ短期債ヲ起スニ付必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム



五　償還ノ期間及方法　別紙償還年次表ノ如ク借入ノ年度ヨリ五年度据置爾後十五年度間ニ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得
六　元利支拂資源　水道事業收入及一般歳入
七　借入ノ爲ニ發行スル債券　借入ノ爲ニ證券交付ノ要アルトキハ適宜券面額ヲ定メ一種若ハ數種ノ市債券ヲ發行スルモノトス

說明　第八十六號議案（前項參照）ニ伴ヒ水道鐵管敷設事業資金ヲ借入金ニ需ムルモノトシ本案ヲ提出ス
（償還年次表略ス）

▽**上水道擴張促進ニ關スル建議**　左記建議ハ六月七日ノ會議ニ上程、議員提出案審査委員長報告通可決セリ。

報告書

一　上水道擴張促進ニ關スル建議案　（朝倉虎治郎君外四十三名提出）

右ハ市會ニ於テ可決スヘキモノト議決致候條此段報告候也

昭和八年五月二十九日　議員提出案審査委員長　安部利七

東京市會議長森俊成殿

上水道擴張促進ニ關スル建議

右提出候也

昭和八年五月八日

提出者

朝倉虎治郎　内田秀五郎　鏑木由七郎
田中源一　又安平　石原永明
吉田四郎平　伊藤仁太郎　小池長太郎
高橋德三郎　箱田市藏　綾井樹
瀧澤龍太郎　河野惣八　萩島茂留
鏑木小平次　鈴木義顯　篠房輔
安藤德雄　島田文治　宇田川啓輔
有馬秀雄　林　小宮次郎七
山口久太郎　桑原信助　廣川弘
小川紋太郎　田仲忠左衛門　大野菊三
松崎權四郎　島田辰太郎　花村四郎
天野賴義　川手忠義　廣瀨喜之助
酒井熊次郎　佐藤榮志　代田朝義
瀧澤七郎　吉田治郎八　辰野保
倉持忠助　北川榮次郎

東京市會議長森俊成殿

上水道擴張促進ニ關スル建議

本市多年ノ懸案タル帝都大東京ノ實現ヲ見タル今日施設經營スヘキモノ多々アルヘシト雖モ就中上水道ノ擴張普及ハ市民宿望ノ最タルモノナリト信ス曩ニ理事者ハ之カ計畫ヲ樹テ本市東部及南部ニ付テハ本年度ヨリ其ノ工事ニ着手セラルヽ豫定ナリト聞ク洵ニ本市ノ爲慶賀ノ至リニ堪ヘサルトコロナリ然リト雖モ新市域中人口稠密人家櫛比シ需要特ニ切ナルモノアルニ拘ラス之カ惠澤ニ浴セサル區域アリ殊ニ近來頓ニ急激ナル發展ヲ遂ケツヽアル本市西部及北部ニ付テハ未タ何等擴張ノ計畫ナク或ハ計畫アルモ其ノ工事着手ニ至ラサルハ甚タ遺憾ナリ理事者ハ如上ノ點ヲ考察シ實狀ヲ調査ノ上速ニ適當ナル擴張計畫ヲ樹ツルト共ニ既ニ計畫アルモノニ關シテハ之カ實施促進ヲ圖リ昭和八年度ヨリ直チニ上水道擴張工事ニ着手シ以テ市民ノ要望ニ副フ樣萬全ノ努力ヲ拂ハレムコトヲ望ム

右建議ス

## ▽第三回水道整理公債條例設定ノ件

左記議案ハ六月二十日ノ會議ニ於テ、原案通可決セリ。

第百六十三號

東京市第三回水道整理公債條例設定ノ件

東京市第三回水道整理公債條例左ノ通設定スルモノトス

東京市第三回水道整理公債條例

### 第一章　總則

第一條　本公債ハ本市域ニ編入シタル元豐多摩郡内澁谷外二箇町及元荒玉水道町村組合ニ於テ水道事業費ニ充當シタル利率五分八厘乃至六分ノ借入金ヲ償還整理スル爲之ヲ發行ス

第二條　本公債ハ券面四百三十三萬七千八百圓手取額四百三十三萬七千八百圓トス

第三條　本公債ノ利率ハ一年百分ノ五・五以内トス

第四條　本公債發行額、手取額、利率及償還方法竝本公債取扱ニ關スル手續其ノ他必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

## 第二章　募集

第五條　本公債ハ昭和八年度ニ於テ之ヲ募集ス但シ第八條ノ規定ニ依リ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

第六條　本公債ノ發行價格ハ券面百圓ニ付百圓トス

第七條　本公債ノ募集ハ銀行又ハ信託業者ヲシテ引受發行セシムルコトヲ得

第八條　本公債發行ノ時期適當ナラサルトキハ利子年率百分ノ六以内償還期限五年以内ノ短期債ヲ起スコトヲ得

前項ノ短期債ハ本公債募集金其ノ他ノ收入ヲ以テ償還スルモノトス

短期債ヲ起ス場合ト雖別表ノ償還年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス

第一項ノ短期債ヲ起スニ付必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

## 第三章　證券

第九條　本公債ニ對シテ發行スル證券ハ無記名利札附トス

第十條　本公債ノ證券又ハ利札ヲ紛失、滅失若ハ汚損シタル者ハ其ノ種類、記號及番號等ヲ明示シテ新證券又ハ新利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得



第十一條　證券又ハ利札滅失ノ證跡明確ナルトキ及汚損シタルモノニ對シテハ直ニ其ノ證券又ハ利札ニ相當スル新證券又ハ新利札ヲ交付ス

證券又ハ利札滅失ノ證跡明確ナラサルトキ及紛失ノ場合ニ於テハ公示催告手續ニ依リ除權判決アリタルトキニ限リ新證券又ハ新利札ヲ交付ス

前項ノ場合ニ於テハ新證券又ハ新利札ノ交付ニ至ル迄ノ間其ノ元利金ノ支拂ヲ停止シ新證券又ハ新利札ヲ發行シタルトキハ前ノ證券又ハ利札ハ之ヲ無效トス

第十二條　新證券又ハ新利札ノ請求及交付ニ要スル費用ハ請求者ノ負擔トス

第十一條第二項ニ依リ新證券又ハ新利札交付ノ場合ニ於テハ請求者ヲシテ其ノ交付ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ヲ負擔スル旨ヲ約セシメ且ツ市長ノ相當ト認ムル擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ立テシムルコトヲ得

## 第四章　償還及支拂

第十三條　本公債ノ元金及利子ハ水道事業收入及一般歳入ヲ以テ之ヲ支拂フ

第十四條　本公債ノ元金ハ昭和八年度以降昭和二十五年度迄ノ間ニ券面額ヲ以テ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ若ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

一部償還ハ抽籤ノ方法ニ依ル但シ買入銷却ヲ爲スコトアルヘシ

第十五條　本公債ノ利子支拂ハ毎年二回ニ分チ其ノ前六月分ヲ支拂フ但シ發行ノトキハ拂込ノ日ヨリ償還ノトキハ償還ノ前日迄日割ヲ以テ計算ス

第十六條　償還ノ期日ヲ定メテ公告シタル公債ノ元金ニハ該期日以後利子ヲ附セス

第十七條　本公債ノ消滅時效ハ元金ニ在リテハ其ノ償還期日以後十年、利子ニ在リテハ其ノ支拂期日以後五年ヲ以テ完成ス

第十八條　本公債又ハ短期債ハ市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ大藏省預金部又ハ簡易生命保險積立金其ノ他ヨリノ借入金ニ依ルコトヲ得

第三條、第八條、第十三條乃至第十六條ノ規定ハ前項ノ借入金ニ之ヲ準用ス

附則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

説明　市域擴張ニ伴ヒ本市ニ引繼ヲ受ケタル各町村及組合債中六分二厘以上ノ高利ノモノハ曩ニ議決ヲ經借替整理シタルモ更ニ五分八厘以上ノモノヲ此際低利ニ借替整理スルヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス

（償還年次表略ス）

▽**起債額更正**　左記四議案ハ七月二十日ノ會議ニ上程、原案通可決セリ。

第百六十九號

東京市給水栓增設費借入金償還年次表更正ノ件

昭和七年九月二十九日第百五十九號市會議決東京市給水栓增設費借入金償還年次表ヲ別紙ノ通更正スルモノトス

（償還年次表略ス）

説明　本件起債豫定額二百五十萬二千四百圓ノ處二百十七萬四千圓ニ更正許可セラレタルニ因リ償還年次表ヲ更正スルモノトシ本案ヲ提出ス

（參考一）

内務省七東地第三九二號

昭和七年十月十四日財主發第一一七三號稟請起債ノ件左ノ通更正シ許可ス

昭和八年三月三十一日

東京府東京市

内務大臣男爵山本達雄

大藏大臣高橋是清

記

一　起債ノ時期及金額　昭和七年度　四拾六萬參千五百圓

昭和八年度　百七拾壹萬五百圓

計　貳百拾七萬四千圓

但シ工事進捗其ノ他ノ都合ニ依リ右年度内ニ限リ繰下ケ又ハ繰上ケ起債スルコトヲ得

尙短期債ヲ起シタルトキハ前記起債時期ハ該短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

四　起債ノ方法中「本借入金及其ノ他收入」ヲ「別表ニ依ル場合ノ外本借入金」ニ更ム

五　償還ノ期間及方法中「別表償還年次表ノ如ク借入ノ翌年度ヨリ爾後十年度間ニ」ヲ「昭和八年度迄据置キ昭和九年度ヨリ同十八年度ニ至ル十箇年度間ニ別紙償還年次表ノ通」ニ更ム

（參考二）

申地第二九〇二號

昭和八年三月三十一日

東京市長殿

東京府内務部長

起債ノ件通牒

昭和年間　第參章　昭和八年　第拾壹節　上水道事業

客年十月十四日財主發第一一七三號稟請標記ノ件別途更正許可相成候處左記事項御了知ノ上相當措置相成度

記

一　起債額ヲ減セラレタルハ給水工費收入ノ基本額ニ包含セサル量水器檢査費及事業期間中ノ工費收入ニシテ他ノ費途ニ充當セムトスルモノヲ起債額ヨリ控除セラレタルト昭和八年度ヲ据置トスルニ依ル不要償還元金及事業期間中ノ不要利子ヲ事業費ニ充當スルヲ適當ト認メラレタルニ依ルモノナルコト

一　据置期間ヲ延長セラレタルハ之ニ依ル償還不要元金ヲ以テ同年度ノ新起債額ヲ減額スルヲ適當ト認メラレタルニ依ルモノナルコト

一　償還年次更正議決ノ上報告スルコト

第百七十號

東京市井荻水道敷設費借入金償還年次表更正ノ件

昭和八年一月二十五日第十三號市會議決東京市井荻水道敷設費借入金償還年次表ヲ別紙ノ通更正スルモノトス

說明　本件起債豫定額二十八萬四千六百圓ノ處二十七萬八千九百圓ニ更正許可セラレタルニ因リ償還年次表ヲ更正スルモノトシ本案ヲ提出ス

（償還年次表略ス）

（參考一）

內務省東地第六九號

昭和七年十一月二十四日財主發第一三四九號及昭和八年二月六日財主發第二二三號稟請起債ノ件左ノ通更正シ許可ス

昭和八年三月三十一日

東京府東京市

內務大臣男爵山本達雄

記

一　起債金額　金貳拾七萬八千九百圓

（參考二）

申地第三一八一號

昭和八年三月三十一日

東京市長代理助役殿

起債ノ件依命通牒

客年十一月二十四日財主發第一三四九號及本年二月六日財主發第二二三號ヲ以テ稟請相成候標記ノ件別途更正許可相成候處右ハ左記事由ニ依ルモノニ有之候條御了知相成度候

追テ更正ニ依ル償還年次表更正議決ノ上御報告相成度

記

一　起債額ヲ減セラレタルハ工事期間中ノ國庫補助金ヲ事業費ニ充當スルヲ適當ト認メラレタルト舊井荻町ヨリノ引繼現金アリタルトニ依ルモノナルコト

第百七十一號

東京市江戸川水道擴張費借入金償還年次表更正ノ件

昭和七年九月二十九日第百六十號市會議決東京市江戸川水道擴張費借入金償還年次表ヲ別紙ノ通更正スルモノトス

說明　本件起債豫定額百三十二萬九千八百圓ノ處昭和七年度分ノミトシテ七十五萬七千圓ニ更正許可セラレタルニ因リ償還年次

大藏大臣高橋是清

東京府內務部長

表ヲ更正スルモノトシ本案ヲ提出ス

（償還年次表略ス）

（參考一）

内務省東地第四號

昭和七年十一月二十八日財主發第一三六六號稟請起債ノ件左ノ通更正シ許可ス

昭和八年三月三十一日

東京府東京市

内務大臣　男爵山本達雄

大藏大臣　高橋是清

記

一　起債ノ時期及金額　昭和七年度　金七拾五萬七千圓

但シ工事進捗其ノ他ノ都合ニ依リ翌年度ニ繰越起債スルコトヲ得短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

五　償還ノ期間及方法中「借入ノ年度」ヲ「借入所屬年度」ニ更ム

（參考二）

申地第三一九五號

昭和八年三月三十一日

東京市長殿

東京府内務部長

起債ノ件通牒

客年十一月二十八日財主發第一三六六號稟請標記ノ件別途更正許可相成候處右ハ差當リ本年度分ノミヲ詮議セラレタルト元江戸川上水町村組合ヨリ引繼現金アリタルニ依リ減額セラレタル儀ニ有之候條御了知相成度

追而償還年次表更正議決ノ上報告相成度



第百七十三號

東京市水道鐵管工事竝導水路改築事業費借入金償還年次表更正ノ件

昭和七年三月三十一日第十號市會議決東京市水道鐵管工事竝導水路改築事業費借入金償還年次表ヲ別紙ノ通更正スルモノトス

説明　本件起債豫定額百八十六萬八千四百圓ノ處昭和七年度分ノミトシ百二十五萬四千五百圓ニ更正許可セラレタルニ因リ償還年次表ヲ更正スルモノトシ本案ヲ提出ス

（償還年次表略ス）

（參考一）

内務省七東地第一〇二號

昭和七年四月十二日財主發第四六三號稟請起債ノ件左ノ通更正シ許可ス

昭和八年三月三十一日

東京府東京市

内務大臣　男爵山本達雄

大藏大臣　高橋是清

記

一　起債ノ時期及金額　昭和七年度　百貳拾五萬四千五百圓

但シ工事進捗其ノ他ノ都合ニ依リ一部ヲ翌年度ニ繰越借入スルコトヲ得

三　利率　年三分二厘

昭和年間　第參章　昭和八年　第拾壱節　上水道事業

（參考二）

申地第一、一二二號

昭和八年三月三十一日

東京市長代理助役殿

東京府內務部長

起債ノ件通牒

客年四月十二日財主發第四六三號ヲ以テ稟請相成候標記ノ件別途更正許可相成候處右ハ差當リ昭和七年度分ノミニ詮議セラレタル義ニ有之候條左記事項御了知ノ上相當措置相成度

追而更正ニ依ル償還年次表議決ノ上報告相成度

一　起債額ヲ減セラレタルハ國庫補助金增額交付セラルヽニ依ルコト尙右以上增額交付セラレタル場合ハ起債ノ減額又ハ繰上ケ償還ノ資ニ充當スルコト

## ▽江戸川水道擴張費起債ニ關スル件

第百七十二號

左記議案モ七月二十日ノ會議ニ於テ、原案通可決セリ。

東京市江戸川水道擴張費起債ニ關スル件

一　起債金額　四十二萬七百圓

二　起債ノ目的　江戸川水道擴張費ニ充當

三　利率　年六分以內

四　起債ノ方法　大藏省預金部其ノ他ヨリ借入

本起債ノ時期適當ナラサルトキハ利子年率六分以內償還期限五年以內ノ短期債ヲ起スコトヲ得

前項ノ短期債ハ本借入金及其ノ他收入ヲ以テ之ヲ償還ス

短期債ヲ起ス場合ト雖別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得

第二項ノ短期債ヲ起スニ付必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

五　起債ノ時期　昭和八年度但シ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

六　償還ノ期間及方法　別紙償還年次表ノ如ク借入ノ年度ヨリ五年度据置爾後十五年度間ニ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

七　元利支拂資源　水道事業收入及一般歲入

八　借入ノ爲ニ發行スル債券　借入ノ爲ニ證券交付ノ要アルトキハ適宜券面額ヲ定メ一種若ハ數種ノ市債券ヲ發行スルモノトス

說明　昭和七年第百六十號市會議決ニ基ク江戸川水道擴張費ノ財源ハ借入金ニ需ムルモノトシ曩ニ議決ヲ得タル處政府ニ於テ一應昭和七年度分ノミトシテ更正許可アリタル爲更ニ昭和八年度ノ事業費財源ヲ借入金ニ需ムルモノトシ本案ヲ提出ス（前項記載ノ第百七十一號議案參照）

（償還年次表略ス）

## ▽導水路改築事業費起債ニ關スル件

左記議案モ前項記載ノ第七十二號議案ト共ニ、七月二十日ノ會議ニ於テ、原案通可決セリ。

第百七十四號

昭和年間　第參章　昭和八年　第拾壹節　上水道事業

東京市導水路改築事業費起債ニ關スル件

一　起債金額　六十一萬二千五百圓

二　起債ノ目的　失業救濟事業トシテ施行スル導水路改築事業費ニ充當

三　利率　年三分二厘

四　起債ノ方法　大藏省預金部其ノ他

本起債ノ時期適當ナラサルトキハ利子年率六分以内償還期限五年以内ノ短期債ヲ起スコトヲ得

前項ノ短期債ハ本借入金及其ノ他收入ヲ以テ償還ス

短期債ヲ起ス場合ト雖別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス

第二項ノ短期債ヲ起スニ付必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

五　起債ノ時期　昭和八年度但シ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

六　償還ノ期間及方法　別紙償還年次表ノ如ク借入ノ年度ヨリ五年度据置爾後十五年度間ニ償還ス但シ市財政ノ都合ニヨリ繰上償還ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

七　元利支拂資源　土地賣拂代及水道事業一般歳入

八　借入ノ爲ニ發行スル債券　借入ノ爲ニ證券交付ノ要アルトキハ適宜券面額ヲ定メ一種若ハ數種ノ市債券ヲ發行スルモノトス



説明　昭和七年三月三十一日第十號議決ニ基ク水道鐵管移轉竝增設及導水路改築事業費ノ財源ハ之ヲ借入金ニ需ムルモノトシ曩ニ議決ヲ經タル處政府ニ於テ一應昭和七年度分ノミトシテ更正許可アリタル爲更ニ昭和八年度ノ事業費財源ヲ借入金ニ需ムルモノトシ本案ヲ提出ス（前項第百七十三號議案參照）

## ▽水道使用條例中改正ノ件

第百九十號　左記議案ハ七月二十日ノ會議ニ上程、異議ナク可決セリ。

東京市水道使用條例中改正ノ件

東京市水道使用條例中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第三條第二號中(ロ)及(ハ)ヲ左ノ如ク改ム

(ロ)　汽罐、船舶及自動車用

(ハ)　撒水又ハ道路若ハ下水洗滌用

第二十五條第一項第二號中「同(ロ)十一錢」ノ下ニ「(但シ自用自動車ハ二十錢)」ヲ加ヘ「同(ハ)二十錢」ノ下「(但シ自用自動車ハ三十錢)」ヲ削ル

説明　現行自動車洗滌用水道料金ハ近時市民ノ自動車利用ノ狀況ニ鑑ミ稍高率ノ嫌アルヲ以テ之ヲ改正スルヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス

（參照）

東京市水道使用條例抄錄

第三條　給水裝置ヲ左ノ四種ニ分ツ

一　專用栓　一戸又ハ一箇所ノ用ニ供スルモノ

二　特別栓　左ノ用ニ供スルモノ

(イ)　釀造又ハ製造原料用

昭和年間　第參章　昭和八年　第拾壹節　上水道事業

(ロ) 汽罐用、船舶用
(ハ) 撒水並道路、下水及自動車ノ洗滌用
(ニ) 原動力其他水壓ヲ利用スルモノ
(ホ) 工事其ノ他一時用
(ヘ) 噴水、瀧、泉池及庭園用
(ト) 前各號ノ外本市ニ於テ特別栓ニ據リ使用セシムル必用アリト認メタルモノ

三 共用栓　三戸以上ノ共用若ハ公衆ノ用ニ供スルモノ

四 消火栓　防火用ニ供スルモノ

第二十五條　使用料ハ左ノ區別ニ據ル

一 專用栓

(一) 基本料金　一月十立方メートル迄ハ左ノ通トス

| | 量水器口徑（單位ミリメートル）又ハ給水管 | 基本料金 |
|---|---|---|
| (イ) | 十二又ハ十三 | 九十三錢 |
| (ロ) | 十六 | 一圓十五錢 |
| (ハ) | 二十 | 一圓二十錢 |
| (ニ) | 二十五 | 一圓五十錢 |
| (ホ) | 三十 | 一圓七十錢 |
| (ヘ) | 四十 | 一圓八十錢 |
| (ト) | 五十 | 二圓二十錢 |
| (チ) | 七十五又ハ八十 | 三圓二十五錢 |
| (リ) | 百 | 四圓四十錢 |
| (ヌ) | 百五十 | 六圓三十五錢 |
| (ル) | 二百 | 八圓八十錢 |
| (ヲ) | 二百五十 | 十一圓三十五錢 |
| (ワ) | 三百 | 十五圓二十錢 |

(二) 超過料金　一立方メートルヲ增ス毎ニ左ノ通トス

湯屋營業　三錢八厘

延三百坪以上ノ住宅及延五百坪以上ノ家屋（學校、兵營、病院、集合住宅、市場、工場、神社、寺院、教會其ノ他之ニ類スルモノヲ除ク）　九錢

其ノ他　七錢

二 特別栓

(一) 基本料金　一月二立方メートル迄ハ前號ノ基本料金ヲ準用ス

(二) 超過料金　一立方メートルヲ增ス毎ニ左ノ通トス

第三條第二號

| | | |
|---|---|---|
| (イ) | 十 | 錢 |
| 同 | 十一 | 錢 |
| 同 | 二十 | 錢（但シ自用自動車ハ三十錢） |
| 同 | 三十 | 錢 |
| 同 | 四十 | 錢 |
| 同 | 特別栓中類似シタルモノノ料金ヲ參酌シテ其ノ使用料ヲ認定ス | |

三 共用栓

(一) 基本料金　一月一戸當六立方メートル迄ハ左ノ通トス

十戸迄ハ一戸ニ付四十錢トシ十一戸以上ハ一戸ヲ增ス毎ニ二十錢ヲ遞加ス、但シ居住家屋ノ延坪十二坪以上二十坪未滿ノモノハ一月八立方メートル迄ハ一戸ニ付五十錢、二十坪以上ノモノハ一月十立方メートル迄ハ一戸ニ付九十三錢トシ本文戸數ニ算入セス

(二) 超過料金　一立方メートルヲ增ス毎ニ四錢トス

(三) 公衆用共用栓ヲ營業又ハ職業用ニ使用スル者ハ鑑札一個一月四十錢トス

四　私設消火栓

(一)　量水器ノ裝置ナキ私設消火栓　一月ニ付第一項第一號基本料金ノ半額

(二)　演習料　一立方メートル迄毎ニ十錢

共用栓ヲ天災地變ノ爲又ハ衞生上臨時他ニ使用セシメタル月ニ限リ在來使用者ノ使用料ハ其ノ基本料金ノミヲ徵收ス

專用栓ヲ聯合使用シタルトキハ一戸毎ニ專用栓ノ當該基本料金ヲ徵收ス

一戸又ハ一箇所ニ二個以上ノ給水管ヲ敷設シタルトキハ各管ニ付基本料金ヲ徵收ス

越エテ十月二十日ノ會議ニ於テ、左記議案上程、是レ亦異議ナク即決可決セリ。

第二百三十七號

東京市水道使用條例中改正ノ件

東京市水道使用條例中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第二十一條中「四十五圓ヲ限リ」ヲ削ル

說明　水道普及ノ爲新設給水工費ノ分納金額制限ノ撤廢ヲ爲スヲ相當ト認メ本案ヲ提出ス

（參照）

東京市水道使用條例抄錄

第二十一條　給水裝置ノ新設工費ハ本市ノ承認ヲ受ケ四十五圓ヲ限リ十年以內ニ於テ分納スルコトヲ得

▽**玉川水道株式會社ニ關スル建議**　左記建議ハ七月二十日ノ會議ニ上程、異議ナク議員提出案審査委員長報告通可決セリ。

議員提出案審査委員意見報告

一、玉川水道株式會社ニ關スル建議（仲澤芳朗君外六名提出）（朝倉虎治郎君外三十九名贊成）

委員ハ審査ノ結果原案ヲ可ナリト認メタリ



右報告候也

昭和八年七月四日

東京市會議長森俊成殿

委員長　安部利七

一、玉川水道株式會社ニ關スル建議

右提出候也

昭和八年六月二十日

提出者

仲澤芳朗　酒井熊次郎　山本半藏

松原傳吉　代田朝義　加藤榮助（目黑區選出）

鏑木小平次

贊成者

朝倉虎治郎　外三十九名

東京市會議長森俊成殿

玉川水道株式會社ニ關スル建議

玉川水道株式會社ノ水質ノ不良ト料金ノ高率ハ公知ノ事實ナリ、六十餘萬市民救濟ノ目的ヲ以テ一日モ早ク適當ノ處置ヲ講セラレンコトヲ望ム

右建議ス

**▽本市水道事業ノ統制及ビ小河内貯水池堰堤地質調査ニ關スル質疑應答**　十月二十七日ノ會議ニ於テ、**仲澤芳朗君**ハ市理事者ニ問ウテ曰ク、本市水道第二期計畫ニ關スル起債ハ未ダ認可ナク、事業ハ爲ニ勢ヒ遲延スベシ、然ルニ本市ノ人口ハ漸次增加シテ、既ニ五百五十萬人ニ達ストハ過日市長ノ言明セル所ナリ、此ノ增加人口ニ對シ、水道局現在ノ給水計畫ニテ差支ヘヲ生ズル事ナキヤ否ヤ。尙ホ右ニ關聯シタル事柄ナルガ、舊荏原郡十九箇町村在住ノ市民ハ頗ル高價ナル飲料水ノ供給ヲ受ケ居ルノミナラズ、本年ノ如キハ時々多量ノ「クロール」ヲ含有セル水ヲ飲マシメラレツヽアリ、即チ同ジ東京市民ナルニ拘ラズ、一方ニ純良ナル飲料水ヲ廉價ニ供給サレ居リ、他方城南六區ノ市民ハ不良ナル飲料水ヲ高價ニ供給サレ居ルガ如キ、斯ル差別待遇ヲ受クルハ市民トシテ默過スル能ハズ、過般本會ガ玉川水道會社ニ對シテ市理事者ノ善處ヲ要求シタル建議案ヲ、滿場一致ニテ可決シタルガ、右ニ對シ市理事者ハ其後如何ナル善處案ヲ得タリヤト。此ノ質問ニ對シ第三助役**鷲尾弘準君**答ヘテ曰ク、第一、水道擴張計畫ニ關スル起債認可ハ豫定ヨリ若干遲レ居ルモ、相當年月ヲ要スル事業ナルヲ以テ、許可アリ次第工事ヲ急ガバ、將來ノ給水上ニ支障ナカラシメ得ベシト考フ。第二、水道事業ノ公營ハ法制上認ムル原則ナリ、然リ而シテ市民ノ保健衞生上善良ノ飲料水ヲ市民ニ低廉ニ供給スルハ、市理事者トシテ爲スベキ當然ノ措置ナリト考フ、仍テ市理事者ハ民營ノ水道事業ヲ市ノ統制ニ移シ、全市民ニ同一飲料水ヲ同一條件ノ下ニ供給スル方針ニテ、目下事務當局ヲシテ市ノ統制ニ移スベキ順序方法等ヲ研究セシメ居レリト。

次デ十二月二十七日ノ會議ニ於テ**中村又一君**ハ、牛塚氏ハ市長就任以來既ニ五箇月有餘ヲ閲スルモ、市政ノ前途ニ對シ、吾々ガ期待セル抱負經綸ノ片鱗ダニ未ダ之ヲ示サヾルノミナラズ、市廳舍問題ト云ヒ、電氣事業更生問題ト云ヒ、又最近ニ於ケル教育疑獄問題ト云ヒ、何レモ一人ノ責任ヲ負フ者スラナキハ、自治ノ本義ト本市ノ面目上洵ニ遺憾ニ堪ヘズ、元來市政ニ對スル市長ノ識見ト云ヒ、態度ト云ヒ、非常時ニ於ケル東京市ノ市長トシテ、其職責ヲ完ウシ得ル能力アリト考フル能ハザルハ、市民ノ齊シク痛恨事ト爲ス所ナリ、小河内貯水池堰堤問題ノ如キモ、水道事業調査委員會ノ精査ト市ノ當事者トガ綿密ナル調査研究ノ末、鉅額ノ費用ト尠カラザル日數トヲ費シ、幾多ノ候補地中ヨリ多摩川上流ノ山間部ニ其位置ヲ選定シ、工費參千九百拾萬圓ヲ計上セル豫算マデ決定シタルニ拘ラズ、幾許モナクシテ堰堤ノ位置ヲ約二「キロ」下流ニ變更セリ、其表面ノ理由ハ內務省ノ命令ナリト云フト雖モ、公平ナル市民ガ其裏面ニ「ボス」ノ力ノ動ケル結果ナリト猜スルモ、理事者ハ辯解ノ辭ナカルベシト考フ。何トナレバ二「キロ」下流ニ築造スベキ堰堤ヲ其上流ニ築造セバ、五百萬圓乃至壹千萬圓ノ費用ヲ節シ得ルノミナラズ、上流ト下流トノ中間ニ部落アリ、且ツ十數町ニ亘ル大山林アリ、是等山林ト部落民ノ生活ト、更ニ鉅額ノ費用トヲ犧牲ニセザルベカラズ、然ルニ此ノ犧牲ヲ拂フモ尙ホ且堰堤ノ位置ヲ變更セザルベカラザル理由何處ニカアル。殊ニ二「キロ」下流ノ堰堤變更箇所ハ、多摩川水力電氣ノ取入口ニシテ、此處ニ其位置ヲ變更セントスルハ、洵ニ不可思議千萬ナリ、此ハ本市ノ電力自給策ニ對スル計畫上ニ重大關係ヲ有ス。既ニ本市ノ財政計畫上重大關係ヲ有スル本問題ニ關シ、內務省ノ一屬吏ノ調査ニ唯唯諾々、本市ガ鉅額ノ費用ト幾多ノ日子トヲ費シテ決定シタル箇所ヲ容易ニ變更スルガ如キハ、大東京市トシテ餘リニ不見識ナラズヤ、元來本事業ハ鉅額ノ費用ヲ要スル本市ノ永久的大事業ニシテ、其費用ハ悉ク市債ニ仰ガザルベカラズ、然リ而シテ如何ナル情實ニモ左右セラレズ、全市民ノ首肯シ得ル確實ナル事業ニ對シテナラバ、資本家ハ喜デ投資スベキモ、無定見、無責任ナル事業ニ對シテハ、恐ラク投資者ハナカルベシ。仍テ敢テ問フ、市理事者ハ內務省ノ一屬吏ノ言ニ從テ變更シタル堰堤ノ位置ヲ將來變更スル意志ナキヤ否ヤ、即チ市會其他ニ於テ爲シタル議決ヲ尊重スル意味ニテ、全市民ノ承認スル調査會等ニテ再調査ヲ爲サシメ、以テ此ノ堰堤ノ位置ヲ市ニテ決定シタル箇所ニ定

ゐル意志ナキヤ否ヤト質シタルニ對シ。水道局長**原全路君**ハ、河川ノ上流ニ貯水池ヲ選定スルハ、水利ノ關係上便益多シト雖モ、貯水池ノ堰堤地點トシテハ、其地質ニ重キヲ置カザルベカラズ、此ノ地質ニ就テハ當初商工省地質調査所ニ調査ヲ依賴シ、同調査所ノ報告ヲ基礎トシテ、最初ノ豫定地點ニ決定シタルモノナルガ、其後內務省ニ認可申請ヲ爲スニ及ビ、內務省ニ於テ更ニ專門家ヲシテ調査セシメタルニ、今回東京市ガ築造セントスル堰堤ハ世界第二位ノ深堰堤ナルヲ以テ、萬全ノ中ニモ萬全ヲ期セザルベカラズ、商工省ノ選定シタル地點ノ地質ニハ、尙ホ一抹ノ不安アリトノ事ナリキ。仍テ本市ニ於テモ再調査ヲ爲シタルガ、詳細ハ專門ニ亘ルガ故ニ省略スベシ、兎ニ角下流二「キロ」ノ地點ハ適正ナリトハ專門家ノ一致スル意見ナルヲ以テ、設計ヲ變更シテ目下再申請中ナリ。變更地點ハ多摩川水電會社所有發電所ノ下流ニ位スルモ、幸ヒ水力發電ニハ支障ナキ工事方法ヲ講ジ得ルヲ以テ、變更シタル地點ヲ更ニ變更スルガ如キ意志ハ、今日理事者トシテ考ヘ居ラズト答ヘ、斯テ質疑應答ヲ打切レリ。

## ▽水道鐵管移轉並增設費繼續年期及支出方法

左記議案ハ十二月二十八日ノ會議ニ上程、異議ナク可決セリ。

第二百五十號　自昭和八年度至昭和十年度東京市水道鐵管移轉竝增設費繼續年期及支出方法

一金貳百六拾萬圓　水道鐵管移轉竝增設費

內譯

金六拾五萬七千圓　昭和八年度支出額

金百拾萬圓　昭和九年度支出額

金八拾四萬參千圓　昭和十年度支出額

說明　給水ノ普及竝圓滑ヲ期スル爲水道鐵管增設及連絡工事ヲ施行スルノ要アルト都市計畫街路其ノ他ノ街路工事ニ順應シ既設鐵管移轉ノ要アルトニ依リ之ヲ公營事業及失業救濟事業トシテ施行スルヲ適當ト認メ三箇年繼續事業トシテ本費ノ計上ヲ爲スモノトス。

（支出計算表及計算說明表略ス）

（參考）

水道鐵管移轉竝增設計畫

一　事業計畫概要

(イ)　西北部水道鐵管新設工事

世田谷、杉並、板橋區ノ各一部ニシテ市域擴張前執レノ既設水道區域ニモ屬セサリシ人口集團地域ニ對シ配水小管ヲ敷設スルモノニシテ其ノ延長一〇三、八〇七米ナリ

(ロ)　既給水區域內鐵管增設工事

既給水區域內未設部分ニ配水鐵管竝配水補助管ノ敷設ヲ爲スモノニシテ其ノ延長鐵管五五、〇〇〇米、補助管一二九、四八〇米ナリ

(ハ)　鐵管移轉竝連絡工事

東京都市計畫街路、產業道路、其ノ他ノ街路工事ニ順應シ既設水道鐵管ヲ正規ノ位置ニ移轉スルト共ニ配水ノ圓滑ヲ期スル爲新舊市部配水管ヲ適當ノ箇所ニ於テ連絡セントスルモノニシテ新設延長三八、一四二米、撤去延長三七、二六〇米、連絡工事施行箇所五四箇所ナリ

二　經理方法

本費ノ財源ハ失業救濟事業國庫補助金三〇五、五〇〇圓（勞力費ノ二分ノ一）及市債二、二九四、五〇〇圓ヲ以テ充當ス

| 種別 | 昭和八年度 | 昭和九年度 | 昭和十年度 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 事業費 | 六五七、〇〇〇円 | 一、一〇〇、〇〇〇円 | 八四三、〇〇〇円 | 二、六〇〇、〇〇〇円 |
| 財源 國庫補助金 | 〇 | 一七八、五〇〇 | 一二七、〇〇〇 | 三〇五、五〇〇 |
| 財源 借入金 | 六五七、〇〇〇 | 九二一、五〇〇 | 七一六、〇〇〇 | 二、二九四、五〇〇 |
| 計 | 六五七、〇〇〇 | 一、一〇〇、〇〇〇 | 八四三、〇〇〇 | 二、六〇〇、〇〇〇円 |

## ▽江戸川水道取水設備費繼續年期及支出方法

第二百五十一號　左記議案モ十二月二十八日ノ會議ニ於テ、原案通可決セリ。

一金貳百萬圓　自昭和八年度至昭和十年度　東京市江戸川水道取水設備費繼續年期及支出方法

江戸川水道取水設備費

內譯

金六萬五千圓　昭和八年度支出額

金八拾九萬七千圓　昭和九年度支出額

金百參萬八千圓　昭和十年度支出額

説明　既設江戸川水道取水場變更ノ要アルニ依リ之ヲ公營事業及失業救濟事業トシテ施行スルヲ適當ト認メ三箇年繼續事業トシテ本費ノ計上ヲ爲スモノトス

（支出計算表及計算説明表略ス）

（參考）

江戸川水道取水設備計畫

一　事業計畫概要

葛飾區金町地先所在現取水塔ハ大正十三年以來江戸川下流ニ於ケル河川改修工事及砂利採取ノ影響ニ依リ逐年河床竝水位ノ低下ヲ來シ豫定ノ水量ヲ得ルコト困難ニシテ且海水遡流ノ危險アリト認ムルヲ以テ之ヲ廢棄シ約七千米上流ナル埼玉縣北葛飾郡八木郷村字八丁堀地先ニ新ニ取水塔ヲ築造シ同所ニ砂溜池及喞筒場ヲ設計導水管ニ依リ現在金町淨水場內沈澱池ニ送水セントスルモノナリ

二　經理方法

本費ノ財源ハ失業救濟事業國庫補助金二二六、〇〇〇圓（勞力費ノ二分ノ一）及市債金一、七七四、〇〇〇圓ヲ以テ充當ス

| 種別 | 昭和八年度 | 昭和九年度 | 昭和十年度 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 事業費 | 六五、〇〇〇円 | 八九七、〇〇〇円 | 一、〇三八、〇〇〇円 | 二、〇〇〇、〇〇〇円 |
| 財源 國庫補助金 | 〇 | 九九、五〇〇 | 一二六、五〇〇 | 二二六、〇〇〇 |
| 財源 借入金 | 六五、〇〇〇 | 七九七、五〇〇 | 九一一、五〇〇 | 一、七七四、〇〇〇 |
| 計 | 六五、〇〇〇 | 八九七、〇〇〇 | 一、〇三八、〇〇〇 | 二、〇〇〇、〇〇〇 |

## ▽水道鐵管移轉竝增設費及ビ江戸川水道取水設備費起債ニ關スル件

左記兩議案モ十二月二十八日ノ會議ニ於テ、異議ナク可決セリ。

第二百五十八號

東京市水道鐵管移轉竝增設費起債ニ關スル件

一　起債ノ時期及金額　昭和八年度　六十五萬七千圓

昭和九年度　九十二萬一千五百圓

昭和十年度　七十一萬六千圓

計　二百二十九萬四千五百圓

但シ各年度起債未濟額ハ翌年度ニ繰越起債スルコトヲ得

二　起債ノ目的　短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

三　利率　失業救濟事業トシテ施行スル水道鐵管移轉竝增設費ニ充當

四　起債ノ方法　年三分二厘以內

大藏省預金部其ノ他

本起債ノ時期適當ナラサルトキハ利子年率五分以內償還期限五年以內ノ短期債ヲ起スコトヲ得

前項ノ短期債ハ本借入金及其ノ他收入ヲ以テ償還ス

五　償還ノ期間及方法　短期債ヲ起ス場合ト雖別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス

第二項ノ短期債ヲ起スニ付必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

別表償還年次表ノ如ク借入ノ年度ヨリ五年度據置爾後十五年度間ニ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

六　元利支拂資源　水道事業收入及一般歲入

七　借入ノ爲ニ發行スル債券　借入ノ爲ニ證券交付ノ要アルトキハ適宜券面額ヲ定メ一種若ハ數種ノ市債券ヲ發行スルモノトス



說明　第二百五十號議案（註、前項參照）ニ伴ヒ水道鐵管移轉竝增設費ノ財源ヲ借入金ニ需ムルモノトシ本案ヲ提出ス

（償還年次表略ス）

第二百五十九號

東京市江戶川水道取水設備費起債ニ關スル件

一　起債ノ時期及金額　昭和八年度　六萬五千圓

昭和九年度　七十九萬七千五百圓

昭和十年度　九十一萬一千五百圓

計　百七十七萬四千圓

但シ各年度起債未濟額ハ翌年度ニ繰越起債スルコトヲ得

二　起債ノ目的　短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

三　利率　失業救濟事業トシテ施行スル江戶川水道取水設備費ニ充當

年三分二厘以內

四　起債ノ方法　大藏省預金部其ノ他

本起債ノ時期適當ナラサルトキハ利子年率五分以內償還期限五年以內ノ短期債ヲ起スコトヲ得

前項ノ短期債ハ本借入金及其ノ他收入ヲ以テ償還ス

短期債ヲ起ス場合ト雖別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ

得ス

第二項ノ短期債ヲ起スニ付必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

五　償還ノ期間及方法　別表償還年次表ノ如ク借入ノ年度ヨリ五年度据置爾後十五年度間ニ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

七　元利支拂資源　水道事業收入及一般歳入

七　借入ノ爲ニ發行スル債券　借入ノ爲ニ證券交付ノ要アルトキハ適宜券面額ヲ定メ一種若ハ數種ノ市債券ヲ發行スルモノトス

說明　第二百五十一號議案（註、前項參照）ニ伴ヒ江戸川水道取水設備費ノ財源ヲ借入金ニ需ムルモノトシ本案ヲ提出ス。

（償還年次表略ス）

## 第拾貳節　市場及產業問題

### ▽家畜市場並ニ屠場建設費起債ニ關スル件中更正ノ件

左記議案ハ一月二十五日ノ會議ニ上程、即決可決セリ。

第十五號

東京市家畜市場竝屠場建設費起債ニ關スル件中更正ノ件

昭和五年十二月二日第百五十五號市會議決（第七卷六九〇頁參照）ニ依ル東京市家畜市場竝屠場建設費起債ニ關スル件中起債ノ時期及金額、借入金利率、借入ノ方法竝償還ノ期間及方法ヲ左ノ通更正スルモノトス

一　起債ノ時期及金額　昭和七年度　百四萬六千圓

昭和八年度　百三十三萬四千圓

計　二百三十八萬圓

但シ昭和七年度起債未濟額ハ翌年度ニ繰越起債スルコトヲ得

三　借入金利率　短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

四　借入ノ方法　年六分五厘以內

大藏省預金部、簡易保險積立金其ノ他銀行

本起債ノ時期適當ナラサルトキハ利子年率六分五厘以內償還期限五年以內ノ短期債ヲ起スコトヲ得

前項ノ短期債ハ本借入金及其ノ他收入ヲ以テ之ヲ償還ス

短期債ヲ起ス場合ト雖別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス

第二項ノ短期債ヲ起スニ付必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

五　償還ノ期間及方法　借入ノ月ヨリ昭和九年三月迄据置昭和九年度ヨリ昭和二十八年度ニ至ル二十年度間ニ別表償還年次表ノ通償還スルモノトス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

說明　家畜市場竝屠場建設費起債ニ關シテハ昭和七年十二月二十日更正許可セラレタル處繰越起債竝短期債借入ノ途ナキヲ以テ之カ起債ノ圓滑ヲ期センカ爲更正スルヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス。

（償還年次表略ス）

（參考）

内務省五東地第二四六號

昭和五年十二月八日財主發第一五六七號稟請起債ノ件左ノ通更正シ許可ス

昭和七年十二月二十日

東京府東京市

内務大臣男爵山本達雄

大藏大臣高橋是清

記

一、起債ノ時期及金額　昭和七年度金壹百四萬六千圓
昭和八年度金壹百參拾參萬四千圓

三、借入金利率　年六分五厘以内

四、借入ノ方法　大藏省預金部、簡易保險積立金其ノ他銀行

五、償還ノ期間及方法　借入ノ月ヨリ昭和九年三月迄据置シ昭和九年度ヨリ昭和二十八年度ニ至ル二十箇年間ニ別紙償還年次表ノ通償還スルモノトス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

## ▽家畜市場竝二屠場建設費更正繼續年期及支出方法

第十七號　左記議案モ一月二十五日ノ會議ニ於テ、原案通可決セリ。

一金貳百四拾萬圓　自昭和七年度至昭和八年度　東京市家畜市場竝屠場建設費更正繼續年期及支出方法

既定家畜市場竝屠場建設費

一金貳百參拾八萬圓　更正家畜市場竝屠場建設費

内譯

金參拾壹萬六千圓　昭和五年度既定支出額

金〇　同　年度更正支出額

金百拾八萬圓　昭和六年度既定支出額

金〇　同　年度更正支出額

金九拾萬四千圓　昭和七年度既定支出額

金六拾七萬四千圓　同　年度更正支出額

金百七拾萬六千圓　昭和八年度更正支出額

説明　本事業ハ家畜市場竝屠場建設ノ爲自昭和五年度至昭和七年度三箇年計畫ヲ以テ進捗中ノ處這般總費額ヲ二百三十八萬圓ニ減額シ自昭和七年度至昭和八年度二箇年計畫トシテ起債認可アリタルヲ以テ此際實狀ニ鑑ミ事業計畫ノ一部變更ヲ行フト共ニ繼續年期ヲ延長シ各年度割額ノ更正ヲ爲スモノトス。

（支出計算表竝計算説明表略ス）

## ▽中央卸賣市場業務規程設定ノ件

第百八十九號　東京市條例東京市中央卸賣市場業務規程設定ノ件

東京市條例東京市中央卸賣市場業務規程左ノ通設定スルモノトス

東京市條例東京市中央卸賣市場業務規程

## 第一章　取扱品目、開市及休業

第一條　本市場ニ於テハ魚類、肉類、鳥類、卵、蔬菜及果實ノ卸賣ヲ爲ス

第二條　取扱品目ノ部類及各部類ニ屬スル物品左ノ通トス

本　場

魚　類　部　鮮魚介類、鹽干魚介類、海獸肉類、海藻類及其等ノ製品

青　果　部　蔬菜類、果實類、菌茸類及其等ノ製品

肉　類　部　獸肉類及其ノ製品

鳥　類　部　食鳥類及其ノ製品

鳥　卵　部　卵及其ノ製品

神田分場

青　果　部　蔬菜類、果實類、菌茸類及其等ノ製品

江東分場

青　果　部　蔬菜類、果實類、菌茸類及其等ノ製品

取扱物品ノ屬スヘキ部類ニ疑アルトキハ市長之ヲ決定ス

第三條　開市ノ時間左ノ通トス

魚　類　部　自午前四時至午後二時

青　果　部　自午前四時至正　午



肉　類　部　自午前五時至午後三時

鳥　類　部　自午前五時至午後三時

鳥　卵　部　自午前五時至午後三時

前項ノ時間ハ市長必要アリト認メタルトキハ臨時之ヲ變更スルコトアルヘシ

第四條　市長ハ休業日ヲ定メ又ハ臨時休業ヲ爲シ若ハ休業日ニ臨時開市スルコトアルヘシ

## 第二章　賣買取引

第五條　市場ニ於テ爲ス賣買ハ糶賣ノ方法ニ依ル但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ相對賣入札賣又ハ定價賣ノ方法ニ依ルコトヲ得

一　品種ニ依リ糶賣ノ方法ニ依ル販賣ヲ不適當ナリト市長ニ於テ認メタルトキ

二　數量夥多又ハ到著遲延ノ爲糶賣ノ方法ニ依ル販賣ヲ困難ナリト市長ニ於テ認メタルトキ

三　糶賣ノ方法ニ依ルトキハ不穩當ナル値段ノ生スル虞アリト市長ニ於テ認メタルトキ

四　仲買人又ハ附屬營業人カ販賣ヲ爲ストキ

五　其ノ他市長ニ於テ必要アリト認メタルトキ

前項各號ノ場合ニ於テ市長必要アリト認メタルトキハ賣買ノ方法ヲ指定スルコトアルヘシ

第六條　賣買取引ノ單位ハ重量ニ依ル但シ取引ノ慣習アルトキハ市長ノ承認ヲ得テ個數、束數又ハ容器ヲ以テ數量ノ單位ト爲スコトヲ得

第七條　賣買取引ハ袖遣リ、耳遣リ其ノ他秘密ノ方法ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得ス

賣買ノ呼値ニ符牒ヲ用ヰムトスル場合ニ於テハ豫メ其ノ符牒ニ付市長ノ承認ヲ受クヘシ

第八條　賣買成立シタルトキハ買受人ハ遲滯ナク其ノ物品ヲ引取ルヘシ

買受人買受物品ノ引取ヲ遲滯シタルトキハ賣渡人ハ買受人ノ費用ヲ以テ其ノ物品ヲ保管シ又ハ催告ヲ爲サスシテ賣買ヲ解除シ再販賣ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ再販賣ヲ爲シタル場合ニ於テ差損金アルトキハ其ノ差損金ハ當初ノ買受人ノ負擔トス

第九條　市場ニ於ケル買受物品ノ代金ハ其ノ物品ノ引渡ヲ受クルト同時ニ之ヲ支拂フヘシ但シ卸賣人ハ仲買人ニ對シ一月二以上ノ計算期間ヲ定メ其ノ期間內ニ引渡シタル物品ノ代金支拂ヲ期間經過後五日以內猶豫スルノ特約ヲ爲スコトヲ得

卸賣人又ハ仲買人ハ市長ノ承認ヲ得タル場合ニ限リ買出人ニ對シ前項但書規定ノ支拂猶豫ノ特約ヲ爲スコトヲ得

卸賣人又ハ仲買人其ノ賣買取引ニ關シ奬勵金ヲ交付セムトスルトキハ其ノ率及方法ニ付市長ノ承認ヲ受クヘシ

第十條　不熟(慣習上賣買セラルルモノヲ除ク)腐敗其ノ他衞生上有害ナル物品ハ之ヲ市場ニ於テ賣買シ又ハ賣買ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シ又ハ展示スルコトヲ得ス

前項ニ該當スルモノアリト認メタル場合ニ於テハ市長ハ其ノ物品ノ賣買ヲ差止メ又ハ撤去ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條　傳染病豫防其ノ他公益上必要アリト認メタルトキハ市長ハ各部又ハ附屬營業人ノ取扱物品ノ全部若ハ一部ノ賣買ヲ差止メ又ハ之カ市場ヘノ搬入ヲ禁止スルコトアルヘシ

第十二條　糶賣又ハ入札賣ノ場合ニ於テ談合其ノ他不正ノ行爲アリト認メタルトキ又ハ不穩當ナル値段ヲ生シ若ハ生スルノ虞アリト認メタルトキハ市長ハ其ノ賣買ヲ差止メ又ハ糶直シ若ハ再入札ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ市長ハ卸賣人、仲買人又ハ附屬營業人若ハ買出人ニ對シ賣買ヲ差止ムルコトアルヘシ

一　賣買ニ付不正又ハ不穩當ナル行爲アリト認メタルトキ

二　市場ニ於ケル物品ノ買受代金ノ支拂ヲ怠リタルトキ

## 第三章　卸賣人

第十四條　本規程ニ於テ卸賣人ト稱スルハ中央卸賣市場法第十條ノ規定ニ依リ本市場ニ於テ卸賣ノ業務ヲ爲ス者ヲ謂フ

第十五條　各部卸賣人ノ員數左ノ通トス

| 本場 | | |
|---|---|---|
| 魚類部 | 一人 | |
| 青果部 | 二人以內 | 青果一般ヲ取扱フ者 |
| | 一人 | 漬物ノミヲ取扱フ者 |
| 肉類部 | 二十人以內 | |
| 鳥類部 | 一人 | |
| 鳥卵部 | 一人 | |
| 神田分場 | | |

| | | |
|---|---|---|
| 青果部 | 青果一般ヲ取扱フ者 二人以内<br>漬物ノミヲ取扱フ者 一人 | |
| 江東分場 | | |
| 青果部 | | 二人以内 |

第十六條　卸賣人ハ其ノ許可ヲ受ケタル取扱品目ノ部類ニ屬セサル物品ノ卸賣ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條　卸賣人ハ業務許可ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ市長ノ定ムル樣式ニ依ル誓約書ヲ添ヘ保證金ヲ納付スヘシ

卸賣人ハ保證金ヲ納付シタル後ニ非サレハ其ノ業務ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條　卸賣人ノ納付スヘキ保證金ハ左ノ範圍内ニ於テ市長別ニ之ヲ定ム

| | |
|---|---|
| 本場 | |
| 魚類部 | 二十萬圓 |
| 青果部 | 二萬五千圓 |
| 肉類部 | 三千圓 |
| 鳥類部 | 三千圓 |
| 鳥卵部 | 五千圓 |
| 神田分場 | |
| 青果部 | 五萬圓 |
| 江東分場 | |
| 青果部 | 二萬圓 |

前項ノ保證金ハ本市市債其ノ他ノ有價證券ヲ以テ代用スルコトヲ得但シ有價證券ノ種類及價格ハ市長別ニ之ヲ定ム

第十九條　保證金ニ付差押、假差押、假處分命令ノ送達アリタルトキ、國稅滯納處分若ハ其ノ例ニ依ル差押アリタルトキ、其ノ他保證金ニ不足ヲ生シタルトキハ卸賣人ハ市長ノ指定スル期間内ニ處分アリタル金額又ハ不足金額ニ相當スル金額ヲ追納スヘシ

卸賣人前項ノ規定ニ依ル納付ヲ爲ササル場合ニ於テハ指定期間經過後其ノ納付ヲ完了スルニ至ル迄ハ卸賣ノ業務ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條　卸賣人使用料、過怠金其ノ他本市場ニ關シ本市ニ對シ負擔スル金額ノ納付ヲ怠リタルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充當スルコトアルヘシ

第二十一條　保證金ハ卸賣人其ノ資格ヲ失ヒタル日ヨリ六十日ヲ經過シタル後ニ非サレハ之ヲ返還セス

第二十二條　卸賣人ハ毎日市場開市時刻迄ニ前開市日ノ閉市後受領シタル物品、當日開市迄ニ受領見込ノ物品及其ノ貯藏スル物品ノ種類及數量ヲ市長ニ報告スヘシ

第二十三條　卸賣人受託物品ヲ受領シタルトキハ委託者ニ對シ遲滯ナク受領物品ノ種類、數量、受領日時及受領ノ時ニ於ケル物品ノ狀態ヲ通知スヘシ但シ受領ノ翌日迄ニ賣買仕切書ヲ送付スル場合ニ於テハ之ヲ以テ其ノ通知ニ代フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ受領物品ニ付種類若ハ品質ノ相違、損敗又ハ數量ニ不足アリト認メタルトキハ市長ノ指定ス

ル檢査員ノ檢査ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前項通知書ニ檢査ノ結果ヲ附記スヘシ

前項ノ檢査ヲ受クルニ非サレハ卸賣人ハ受託物品ノ種類若ハ品質ノ相違、損敗又ハ數量ノ不足ニ付委託者ニ對抗スルコトヲ得ス

前各項ノ規定ハ本市場內渡ノ買付品ニ付之ヲ準用ス

第二十四條　卸賣人ハ販賣ノ委託ヲ受ケタル物品ノ販賣ヲ爲スモノトス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限リ卸賣人ハ自己ノ取扱品目ノ部類ニ屬スル物品ノ買付ヲ爲スコトヲ得

一　內地外ノ生產品ヲ移輸入スルトキ

二　從來本市場ニ出荷セサリシ地方ト新ニ取引ヲ開始スルトキ

三　從來本市場ニ於テ取引セサリシ物品ニ付新ニ取引ヲ開始スルトキ

四　出荷者ノ賣惜ミ其ノ他ノ事由ニ依リ出荷著シク減少シタルトキ

五　其ノ他市長ニ於テ特別ノ事由アリト認メ承認シタルトキ

第二十五條　卸賣人ノ委託者ヨリ收受スル販賣手數料ノ率ハ賣上金額ノ百分ノ十以內ニ於テ之ヲ定メ市長ノ承認ヲ受クヘシ

市長必要アリト認メタルトキハ前項ノ手數料ノ率ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十六條　卸賣人受託物品ノ販賣ヲ爲シタルトキハ委託者ニ對シ其ノ販賣ヲ爲シタル日ノ翌日迄ニ賣買仕切書及仕切金ヲ送付スヘシ但シ賣買仕切金ニ關シ特約アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　卸賣人其ノ資格ヲ失ヒタルトキ、業務ヲ停止セラレタルトキ又ハ賣買ヲ差止メラレタルトキハ販賣ヲ結了セサル委託物品ニ關シ遲滯ナク其ノ種類、量數、委託者其ノ他委託ニ關スル事項ヲ市長ニ屆出ツヘシ

前項ノ委託物品ハ市長他ノ卸賣人ヲ指定シテ卸賣ヲ爲サシメ又ハ市長ニ於テ之ヲ販賣ス

前項ノ指定ヲ受ケタル卸賣人ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ販賣委託ノ引受ヲ拒ムコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ市場ニ到著シタル物品ニ關シ受託卸賣人ナキ場合若ハ不明ナル場合又ハ受託卸賣人ノ取扱品目ノ部類ニ屬セサル場合ニ付之ヲ準用ス

第二十八條　卸賣人糶人ヲ使用セムトスルトキハ其ノ者ニ付市長ノ承認ヲ受クヘシ

市長前項ノ糶人ヲ不適當ナリト認メタルトキハ其ノ承認ヲ取消スコトアルヘシ

第二十九條　卸賣人ハ本市係員ノ請求アリタルトキハ其ノ業務ニ關スル帳簿、書類又ハ取扱物品ヲ提示シ其ノ質問ニ應答スヘシ

第三十條　卸賣人臨時休業セムトスルトキハ豫メ其ノ期日及事由ヲ具シ市長ノ承認ヲ受クヘシ

第三十一條　卸賣人ハ卸賣人組合ヲ組織スルコトヲ得

卸賣人組合規約ハ市長ノ承認ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

市長必要アリト認メタルトキハ卸賣人組合規約ノ變更ヲ命シ又ハ組合ノ決議ノ取消ヲ命スルコトアルヘシ

第三十二條　市長必要アリト認メタルトキハ市場ノ業務ニ關スル事項ニ付關係卸賣人組合若ハ卸賣人ノ意見ヲ聞クコトアルヘシ

第三十三條　卸賣人ハ卸賣人組合ノ決議ヲ以テスル場合ヲ除クノ外卸賣ノ業務ニ關シ他ノ卸賣人ト契約ヲ爲シ又ハ申合ヲ爲スコトヲ得ス但シ市長ノ承認ヲ得タル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

## 第四章　仲買人、買出人及附屬營業人

第三十四條　本規程ニ於テ仲買人ト稱スルハ中央卸賣市場法施行規則第二十八條ノ規定ニ基キ本市場ニ於テ仲買ノ業務ヲ爲ス者ヲ謂フ

第三十五條　仲買人ノ員數ハ市長別ニ之ヲ定ム

第三十六條　仲買ノ業務ヲ爲サムトスル者ハ市長ノ許可ヲ受クヘシ

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ仲買人トナルコトヲ得ス

一　中央卸賣市場ニ於ケル仲買人ニシテ業務許可ノ取消ヲ受ケタル日ヨリ三年ヲ經過セサル者

二　破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

三　前二號ノ一ニ該當スル者ヲ無限責任社員又ハ取締役其ノ他業務ヲ執行スル役員トスル法人

四　市長ニ於テ信用薄弱ナリト認メタル者

五　中央卸賣市場法第七條ノ規定ニ依リ損失ノ補償ヲ受ケタル者但シ特別ノ事情アリト市長ニ於テ認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

六　社員、株主又ハ組合員中中央卸賣市場法第七條ノ規定ニ依リ損失ノ補償ヲ受ケタル者アル法人但シ特別ノ事情アリト市長ニ於テ認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

七　中央卸賣市場ノ卸賣人、卸賣人又ハ仲買人タル法人ノ無限責任社員若ハ取締役其ノ他業務ヲ執行スル役員アルヘシ

第三十七條　市長必要アリト認メタルトキハ本市中央卸賣市場指定區域内ニ中央卸賣市場ノ配給所ヲ設クルコト

前項ノ配給所ニ關スル事項ハ市長別ニ之ヲ定ム

第三十八條　仲買業務ノ許可ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニシテ中央卸賣市場法施行規則第六條ノ規定ニ依ル業務開始ノ期日前ニ其ノ申請ヲ爲シタル者ニ對シテハ他ノ申請者ニ優先シテ之ヲ爲ス

一　本市場ノ開設認可アリタル際本市場指定區域内ニ於ケル中央卸賣市場類似ノ業務ヲ爲ス市場ニ於テ業務許可ノ申講ヲ爲シタル部類ノ取扱品目ニ付引續キ二年以上仲買又ハ卸賣ノ業務ヲ爲シタル者

二　前號ニ該當スル者ヲ以テ主タル組織者ト爲ス法人

前項ニ該當スル者ノ全部ヲ仲買人トシテ許可スル能ハサルトキハ仲買ノ業務ヲ爲ス者ヲ優先シテ許可ス

第一項第一號ノ期間ハ相續、合併、讓渡其ノ他ノ事由ニ因ル業務ヲ承繼シタル者ニ在リテハ其ノ前者ノ爲シタル業務ノ期間ヲ通算ス

第三十九條　仲買業務ノ許可ハ各市場別トシテ取扱品目ノ部類毎ニ之ヲ爲ス但シ市長必要アリト認メタルトキハ仲買人ノ取扱物品ノ種類ヲ限定シ且其ノ買付場所ヲ其ノ屬スル市場外ノ他ノ市場ニ指定スルコトアルヘシ

仲買人ハ其ノ許可ヲ受ケタル取扱品目ノ部類ニ屬セサル物品ニ付仲買ノ業務ヲ爲スコトヲ得ス

第四十條　仲買人第三十六條第二項第二號、第三號若ハ第七號ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ仲買人業務許可ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ保證金ヲ納付セス若ハ一月以内ニ業務ヲ開始セサルトキハ業務許可ハ其ノ效力ヲ失フ

仲買人第三十六條第二項第四號乃至第六號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ正當ノ事由ナクシテ引續キ一月以上其ノ業務ヲ休止シタルトキハ市長ハ其ノ業務許可ヲ取消スコトアルヘシ

第四十一條　仲買人ハ業務許可ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ市長ノ定ムル樣式ニ依ル誓約書ヲ添ヘ保證金ヲ納付スヘシ

保證金ハ左ノ範圍内ニ於テ市長別ニ之ヲ定ム

| 本場 | | |
|---|---|---|
| 魚類部 | 六百圓 | |
| 青果部 | 四百圓 | |
| 神田分場 | | |
| 青果部 | 四百圓 | |
| 江東分場 | | |
| 青果部 | 三百圓 | |

第三十九條第一項但書ノ仲買人ノ納付スヘキ保證金ハ前項各號所定ノ金額ノ半額以内ニ於テ市長別ニ之ヲ定ム

第四十二條　仲買人使用料其ノ他本市場ニ關シ本市ニ對シ負擔スル金額ノ納付ヲ怠リタルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充當スルコトアルヘシ買受代金又ハ第八條ノ規定ニ依ル保管ノ費用若ハ差損金ノ支拂ヲ怠リタル場合ニ於テ卸賣人ノ請求アリタルトキ亦同シ

保證金ハ前項ノ債務ヲ完納シタル後ニ非サレハ之ヲ返還セス

第十七條第二項、第十八條第二項及第十九條ノ規定ハ本條ノ保證金ニ付之ヲ準用ス

第四十三條　仲買人ハ本市中央卸賣市場指定區域内ニ於テ自己ノ取扱品目ノ部類ニ屬スル物品ニ付販賣委託ノ引受ヲ爲シ又ハ其ノ市場外ニ於テ爲ス買付ノ方法ニ依ル販賣ヲ爲スコトヲ得ス但シ市長必要アリト認メタルトキハ物品ノ種類及買付市場ヲ限リ買付ヲ爲スコトヲ承認スルコトアルヘシ

仲買人ハ本市中央卸賣市場指定區域内ニ於テハ其ノ業務ヲ行フ市場外ニ於テ一定ノ營業所ヲ設ケ自己ノ取扱品目ノ部類ニ屬スル物品ノ販賣ヲ爲スコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ市長ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條　仲買人買入ノ委託ヲ受ケムトスルトキハ委託者ヨリ收受スル手數料ノ率ヲ定メタル受託契約準則ヲ定メ市長ノ承認ヲ受クヘシ

市長必要アリト認メタルトキハ前項ノ手數料ノ率其ノ他ニ付變更ヲ命スルコトアルヘシ

第四十五條　市長必要アリト認メタルトキハ仲買人ニ對シ取扱物品ノ販賣値段及數量其ノ他必要ナル事項ノ報告ヲ命スルコトアルヘシ

第四十六條　買出人糶賣又ハ入札賣ノ方法ニ依ル卸賣ニ參加セムトスルトキハ市長ノ許可ヲ受クヘシ

市長ハ前項ノ許可ヲ與フルニ當リ關係卸賣人組合若ハ卸賣人ノ意見ヲ聞クモノトス

第一項ノ許可ヲ得タル者ハ保證金ヲ納付スヘシ但シ市長ノ特ニ免除シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項保證金ノ額ハ百圓ヲ下ラサル範圍内ニ於テ市長別ニ之ヲ定ム

第十七條第二項並第四十二條第一項及第二項ノ規定ハ本條ノ保證金ニ付之ヲ準用ス

第四十七條　市場内ニ於テ市場ニ附屬スル營業(附屬營業)ヲ爲サムトスル者ハ市長ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ附屬營業ノ種類及附屬營業人ノ員數ハ市長別ニ之ヲ定ム

第四十八條　附屬營業人ハ業務許可ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ市長ノ定ムル樣式ニ依ル誓約書ヲ添ヘ保證金ハ使用料月額ノ三倍トス

第十七條第二項、第十八條第二項、第十九條竝第四十二條第一項及第二項ノ規定ハ本條ノ保證金ニ付之ヲ準用ス

第四十九條　附屬營業人ノ收受スル料金又ハ取扱物品ノ販賣値段ニ關シ市長必要アリト認メタルトキハ適當ノ制限ヲ爲スコトアルヘシ

第五十條　第二十九條乃至第三十三條ノ規定ハ仲買人及附屬營業人ニ付之ヲ準用ス

第三十一條及第三十二條ノ規定ハ買出人ニ付之ヲ準用ス

## 第五章　市場設備ノ使用

第五十一條　卸賣人、仲買人及附屬營業人ノ使用スル市場建物及設備ノ位置及面積ハ市長之ヲ指定ス

第五十二條　建物又ハ設備ノ使用者ハ如何ナル名義ヲ以テスルヲ問ハス轉貸ヲ爲シ又ハ其ノ權利ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ス但シ市長ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條　建物又ハ設備ノ使用者ハ市長ノ承認ヲ得ルニ非サレハ建物ノ模樣替ヲ爲シ又ハ設備ニ變更ヲ加フルコトヲ得ス

市場ノ建物又ハ設備ニ付業務ノ監督又ハ災害ノ豫防上市長必要アリト認メタルトキハ適當ナル措置ヲ命シ若ハ使用ノ制限ヲ爲スコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ使用者命令ニ服セサルトキハ市長ニ於テ之ヲ執行シ之ニ要シタル費用ハ當該使用者ノ負擔トス

第一項ノ規定ニ依リ模樣替又ハ變更ヲ爲シタル場合ニ於テハ市長ハ使用者ニ對シ返還ノ際之カ原狀回復ヲ命シ又ハ之ニ代ヘ其ノ費用ノ辨償ヲ命スルコトアルヘシ

第五十四條　市場ノ建物又ハ設備ハ其ノ用途ニ非サル目的ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ市長ノ承認ヲ得タル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第五十五條　市場ノ建物又ハ設備ニ付修理ヲ要スヘキ事由生シタルトキハ市長ハ何時ニテモ之カ工事ヲ施行スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ使用者損害ヲ蒙ムルコトアルモ本市ハ其ノ責ニ任セス

第五十六條　市場ノ建物又ハ設備ニ付業務ノ監督又ハ災害ノ豫防上市長必要アリト認メタルトキハ使用者立會ノ上本市係員ヲシテ何時ニテモ之ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

第五十七條　故意又ハ過失ニ依リ建物又ハ設備ヲ滅失毀損シタル者ハ市長ノ指定ニ依リ之ヲ原狀ニ回復シ又ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第五十八條　公益上又ハ市場事務執行上必要アリト認メタルトキハ使用建物又ハ設備ノ變更ヲ爲シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第五十九條　倉庫、冷藏庫、醱酵室、生洲其ノ他特殊設備ノ使用ニ關シ必要ナル事項ハ市長別ニ之ヲ定ム

第六十條　本市場ノ使用料、保管料及手數料ハ別表ノ範圍内ニ於テ市長別ニ之ヲ定ム

本市場ニ於テ使用スル電燈、電力、瓦斯、水道、煖房設備等ノ費用ニシテ市長ノ指定スルモノハ當該使用者ノ負擔トス

所定ノ建物又ハ設備ヲ他ノ用途ニ使用スルトキハ其ノ用途ノ建物又ハ設備使用料ニ相當スル額ヲ納付セシムルコトアルヘシ

月額ニ依ル使用料ニ付使用期間一月ニ滿タサル場合ニ於テハ日割計算ニ依ル但シ倉庫及冷藏庫使用料ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

既納ノ使用料、保管料及手數料ハ之ヲ還付セス但シ市長ニ於テ相當ノ事由アリト認メタル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ還付スルコトアルヘシ

使用料、保管料、手數料ニ關シ必要ナル事項ハ市長別ニ之ヲ定ム

第六十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ市長ハ使用料ヲ減免スルコトアルヘシ

一　使用者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ依リ市場建物又ハ設備ヲ使用スルコト能ハサルコト三日以上ニ亘リタルトキ

二　第五十八條ノ規定ニ依リ使用停止三日以上ニ亘リタルトキ

三　市場又ハ取扱物品ニ付法令ニ基ク處分ヲ受ケ營業不能ニ陷リタル爲休業三日ヲ超エタルトキ

四　使用者官廳又ハ公共團體ナルトキ

## 第六章　雜則

第六十二條　市長第二十二條ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ當日開市時刻迄ニ之ヲ市場内ニ公示シ又ハ卸賣人ヲシテ之ヲ公示セシム

第六十三條　賣買値段ノ公示ハ標準品ニ付産地、等級及賣買時刻ヲ分チ當日及開市日ニ於ケル卸賣人ノ販賣値段及市長必要アリト認メタルトキハ仲買人ノ販賣値段ニ依リ之ヲ爲ス前項標準品ノ種類及等級竝賣買時刻ノ區分ハ市長別ニ之ヲ定ム

賣買取引高ノ公示ハ物品ノ種類別毎ニ前開市日ニ於ケル卸賣人ノ賣上高ニ依リ當日ノ開市時刻迄ニ之ヲ爲ス

第六十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ市長ハ卸賣人ニ對シテハ其ノ業務ヲ停止シ若ハ千圓以下ノ過怠金ヲ課シ仲買人又ハ附屬營業人ニ對シテハ其ノ業務許可ヲ取消シ若ハ其ノ業務ヲ停止シ買出人ニ對シテハ其ノ入場ヲ停止スルコトアルヘシ

一　使用料其ノ他本規程ニ依リ本市ニ對スル納付金ヲ納付セサルトキ

二　委託ノ引受、賣買取引、受領物品ニ關スル通知又ハ賣買仕切ニ關シ不正ノ行爲アリタルトキ

三　賣買仕切金、買受代金又ハ第八條ノ規定ニ依ル費用ノ支拂ヲ爲ササルトキ

四　市場ノ業務又ハ市場内ニ於ケル他人ノ業務ヲ妨害シタルトキ

五　前各號ノ外中央卸賣市場ニ關スル法令若ハ本市ノ規定竝之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲アリタルトキ

第六十五條　卸賣人、仲買人及附屬營業人ハ其ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ前條ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六十六條　市長必要アリト認メタルトキハ卸賣人、仲買人又ハ附屬營業人ニ對シ其ノ代理人、雇人ノ解任又ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第六十七條　同一部類ニ屬スル卸賣人ノ全部若ハ一部其ノ資格ヲ失ヒ又ハ其ノ業務ヲ爲ササル場合ニ於テ市長必

要アリト認メタルトキハ市長ニ於テ臨時自ラ其ノ部類ニ屬スル物品ノ卸賣ヲ爲スコトアルヘシ

市長ニ於テ委託販賣ノ引受ヲ爲スニ非サレハ物品ノ供給ヲ受クルコト困難ナル場合ニ於テハ市長ハ第一條所定ノ物品ニ付卸賣ノ業務ヲ爲スコトアルヘシ

第六十八條　本規程ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長別ニ之ヲ定ム

附　則

本規程施行ノ期日ハ市長別ニ之ヲ定ム

別表

| 種別 | 本場 | 神田分場 | 江東分場 |
|---|---|---|---|
| 卸賣人賣場使用料 | 賣上金額ノ千分ノ六及一月三・二七平方米ニ付三圓五十錢　市長必要アリト認メタルトキハ前項ニ拘ラス一月三・二七平方米ニ付十三圓 | 賣上金額ノ千分ノ六及一月三・二七平方米ニ付三圓五十錢　市長必要アリト認メタルトキハ前項ニ拘ラス一月三・二七平方米ニ | 賣上金額ノ千分ノ六及一月三・二七平方米ニ付三圓　市長必要アリト認メタルトキハ前項ニ拘ラス一月三・二七平方米ニ付十圓 |
| 仲買人賣場使用料 | 一月三・二七平方米ニ付六圓 | 一月三・二七平方米ニ付六圓 | 一月三・二七平方米ニ付四圓五十錢 |
| 附屬營業人營業所使用料 | 同　八圓 | 同　八圓 | 同　六圓五十錢 |
| 事務室使用料 | 同　五圓 | 同　五圓 | 同　四圓 |
| 集會所使用料 | 一回ニ付十五圓 | 一回ニ付十五圓 | 一回ニ付十五圓 |
| 荷捌場使用料 | 一月三・二七平方米ニ付二圓 | 一月三・二七平方米ニ付二圓 | 一月三・二七平方米ニ付一圓五十錢 |
| 作業所使用料 | 同　三圓 | | |
| バナナ醗酵室使用料 | 同　三圓五十錢 | 一月三・二七平方米ニ付三圓五十錢 | 一月三・二七平方米ニ付三圓 |
| 芋洗場使用料 | 一月一箇所ニ付百二十圓 | 一月一箇所ニ付百五十圓 | 一月一箇所ニ付百圓 |
| 加工場使用料 | 一月三・二七平方米ニ付一圓五十錢 | | |
| 毛引場使用料 | 一月一箇所ニ付百五十圓 | | |
| 牛馬繋留所使用料 | 一月三・二七平方米ニ付一圓 | 一月三・二七平方米ニ付一圓 | 一月三・二七平方米ニ付一圓 |
| 買荷保管所使用料 | 同　二圓五十錢 | 同　一圓五十錢 | 同　一圓 |
| 荷揚場使用料 | 同　一圓二十錢 | | |
| 縱桟橋使用料 | 一隻ニ付二十四時間迄毎ニ一圓五十錢 | | |
| 横桟橋使用料 | 登簿噸數一噸ニ付二十四時間迄毎ニ二錢 | | |
| 浮桟橋使用料 | 同　二錢 | | |
| 繋船岸壁使用料 | 同　二錢 | | |
| 曳船使用料 | 一時間ニ付五圓 | | |
| 桟橋使用料 | | 一月一箇所ニ付四十圓 | 一月一箇所ニ付四十圓 |
| 倉庫使用料 | 一月三・二七平方米ニ付四圓 | 一月三・二七平方米ニ付二圓 | 一月三・二七平方米ニ付二圓 |
| 倉庫保管料 | 一日〇・〇二七八立方米ニ付一錢五厘　一日三・七五瓩ニ付五厘 | | |
| 冷藏庫使用料 | 一月三・二七平方米ニ付二十圓 | 一月三・二七平方米ニ付二十圓 | 一月三・二七平方米ニ付二十圓 |
| 冷藏庫保管料 | 一日〇・〇二七八立方米ニ付五錢　一日三・七五瓩ニ付一錢五厘 | 一日〇・〇二七八立方米ニ付五錢　一日三・七五瓩ニ付一錢五厘 | 一日〇・〇二七八立方米ニ付五錢　一日三・七五瓩ニ付一錢五厘 |
| 冷凍手數料 | 三・七五瓩ニ付五錢 | | |
| 空地使用料 | 一月三・二七平方米ニ付一圓 | 一月三・二七平方米ニ付一圓 | 一月三・二七平方米ニ付八十錢 |
| 其ノ他ノ設備使用料 | 同　五圓 | 同　五圓 | 同　四圓 |

説明　本市中央卸賣市場築地本場近ク竣功ノ豫定ナルヲ以テ本場竝神田、江東兩分場ヲ中央卸賣市場法ニ基キ業務開始スルニ依リ前記ノ通業務規程ヲ設定スルモノトシ本案ヲ提出ス

昭和年間　第參章　昭和八年　第拾貳節　市場及産業問題

（參照）

## 中央卸賣市場法（大正十二年三月二十九日公布 法律第三十二號）

第一條　本法ニ於テ中央卸賣市場トハ地方公共團體又ハ特別ノ事情アル場合ニ於テハ民法第三十四條ノ規定ニ依ル法人カ魚類、肉類、鳥類、卵、蔬菜及果實ノ卸賣ヲ爲ス爲主務大臣ノ指定スル都市及其ノ隣接地ニ於テ本法ニ依リ開設スル市場ヲ謂フ

中央卸賣市場ニ於テハ特別ノ事情アル場合ニ於テハ前項ニ掲クル物品ノ一部ノ卸賣ヲ爲サス又ハ其ノ他ノ日用品ノ卸賣ヲ爲スコトヲ得

第二條　中央卸賣市場ヲ開設セムトスルトキハ業務規程及事業計畫ニ關スル書類ヲ具シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ中央卸賣市場ノ分場ヲ設置セムトスルトキ亦同シ

第三條　左ニ掲クル事項ハ業務規程ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

一　中央卸賣市場ノ取扱品目

二　中央卸賣市場ノ收受スル使用料、保管料及手數料

三　卸賣ノ業務ヲ爲ス者ノ收受スル手數料

第四條　業務規程又ハ事業計畫ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　主務大臣必要アリト認ムルトキハ第二條ノ規定ニ依ル認可ヲ與フルニ當リ之ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第六條　主務大臣ハ第二條ノ規定ニ依ル認可ヲ與フルトキハ其ノ中央卸賣市場ノ業務ノ開始ニ至ル迄ノ間ニ於テ開設者ノ意見ヲ聞キ其ノ中央卸賣市場ノ取扱品目ニ付當該指定區域内ニ於テ中央卸賣市場類似ノ業務ヲ爲ス市場ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得中央卸賣市場ノ取扱品目ヲ追加スルトキ亦同シ

第七條　開設者ハ前項ノ規定ニ依リ閉鎖ヲ命セラレタル市場ノ開設者及卸賣ノ業務ヲ爲ス者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ損失ヲ補償スヘシ

前項ノ規程ニ依リ補償スヘキ金額ハ當事者ノ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムヘシ地方長官ノ決定ニ不服アル者ハ決定書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ起算シ九十日内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八條　主務大臣ハ開設者ニ對シ命令ノ定ムル設備ニ要スル費用ノ三分ノ一以内ノ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第九條　主務大臣ハ開設者カ法令若ハ補助ニ附シタル條件ニ違反シ又ハ之ニ基キテ爲シタル處分ニ從ハサルトキハ之ニ對シ補助金ノ全部又ハ一部ヲ交附セサルコトヲ得



第十條　地方長官ノ許可ヲ受ケタル者ハ中央卸賣市場ニ於テ卸賣ノ業務ヲ爲スコトヲ得

第十一條　前條ノ規定ニ依リ卸賣ノ業務ヲ爲ス者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ開設者ニ保證金ヲ納付スヘシ

第十二條　開設者ハ中央卸賣市場ノ收受スル使用料、保管料及手數料ニ關シ保證金ニ付他ノ債權者ニ對シ優先權ヲ有ス

前項ノ優先權ハ第十三條ノ規定ニ依ル優先權ニ優先ス

第十三條　第十條ノ規定ニ依リ卸賣ノ業務ヲ爲ス者ニ對シ販賣又ハ販賣ノ委託ヲ爲シタル者ハ販賣又ハ販賣ノ委託ニ因リテ生シタル債權ニ關シ其ノ卸賣ノ業務ヲ爲ス者ノ保證金ニ付他ノ債權者ニ對シ優先權ヲ有ス

第十四條　中央卸賣市場ニ於テ爲ス賣買ニ付テハ卸賣ノ方法ニ依ルヘシ但シ業務規定ノ定ムル特別ノ事情アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　第十條ノ規定ニ依リ卸賣ノ業務ヲ爲ス者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ開設者ニ對シ賣買値段及取引高ヲ報告スヘシ

第十六條　開設者ハ業務規程ノ定ムル所ニ依リ第十條ノ規定ニ依リ卸賣ノ業務ヲ爲ス者ニ對シ其ノ業務ヲ停止シ若クハ千圓以下ノ過怠金ヲ課シ又ハ賣買ニ參加スル者ノ入場ヲ停止スルコトヲ得

第十七條　主務大臣必要アリト認ムルトキハ中央卸賣市場ノ構造、設備、業務規程ノ變更、業務又ハ財産狀況ノ報告其ノ他ニ關シ事業ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十八條　主務大臣ハ開設者又ハ卸賣ノ業務ヲ爲ス本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ、業務規程ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　第二條ノ規定ニ依ル認可ノ取消

二　中央卸賣市場ノ業務ノ停止

三　卸賣ノ業務ヲ爲ス者ノ業務許可ノ取消又ハ業務ノ停止

四　第一條ノ法人ノ役員ノ解任

第十九條　主務大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ官吏ヲシテ開設者又ハ卸賣ノ業務ヲ爲ス者ノ業務及之ニ關スル帳簿、財産其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

第二十條　中央卸賣市場ノ廢止ハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條　主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依ル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

昭和年間　第參章　昭和八年　第拾貳節　市場及産業問題

第二十二條　第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ第十五條ノ規定ニ基ク報告ヲ爲サス若ハ虚僞ノ報告ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　第六條ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル者又ハ第十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲スヘキ義務アル者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ前條ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條　第六條ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル者又ハ第十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲スヘキ義務アル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者右命令又ハ義務ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十五條　法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者第六條ノ規定ニ依ル命令又ハ第十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲スヘキ義務ニ違反シタルトキハ第二十二條ノ罰則ハ之ヲ法人ニ適用ス

第二十六條　第一條ノ法人又ハ第十條ノ規定ニ依リ卸賣ノ義務ヲ爲ス者第十九條ノ規定ニ依ル檢査ヲ受クル場合ニ於テ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者ハ檢査ノ際當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條　第一條ノ法人ノ役員其ノ職務ニ付賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若ハ約束シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第二十八條　前條第一項ノ者ニ賄賂ヲ交附シ、提供シ又ハ約束シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本案ハ七月二十日ノ會議ニ上程、**天野賴義君**ノ動議ニ據リ、議長指名二十五名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

豐島茂一　黑田保次　中西敏二　長野高一　小針孫太郎
鈴木堅次郎　高木惣市　野波淳　横溝直也　花村四郎
淺草區選出加藤榮助　笠井重治　鏑木由七郎　糟谷磯平　田仲忠左衛門
廣瀨喜之助　小宮次郎七　鈴木正之助　高崎高次郎　辰野保
深澤豐太郎　早川庄太郎　林連　酒井熊次郎　杉野善作

委員ハ**早川庄太郎君**ヲ委員長ニ推シテ愼重審査中、十月二十日ノ會議ニ於テ、**鈴木堅次郎君**ヨリ委員三名增員ノ緊急動議提出アリ、滿場異議ナク鈴木君ノ動議成立シ、議長ハ左ノ如ク選定セリ。

桑原信助　淺香銀治郎　瀧澤龍太郎

委員ハ引續キ審査ノ末、翌九年二月十六日ノ會議ニ於テ、左記ノ希望條件ヲ附シ、別紙ノ如ク修正議決シタル旨報告、滿場異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

希　望

一　場外ノ川魚業者ハ之ヲ築地本場魚類部ニ收容スルコト

一　休業日ヲ細則ニ於テ定ムル場合ハ毎年一月一日及三日ヲ休業日トシ一月二日及十二月三十一日ハ休業日トセサルコト

一　使用料ノ決定ニ付テハ中央卸賣市場調査委員タル市會議員ノ會議ニ諮問シ適當ニ定ムルコト

一　使用料ヲ完納セシムル爲適當ナル處置ヲ講スルコト

（別　紙）

（右傍ノ◎印ハ委員會ノ修正朱書　左傍ノ――印ハ原案削除）

第二條　取扱品目ノ部類及各部類ニ屬スル物品左ノ通トス

本　場

魚類部　鮮魚介類、鹽干魚介類、海獸肉類、海藻類及其等ノ製品

青果部　蔬菜類、果實類、菌茸類及其等ノ製品
肉類部　獸肉類及其ノ製品
鳥類部　食鳥類及其ノ製品
鳥卵部　食鳥類、卵及其等ノ製品

神田分場

青果部　蔬菜類、果實類、菌茸類及其等ノ製品

江東分場

青果部　蔬菜類、果實類、菌茸類及其等ノ製品
取扱物品ノ屬スヘキ部類ニ疑アルトキハ市長之ヲ決定ス

第三條　開市ノ時間左ノ通トス

魚類部　自午前四時至午後二時
青果部　自午前四時至正午
肉類部　自午前五時至午後三時
鳥類部　自午前五時至午後三時
鳥卵部　自午前五時至午後三時

前項ノ時間ハ市長必要アリト認メタルトキハ臨時之ヲ變更スルコトアルヘシ

第十五條　各部卸賣人ノ員數左ノ通トス



本場

魚類部　一人　魚類一般ヲ取扱フ者
　　三人以内　川魚ノミヲ取扱フ者

青果部　一人　青果一般ヲ取扱フ者
　　二人以内　臺灣青果ノミヲ取扱フ者
肉類部　一人　漬物及之ニ準スル製品ノミヲ取扱フ者
鳥類部　二人以内

鳥卵部　一人　二人以内

神田分場

青果部　青果一般ヲ取扱フ者
　　三人以内　漬物及之ニ準スル製品ノミヲ取扱フ者

江東分場

青果部　二人以内

第十八條　卸賣人ノ納付スヘキ保證金ハ左ノ範圍内ニ於テ市長別ニ之ヲ定ム

本場

魚類部　二十萬圓
青果部　二萬五千圓

| | |
|---|---|
| 肉類部 | 三千圓 |
| 鳥類部 | 三千圓 |
| 鳥卵部 | 五八〇千圓 |
| 神田分場 | |
| 青果部 | 五萬圓 |
| 江東分場 | |
| 青果部 | 二萬圓 |

前項ノ保證金ハ本市市債其ノ他ノ有價證券ヲ以テ代用スルコトヲ得但シ有價證券ノ種類及價格ハ市長別ニ之ヲ定ム

第四十六條　買出人糶賣又ハ入札賣ノ方法ニ依ル卸賣ニ參加セムトスルトキハ市長ノ許可ヲ受クヘシ

市長ハ前項ノ許可ヲ與フルニ當リ必要アリト認メタルトキハ關係卸賣人組合若ハ卸賣人ノ意見ヲ聞クコトアルヘシ

第一項ノ許可ヲ得タル者ハ保證金ヲ納付スヘシ但シ市長ノ特ニ免除シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項保證金ノ額ハ百圓ヲ下ラサル範圍内ニ於テ市長別ニ之ヲ定ム

第十七條第二項並第四十二條第一項及第二項ノ規定ハ本條ノ保證金ニ付之ヲ準用ス

▽**産業統制ニ關スル質疑應答**　十月二十日ノ會議ニ於テ**川田友之君**ハ市理事者ニ問ウテ曰ク、英國ニ於テ所謂「コンツロール・オブ・インダストリー」トハ、定義上ヨリスルモ其意義多岐ニ亙リ、消極的統制ナリヤ、將又積極的統制ナリヤ、或ハ又「カルテル」的統制カ、「トラスト」的統制カ、質問ニ類別ノ必要ヲ生ズ、更ニ重要産業統制法、輸出組合法、工業組合法等ノ關係モアリ、且ツ本市ニ於テモ目下産業上ノ協同及ビ統制ニ關スル諸調査ヲ行ヒ居ルヲ以テ、本員ハ今日稍ミ方向ヲ轉ジ、海外貿易價値ヨリ見タル生産都市建設ニ就テ、理事者ノ所見ヲ聽カント欲ス。東京市ハ市郡合併ノ結果、今ヤ一躍シテ東洋第一ノ生産都市トナリ、其産業ハ大阪ノ壘ヲ摩シ、六年度ノ統計ニ據レバ、舊市域ハ四億七百萬圓、新市域ハ四億參千八百萬圓、合計八億四千五百萬圓ノ大生産アリ、其生産ノ總額ニ於テ、化學工業ヲ第一トシ、續イテ機械工業、食料品工業、紡織工業、金屬工業等ニテ、尙ホ其他種々雜多ノ産業ハ勃興セリ、今之ヲ商業價値上ヨリ見、海外輸出向、內國移出向、地元消費向等ニ類別スル時ハ、頗ル興味アル數字ト、將來ノ傾向トヲ示セリ。東京製ノ輸出商品ハ海外各地ニ於テ、到ル處ニ名聲ヲ博シ、大阪ノ製品ヲ凌駕セリ、然ルニ東京製ノ內地移出向商品ハ、質ニ於テ優ルモ生産統制ニ缺陷アリ、爲ニ同種同質ノ商品ヲ多量ニ得ル能ハズ、此ノ點大阪商品ニ劣レリ。尙ホ東京市民ハ是等生産品ノ地元ニ在ルノ故ヲ以テ、徒ニ一等品ヲ要求スル嫌ヒアリ、若シ夫レ此ノ惡慣習ヲ助長セシムルガ如キ事アラバ、將來ハ寒心ノ至リニ堪ヘズ、吾ガ東京市民ハ市理事者ト云ハズ、市會議員ト云ハズ、市民一般、個人的ニモ、集團的ニモ、優良商品ノ海外輸出ヲ盛ニシ、以テ互ヒニ富ノ增加ヲ計ルヤウ心懸ケザルベカラズ、然ラズンバ幾年幾十年後ニ及ブモ、到底本市ヲ富裕ナル貿易都市ト爲ス能ハズ、今ヤ東京製品ハ世界到ル處ニ名聲ヲ博シ、海外貿易ヲ盛ニスベキ絶好ノ機會ナリ、仍テ敢テ問フ、此ノ輸出向商品ニ對シ、將來ノ助長又ハ取引上急變動等ノアリタル場合、市理事者ハ統制上如何ナル對策ヲ考慮シ居レリヤ。尙ホ本市ヲシテ生産都市トシテ發展セシムルニハ、築港問題ニ對シ更ニ一段ノ考慮ヲ要ス、即チ隅田川以東ノ中川、江戸川ヲ中心ニ、本市現

在ノ工場密集地ハ、東北ノ工場地帶ト聯絡ヲ保タシメ、越中島乘込線ノ完成ト相俟テ、千葉、茨城、栃木、群馬、新潟、福島等諸方面ヨリノ製品ヲ東京市ニ移シ、未製品ハ此處ニ加工シ、精製シ、優良品トシテ包裝シ、以テ東京港ヨリ盛ニ海外ヘ輸出シ得テ、玆ニ始メテ東京貿易港ハ完成シタリト云ヒ得ルナリ、仍テ此ノ生産貿易都市建設ニ對シ理事者ハ如何ナル考ヘヲ有セリヤ、併セテ其所見ヲ質サント欲スト。助役**澤本興一君**答ヘテ曰ク、從來消費都市タリシ東京市ガ、市域擴張ト共ニ一躍シテ産業都市トナリタルハ、川田君ノ言ノ如シ、仍テ市理事者ハ産業上ノ指導奬勵ニ付適應ノ處置ヲ執ルベク來年度豫算中ニ、右ニ關スル費用ヲ計上シテ諸君ノ協賛ヲ得ント欲ス。從來本市産業上ノ顧客ハ主トシテ東北方面ナリシモ、同地ハ打續ク饑饉其他ノ事情ニテ需要激減シ、本市ノ産業ハ爲ニ大打撃ヲ被リタルハ、諸君モ既ニ熟知サルヽ所ナリ。今後之レニ代ルベキハ滿蒙ナラザルベカラズト考ヘ、其方面ニ關シ相當調査ヲ爲セリ、例ヘバ滿洲トノ貿易ヲ助長スル爲ニハ、大連汽船ヲ東京港ニ招致スルガ如キ、其最モ手近ナル一例ナルガ、此ハ税關出張所設置ノ必要等モアリ、理事者ハ目下夫々研究中ナリ、又産業部ヲ擴張シテ其機能ヲ發揮セシムベク、是レ亦近ク案ヲ具シテ諸君ノ協賛ヲ求メント欲ス、即チ部ヲ局トシ、課ヲ增設シテ、活動ニ支障ナキ設備ヲ爲ス考ヘナリト。

▽**中央卸賣市場及屠殺場統制ニ關スル質疑應答**　次デ十月二十七日ノ會議ニ於テ**仲澤芳朗君**ハ、目下委員付託中ノ中央卸賣市場問題ニ關シ、先般來頻々トシテ理事者竝ニ市會議員ニ對シテ、問屋ノ單數ハ不可ナルヲ以テ複數ヲ認メラレタシトノ陳情請願アリ、理事者ハ是等陳情請願ニ耳ヲ傾クル意アリヤ否ヤ。尙ホ理事者ハ近ク品川區ノ北方芝高濱町ニ屠殺場ヲ設ケテ、其統制ヲ圖ル考ヘナリト聞ク、而モ建物ハ東京市ニ於テ建設シ、其經營ハ從來ノ會社ヲシテ爲サシムルナリト、果シテ然ラバ獨占事業ノ弊ヲ生ジ、吾々五百萬市民ハ高價ナル肉ヲ食セザルベカラズ、仍テ組合ヲシテ之ヲ經營セシムレバ、利害ハ共通スル關係上、吾々ハ廉價ナル肉ノ供給ヲ受ケ得ベシ、理事者ノ所見如何ト質シタルニ對シ。産業部長**荒木猛君**ハ、目下市會ノ委員會ニ於テ審議中ノ業務規程原案ニハ、青果市場二人以内、魚市場一人トナリ居レリ、要スルニ當局トシテハ、單複何レニテモ可ナリトノ方針ナリ。屠場ハ現在三河島其他ニテ四箇所ニ分散シ居ルヲ一箇所ニ統一スベク、芝浦地先ニ屠場建設ノ豫定ナルガ、之レガ完成ノ曉ニハ四箇ノ會社ガ合併スベキハ豫想サルヽモ、屠殺事業ハ屠殺請求者ノ請求ニ依リ、一定ノ料金ヲ徵シテ屠殺行爲ヲ爲スモノニテ、其料金ハ現在以上ニ增サシメザル豫定ナリ、故ニ屠場ヲ統制スルモ其爲ニ消費者ニ對シテ高價ノ肉ヲ供給スル事ナカルベシト信ズト答ヘタリ。

▽**産業ニ關スル物價統制機關設置ノ建議**　左記建議ハ十月二十七日ノ會議ニ上程、異議ナク即決可決セリ。

一、産業ニ關スル物價統制機關設置ノ建議

右提出候也

昭和八年十月十八日

提出者

石原勘右衞門　杉野善作　酒井熊次郎
萩島茂留　石原永明　川手忠義
辰野保　鏑木由七郎　朝倉虎治郎
天野頼義　田中源　内田秀五郎
鈴木義顯　山口久太郎　丸山秀天

小野利三郎　廣瀬喜之助　鏑木小平次
松永東　中西敏二

東京市會議長森俊成殿

産業ニ關スル物價統制機關設置ノ建議

市域擴張ニ伴ヒ本市ハ舊殼ヲ脱シ産業狀態ニ於テ躍進著シク今ヤ名實共ニ本邦第一ノ産業都市化セリ從テ本市ハ將來之カ施設經營ニ萬全ノ努力ヲ注ク可キハ冗言ヲ要セサル所ナリ

飜テ尨大三十五方里五百五十萬市民ヲ抱擁スル本市ノ諸物價消費狀況ヲ按スルニ其種類ト量夥多ナル事他都市ニ其ノ比ヲ見サルナリ即チ本市ハ客年十月新ニ六十三萬世帶人口三百三十萬ヲ加ヘ市民消費ノ基調ヲナス中小商業者モ亦從前ニ倍加セリ

然ルニ新市域ニ於ケル物價ハ現下經濟界ノ不況ニ禍サレ販路ノ維持ト顧客ノ爭奪トノ爲メ激烈ナル競爭ヲ極メ物價ハ稀ニ見ル變調ヲ來シ其ノ歸スル所ヲ知ラサルモノヽ如シ之本市産業部カ試買セル成績ニ徵スルモ瞭ナリ

斯ノ如キハ本市産業發展ノ前途ニ一抹ノ暗影ヲ投スルト共ニ市民消費經濟ノ根本ヲ破壞シ加之一面ニ於テハ中小商業者ノ正當ナル利益モ蹂躙セラレ遂ニハ同業者ノ共食ヒ共倒レノ悲慘ナル結果ヲ招來スルノ虞レナシトセス之眞ニ本市將來ノ爲メ寒心ニ堪エサルナリ

仍テ理事者ハ速ニ之カ調査研究ヲ遂ケラレ物價統制ニ關スル機關ノ具體案ヲ市會ニ提出セラレムコトヲ望ム

右建議ス

# 第拾參節　電氣事業

▽**電氣事業整理費起債ニ關スル件**　左記議案ハ一月二十五日ノ會議ニ上程、異議ナク可決セリ。

第四十二號

東京市電氣事業整理費起債ニ關スル件

一　起債金額　二百五十一萬七千四百圓
　但シ公募ノ場合ハ券面二百六十四萬九千九百圓以内トス

二　起債ノ目的　電氣軌道事業財政整理資金ニ充當

三　利率　年六分以内

四　起債ノ方法　借入又ハ公募但シ公募ノ場合ハ銀行又ハ信託業者ヲシテ引受發行セシムルコトヲ得
　本起債ノ時期適當ナラサルトキハ利子年率六分五厘以内償還期限五年以内ノ短期債ヲ起スコトヲ得
　前項ノ短期債ハ本公債募集金及其ノ他收入ヲ以テ之ヲ償還ス
　短期債ヲ起ス場合ト雖別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス

五　起債ノ時期　昭和七年度但シ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

六　償還ノ期間及方法　昭和十二年度以降昭和三十一年度迄ニ之ヲ償還ス

債券發行ノモノニ付テハ一部償還ハ抽籤ノ方法ニ依リ若ハ買入銷却ヲ爲スコトヲ得

市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ又ハ償還年限ヲ短縮シ若ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

七　元利支拂資源　電氣事業收入、國庫補給金及一般歳入

八　借入又ハ公募ニ關シ必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

說明　電氣軌道事業費經濟所屬既定ノ外債元利金支拂ニ當リ其ノ當時ノ對外爲替相場ヲ以テシテハ同經濟ノ收支ニ不足ヲ生スルヲ以テ之カ支拂資源ノ一部ヲ起債ニ需ムルモノトシ第十九號議案ニ伴ヒ本案ヲ提出ス

（償還年次表略ス）

（參照）同日ノ會議ニ上程、原案通可決サレタル第十九號議案ハ左ノ如シ

第十九號

昭和七年度東京市電氣軌道事業費歳入出追加更正豫算

歳入

| | | |
|---|---|---|
| 一金參千參百八拾九萬五千貳百五拾五圓 | 既定歳入豫算高 | |
| 一金參千六百四拾壹萬貳千六百五拾五圓 | 追加更正歳入豫算高 | |

歳出

| | | |
|---|---|---|
| 一金千六百八萬千百六拾七圓 | 既定臨時部豫算高 | |
| 一金千八百六拾萬五千五百六拾七圓 | 追加更正臨時部豫算高 | |

既定合計金參千參百八拾九萬五千貳百五拾五圓

追加更正合計金參千六百四拾壹萬貳千六百五拾五圓

（更正豫算表略ス）

說明　爲替相場變動ニ依ル市債費增加及事業資金一時借入金利子支出ノ爲收支ノ均衡ヲ失スルニ至リタルヲ以テ經費ノ節減ヲ計ルト共ニ收支不足補塡財源ヲ公債ニ需ムルモノトシ本案ヲ提出ス

次デ五月十三日ノ會議ニ於テ左記議案ヲ上程、**鈴木堅次郎君**ノ動議ニ據リ、第百二十五號議案（昭和八年度電氣軌道事業費歳入出追加豫算「本章第拾八節特別會計ニ屬スル豫算ノ項中第拾四項參照」）ト共ニ同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、五月三十一日ノ會議ニ於テ原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第百二十七號

東京市電氣事業整理費起債ニ關スル件

一　起債金額　六百三十二萬二千七百圓

但シ公募ノ場合ハ券面六百六十五萬五千五百圓以內トス

二　起債ノ目的　電氣軌道事業財政整理資金ニ充當

三　利率　年六分以內

四　起債ノ方法　借入又ハ公募但シ公募ノ場合ハ銀行又ハ信託業者ヲシテ引受發行セシムルコトヲ得

本起債ノ時期適當ナラサルトキハ利子年率六分五厘以內償還期限五年以內ノ短期債ヲ起スコトヲ得

前項ノ短期債ハ本公債收入金及其ノ他收入ヲ以テ之ヲ償還ス

短期債ヲ起ス場合ト雖別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス

五　起債ノ時期　昭和八年度但シ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

六　償還ノ期間及方法　昭和十三年度以降昭和三十二年度迄ニ之ヲ償還ス

債券發行ノモノニ付テハ一部償還ハ抽籤ノ方法ニ依リ若ハ買入銷却ヲ爲スコトヲ得

市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ又ハ償還年限ヲ短縮シ若ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

七　元金支拂資源　電氣事業收入、國庫補給金及一般歳入

八　借入又ハ公募ニ關シ必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

說明　第百二十五號議案ニ伴ヒ本案ヲ提出ス

（償還年次表略ス）

▽**第二回電氣事業整理費起債ニ關スル件**　左記議案ハ一月二十五日ノ會議ニ於テ、**小澤佐重喜君**ノ動議ニ據リ、昭和八年度電氣軌道事業歳入出豫算（本章第拾八節第壹項參照）調査委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、三月八日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第四十一號

東京市第二回電氣事業整理費起債ニ關スル件

一　起債金額　二百八十一萬一千九百圓

但シ公募ノ場合ハ券面二百九十六萬百圓内トシ尚爲替相場ニ於テ對英一志四片對米二十三弗ニ對シ增減アリタルトキハ其ノ限度ニ於テ起債金額ヲ更改スルコトヲ得ルモノトス

二　起債ノ目的　電氣軌道事業財政整理資金ニ充當

三　利率　年六分以内

四　起債ノ方法　借入又ハ公募但シ公募ノ場合ハ銀行又ハ信託業者ヲシテ引受發行セシムルコトヲ得

本起債ノ時期適當ナラサルトキハ利子年率六分五厘以内償還期限五年以内ノ短期債ヲ起スコトヲ得

前項ノ短期債ハ本公債募集金及其ノ他收入ヲ以テ之ヲ償還ス

短期債ヲ起ス場合ト雖別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス

五　起債ノ時期　昭和八年度但シ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

六　償還ノ期間及方法　昭和十三年度以降昭和三十二年度迄ニ之ヲ償還ス

債券發行ノモノニ付テハ一部償還ハ抽籤ノ方法ニ依リ若ハ買入銷却ヲ爲スコトヲ得

市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ又ハ償還年限ヲ短縮シ若ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

七　元利支拂資源　電氣事業收入、國庫補給金及一般歳入

八　借入又ハ公募ニ關シ必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

說明　電氣軌道事業費經濟ニ於ケル現下ノ財政狀態ニ鑑ミ昭和八年度收支不足額補塡資源ヲ起債ニ需ムルモノトシ本案ヲ提出ス

（償還年次表略ス）

▽**第八回電氣事業公債條例中改正ノ件**　左記議案ハ七月二十日ノ會議ニ上程、異議ナク可決セリ。

第百八十七號

東京市第八回電氣事業公債條例中改正ノ件

東京市第八回電氣事業公債條例（第七卷參百五拾五頁及ビ同卷七百四拾頁參照）中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第五條中「第八條ノ二」ノ次ニ「、第八條ノ三」ヲ加フ

第八條第二項中「本公債募集金」ノ次ニ「及其ノ他ノ收入」ヲ加フ

第八條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

短期債ヲ起ス場合ト雖別表償還年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス

第八條ノ三　前條ノ短期債償還ノ爲本公債ヲ募集スルニ當リ其ノ時期適當ナラサルトキハ前條ノ規定ヲ準用シ更ニ償還期限五年以內ノ短期債ヲ起スコトヲ得

第十九條第二項中「第八條ノ二、」ノ次ニ「第八條ノ三、」ヲ加フ

說明　本公債條例第八條ノ二ニ依ル短期債償還ノ爲本公債ヲ發行スルニ當リ其ノ時期適當ナラサルトキハ更ニ短期債ヲ起シ得ルノ途ヲ拓クモノトシ本案ヲ提出ス

▽**第九回電氣事業公債條例中改正ノ件**　左記議案モ七月二十日ノ會議ニ於テ、異議ナク即決可決セリ。

第百八十八號

東京市第九回電氣事業公債條例中改正ノ件

東京市第九回電氣事業公債條例（本卷第貳章第九節第參百五拾六頁參照）中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス第五條第二項中「第八條」ノ次ニ「、第八條ノ二」ヲ加フ

第八條「第二項」ノ次ニ「左ノ一項」ヲ加フ

短期債ヲ起ス場合ト雖別表ノ償還年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス

第八條ノ二　前條ノ短期債償還ノ爲本公債ヲ募集スルニ當リ其ノ時期適當ナラサルトキハ前條ノ規定ヲ準用シ更ニ償還期限五年以內ノ短期債ヲ起スコトヲ得ス

第十八項第二項中「第八條」ノ次ニ「第八條ノ二」ヲ加フ

說明　本公債條例第八條ニ依ル短期債償還ノ爲本公債ヲ發行スルニ當リ其ノ時期適當ナラサルトキハ更ニ短期債ヲ起シ得ルノ途ヲ拓クモノトシ本案ヲ提出ス

▽**第九回ノ二電氣事業公債條例設定ノ件**　左記議案モ七月二十日ノ會議ニ於テ、原案通即決可決セリ。

第百七十五號

東京市第九回ノ二電氣事業公債條例設定ノ件

東京市第九回ノ二電氣事業公債條例左ノ通設定スルモノトス

東京市第九回ノ二電氣事業公債條例

第一章　總則

第一條　本公債ハ電氣供給事業擴張竝改良ノ經費ニ充ツル爲之ヲ發行ス

第二條　本公債ハ券面四百八十五萬四千圓以內、手取額四百六十一萬圓以內トス

第三條　本公債ノ利率ハ一年百分ノ六以内トス

第四條　本公債各年度發行額、其ノ手取額及利率其ノ他必要ナル事項竝本公債取扱ニ關スル手續ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

## 第二章　募集

第五條　本公債ハ昭和八年度以降二年度内ニ必要ニ應シ之ヲ募集ス但シ第八條ノ規定ニ依リ短期債ヲ起シタルトキハ短期額ノ償還終期迄之ヲ延長ス

各年度發行ノモノノ据置期間及償還終期ハ募集ノ際之ヲ定ム

第六條　本公債發行價格ハ券面百圓ニ付九十五圓以上トス

第七條　本公債ハ銀行又ハ信託業者ヲシテ引受發行セシムルコトヲ得

第八條　本公債發行ノ時期適當ナラス事業資金ニ不足ヲ生スルトキハ當該年度豫定手取額ヲ限度トシテ利子年率六分五厘以内、償還期限五年以内ノ短期債ヲ起スコトヲ得

前項ノ短期債ハ本公債募集金其ノ他收入ヲ以テ之ヲ償還ス

第一項ノ短期債ヲ起スニ付必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

## 第三章　證券

第九條　本公債ニ對シテ發行スル證券ハ無記名利札附トス

第十條　本公債ノ證券又ハ利札ヲ紛失、滅失若ハ汚損シタル者ハ其ノ種類、記號及番號等ヲ明示シテ新證券又ハ新利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十一條　證券又ハ利札滅失ノ證跡明確ナルトキ及汚損シタルモノニ對シテハ直ニ其ノ證券又ハ利札ニ相當スル新證券又ハ新利札ヲ交付ス

證券又ハ利札滅失ノ證跡明確ナラサルトキ及紛失ノ場合ニ於テハ公示催告手續ニ依リ除權判決アリタルトキニ限リ新證券又ハ新利札ヲ交付ス

前項ノ場合ニ於テハ新證券又ハ新利札交付ニ至ル迄ノ間其ノ元利金ノ支拂ヲ停止シ新證券又ハ新利札ヲ發行シタルトキハ前ノ證券又ハ利札ハ之ヲ無效トス

第十二條　新證券又ハ新利札ノ請求及交付ニ要スル費用ハ請求者ノ負擔トス

第十一條第二項ニ依リ新證券又ハ新利札交付ノ場合ニ於テハ請求者ヲシテ其ノ交付ニ因リ生スルコトアルヘキ損害ヲ負擔スル旨ヲ約シ市長ノ相當ト認ムル擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ立テシムルコトヲ得

## 第四章　償還及支拂

第十三條　本公債ノ元金及利子ハ電氣供給事業收入及一般歳入ヲ以テ之ヲ支拂フ

第十四條　本公債ノ元金ハ昭和十三年度以降昭和三十三年度迄ノ間ニ券面額ヲ以テ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ繰上償還ヲ爲シ若ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

一部償還ハ抽籤ノ方法ニ依ル但シ買入銷却ヲ爲スコトアルヘシ

第十五條　本公債ノ利子支拂ハ毎年二回ニ分チ其ノ前六月分ヲ支拂フ但シ發行ノトキハ拂込ノ翌日ヨリ償還ノトキハ償還ノ當日迄日割ヲ以テ計算ス

第十六條　償還ノ期日ヲ定メテ公告シタル公債ノ元金ニハ該期日以後利子ヲ附セス

第十七條　本公債ノ消滅時效ハ元金ニ在リテハ償還期日以後十年、利子ニ在リテハ支拂期日以後五年ヲ以テ完成ス但シ割引ノ方法ヲ以テ發行シタルトキハ五年ヲ以テ完成ス

第十八條　本公債又ハ短期債ハ市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ銀行其ノ他ヨリノ借入金ニ依ルコトヲ得第三條、第八條、第十三條乃至第十六條ノ規定ハ前項ノ借入金ニ之ヲ準用ス

附則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

說明　昭和七年三月三十一日第二十一號ニ基ク電氣供給事業擴張竝改良費ノ財源ハ之ヲ起債ニ需ムルモノトシ曩ニ議決ヲ經タル處政府ニ於テ一應昭和七年度分ノミトシテ更正許可セラレタル爲更ニ昭和八年度以降ノ事業費財源ヲ起債ニ需ムルモノトシ本案ヲ提出ス

（償還年次表略ス）

（參考ノ一）

內務省七東地第一一八號

昭和七年四月二十二日財主發第五一六號稟請起債ノ件左ノ通更正シ許可ス

昭和八年三月三十一日

東京府東京市

內務大臣　男爵　山本達雄

大藏大臣　高橋是清

記

第二條　本公債ハ券面額四百貳萬貳千圓以內手取額參百七拾四萬圓以內トス

第五條　本公債ハ昭和七年度ニ之ヲ募集ス但シ工事進捗其ノ他ノ都合ニ依リ昭和八年度ニ繰越募集スルコトヲ得

前項ノ募集期間ハ第八條ノ規定ニ依リ短期債ヲ起シタルトキハ其ノ償還終期迄之ヲ延長ス

第九條　削除

第十五條中「本公債ノ元金ハ」ノ次ニ「昭和十一年度迄据置キ」ヲ加ヘ「昭和三十三年度迄」ヲ「昭和三十一年度迄」ニ更ム

第十九條第二項中「第九條」削除

（參考ノ二）

申地第一、二一四號

昭和八年三月三十一日

東京市長　殿

東京府內務部長

起債ノ件通牒

客年四月二十二日財主發第五一六號稟請標記ノ件別途更正許可相成候處右ハ差當リ本年分ノミヲ詮議相成タル儀ニ有之候條左記事項御了知ノ上相當措置相成度

記

一、第八條ノ規定ニ依ル短期債ハ可成券面額ヲ以テ募集スルコト若シ右ニ依ラス發行價格ヲ引下ケタル場合ハ其ノ發行差增金ハ本公債募集金以外ノ一般歲入ヲ以テ償還スルコト

一、工事ノ實施ニ當リテハ事務費ノ節減ヲ圖ルハ勿論努メテ工費ヲ節約シ以テ起債減額ノ資ニ充當スルコト

一、償還年次表更正議決ノ上報告スルコト

（備考　本卷第貳章第九節第貳項東京市第九回電氣事業公債條例設定ノ件參照）

## ▽電氣事業ニ關スル質疑應答

昭和年間　第參章　昭和八年　第拾參節　電氣業事

十月二十日ノ會議ニ於テ、**淺川保平君**ハ市理事者ニ問ウテ曰ク、昭和八年度ニ於ケル

電氣事業ハ、大略壹千萬圓ノ缺損アリト仄聞ス、本員ノ此ノ傳聞ニシテ若シ果シテ事實ナリトセバ、由々シキ大問題ニシテ、吾々市會議員始メ全市民ハ、其内容ヲ詳細ニ檢討シ、由テ以テ將來ノ對策ヲ樹立セザルベカラズ、而モ其ハ現下ノ一大急務ナリト考フ、仍テ理事者ハ電車軌道經濟ニ於テ幾許ノ損失アリ、爲替差損金ハ幾許ニシテ、鐵道省ヨリノ補助金五拾萬圓ハ、如何ナル理由ニテ交付ナキヤ、又電燈事業ヨリノ繰入ハ如何ナル理由ニテ減額シタリヤ等、詳細ニ亙リ腹藏ナキ答辯アランコトヲ望ム、是レ本員ノ質問ノ第一ナリ。第二、昭和八年度豫算ニ計上セル鐵道省ヨリノ補助金五拾萬圓ハ、昭和八年度ハ勿論、昭和九年度ニモ交付アルヤ否ヤ疑問ナリ、元來鐵道省ニ於テ言明ヲ與ヘザル補助金ヲ豫算ニ計上スルガ如キハ、輕率ニシテ、本市ノ豫算ハ杜撰極ルモノト云ハザルベカラズ、理事者ノ所見如何。第三、昭和八年度豫算審議ノ際、乘車料收入ニ關シ、市理事者ハ貳千百萬圓ヲ見込ミタルモ、吾々ハ前年來ノ實收入ニ徵シ、昭和八年度モ壹千九百萬圓程度ノ收入ナルベシト考ヘ、電氣局理事者ニ念ヲ押シタルニ、電氣局理事者ハ貳千百萬圓ノ收入ハ確實ナルベシト言明セリ、然ルニ最近ノ實情ハ如何、理事者ノ見込ハ恐ク參百萬圓程度ノ減收ヲ來スベキ情勢ニアラズヤ、此ハ蓋シ電氣事業ニ付一般經濟界ト社會ノ實情トニ對スル電氣局當事者ト市理事者トノ認識不足ニ原因スルモノナルベシ、既ニ參百萬圓ノ增加ヲ見込ムガ如キ誤リタル認識ヲ有スル現電氣局當事者ト市理事者トガ其考ヘヲ改メザル限リ、今後幾年ヲ閱スルモ、電氣事業ノ改革ハ到底不可能ナルベシト考フ、市理事者ハ認識問題ニ關シ新シキ意見ヲ有スルヤ否ヤ。第四、牛塚市長ハ就任後既ニ相當日時ヲ經過セルヲ以テ、市政上ノ問題ニ關シ充分研究セリト考フ、然ルニ未ダ市長ノ大方針ヲ聽クヲ得ザルハ遺憾ナリ、本市電氣局ノ改革問題ハ市民一般ノ重大關心事タリ、仍テ此際電氣局ノ改革ニ對スル市長ノ方針ヲ當市會ヲ通ジテ五百萬市民ニ告知サレンコトヲ望ム。電氣局長**立石信郎君**先ヅ答ヘテ曰ク、昭和八年度ハ未ダ經過セザルヲ以テ正確ナル數字ヲ示ス能ハザルモ、電氣事業ノ缺損ハ七、八百萬圓ニシテ、壹千萬圓ニハ上ラザルベシト考フ、此ノ缺損中ノ主ナル項目ハ、爲替差損金貳百八拾萬圓、乘車料收入不足金貳百參拾萬圓、鐵道省ヨリノ補助金五拾萬圓ノ交付實現ヲ見ザルト、土地賣却代金百萬圓ヲ計上シタルモ、未ダ賣却ノ運ビニ至ラザル等ナリ、鐵道省ノ補助金問題ニ就テハ、地方鐵道法ニ補助規定アルモ、軌道法ニハ其規定ナク、東京市ニ對シテハ事情諒トスベキ點アルモ、法律ヲ改正セザルベカラザル必要モ生ズベク、兎ニ角何トカ考慮スベシトノ事ナリキ、仍テ補助ヲ强調スル意味ニ於テ之ヲ豫算ニ計上シタルモノナルガ、不幸今日未ダ其實現ヲ見ルニ至ラザルハ遺憾ナリ、此ノ上ハ諸君ノ助力ヲ得テ其實現ヲ期セント欲ス。乘車料收入貳千百萬圓ヲ計上シタルハ、當時一般ノ景氣恢復モ考慮サレ、又「スピードアップ」ノ實施、運轉「キロ」ノ增加、「バス」ト電車トノ乘換制度ノ新設等ヲ行フ等、種々ナル改善ト自然增收トヲ見込ミテ、此ノ數字ヲ算シタリ、然ルニ「バス」ト電車トモ、電車ニ對シテハ未ダ好影響ヲ受ケズ、然レドモ實收入ハ千九百萬圓程度ト考フ、其間貳百萬圓强ノ減收ヲ見ザルベカラズ、兎ニ角豫算面ニ於テ減收セザルベカラザル不幸事ニ遭遇スルノ已ムナキ狀態ニ陷レリ、電氣事業ノ建直シハ事頗ル重大問題ナルヲ以テ、種々ノ方面ニ亘リ目下鋭意考究中ナリト。次デ助役**澤本興一君**、電氣事業ハ小職ノ主管事務ナルガ、後刻川田君ヨリモ同一趣旨ノ質問アリトノ事ナルヲ以テ、重複ヲ避クル意味ニ於テ、川田君ノ質問ニ對スル答辯ノ際、淺川君ニモ同時ニ答辯セント欲スト答ヘタリ。（註、次項參照）

## ▽電氣事業更生ニ關スル調査委員設置ノ決議案

十月二十日ノ會議ニ於テ、左ノ決議案ヲ上程セリ。

議員提出案審査委員意見報告

一、電氣事業更生ニ關スル調査委員設置ノ決議案（川田友之君外七十四名提出）

委員ハ審査ノ結果原案ヲ可ナリト認メタリ
右報告候也
昭和八年十月二十日

東京市會議長森俊成殿

委員長　安部利七

一、電氣事業更生ニ關スル調査委員設置ノ決議案
右提出候也
昭和八年十月十八日

提出者

川田友之　天野賴義　川手忠義
仲澤芳朗　中村軍平　酒井熊次郎
赤羽彌吾司　倉持忠助　宇田川啓輔
千ヶ崎嘉助　安藤德雄　鏑木由七郎
井田友平　萩島茂留　吉田四郎平
田仲忠左衞門（目黒）　加藤榮助　笠井重治
島田辰太郎　河野惣八　朝倉虎治郎
江口義一　山口久太郎　杉野善作



林連　石原永明　小宮次郎七
丸山秀天　佐藤榮志　田中源
松崎權四郎　大野菊三　廣川弘
桑原信助　鈴木義顯　箱田市藏
有馬秀雄　本多市郎　淺川保平
早川庄太郎　深澤豐太郎　瀧澤龍太郎
篠原虎之輔　花村四郎　野波淳
廣瀨喜之助　辰野保　黑田保次
宮村龜一　鈴木正之助　一又安平
篠房輔　森俊成　代田朝義
島田文治　石原勘右衞門　伊藤仁太郎
綾井樹　畔高定行　森富太
中島勝五郎　黑井直良　渡邊秀雄
松原傳吉　吉田治郎八　小久保時之助
內田秀五郎　小池長太郎　山本半藏
北川榮次郎　糟谷磯平　田中榮藏
富田富治郎　横瀨精一　千ヶ崎嘉助